

CION™

CAMERA OPERATIONS MANUAL



バージョン 1.2

発行日：2015年10月26日

AJA
VIDEO SYSTEMS

目次

商標、著作権、サポート	6
商標	6
著作権	6
サポートへのお問い合わせ	6
本書の内容	7
第 1 章 : 概要情報	8
概要	8
物理的デザイン	8
ハードウェアの接続性	9
オープンアーキテクチャ	9
機能性	10
物理的レイアウト	10
フロント	10
オペレーター側	11
ユーザーインターフェースディスプレイ	12
コネクタ側	13
トップ	14
ボトム	15
リア部	16
第 2 章 : 基本的な接続	17
概要	17
CION の電源	17
AJA 純正 AC/DC 電源ユニットを CION に接続する	17
バッテリープレートを CION に取り付ける	17
CION の電源をオン/オフにする	18
CION にレンズを取り付ける	19
モニタリング機器を CION に接続する	19
フロント部のモニター出力	22
リア部のモニター出力	22
LANC ケーブルを CION のトップハンドル LANC カラーに接続する	24
CION で Pak Media を使用する	25
Pak Media を CION に挿入する	25
Pak Media を CION から取り出す	25
オーディオ機器を CION に接続する	26
第 3 章 : ProRes 収録と Raw 出力	27
概要	27
Apple ProRes 422 と Apple ProRes 444	27
AJA Raw	28
第 4 章 : 基本操作	29
収録	29
収録素材を再生する	30
収録したメディアを再生する	31
メディアのフォーマットとクリップの削除	31
第 5 章 : ユーザーインターフェースの操作	33
概要	33
ユーザーインターフェース画面のデフォルト表示	33

メニュー構造	34
メニューを選択する	34
CONFIG (設定) メニューパラメーター	36
1.3 Progressive Playback (プログレッシブ再生)	36
1.5 Crop SDI 1 ~ 4 Output (クロップ SDI 1 ~ 4 出力)	36
1.6 SDI 1 ~ 4 Output (SDI 1 ~ 4 出力)	36
1.61 SDI 1 ~ 4 RGB Range (SDI 1 ~ 4 RGB 範囲)	37
1.62 SDI 12-bit/10-bit	37
1.64 3G SDI Level (3G SDI レベル)	37
1.66 Rear HDMI Out (リア HDMI 出力)	38
1.68 Rear HDMI 10-bit/8-bit (リア HDMI 10-bit/8-bit)	38
1.8 Crop SDI/HDMI Monitor Output (SDI/HDMI モニター出力のクロップ)	38
1.85 SDI/HDMI Monitoring LUT (SDI/HDMI モニタリング)	39
1.9 Super Out (スーパー出力)	39
1.92 Super Displayed (スーパー表示)	40
1.93 Super Area Opacity (スーパー表示エリアの不透明度)	40
1.94 Graticules (グリッド)	41
1.95 Graticules Color (グリッドカラー)	42
1.97 Display VU Meters (VU メーターを表示)	42
1.98 Histogram (ヒストグラム)	42
1.99 Histogram Mode (ヒストグラムモード)	43
4.1 Analog Audio (アナログオーディオ)	43
6.1 Genlock (ゲンロック)	43
8.0 TC Select (TC 選択)	43
8.1 TC Value (TC 値)	44
8.2 TC Type (TC タイプ)	44
9.0 Interval Record (インターバル撮影)	44
9.1 Interval Frames (インターバルフレーム)	45
9.2 Interval Time (インターバルタイム)	45
41.2 Video SG (ビデオ シグナル)	45
41.3 Audio SG (オーディオ シグナル)	45
50.0 LAN Settings (LAN 設定)	46
50.1 IP Config (IP 設定)	46
50.2 IP Address (IP アドレス)	46
50.3 Subnet Mask (サブネットマスク)	46
50.4 Static Gateway (固定ゲートウェイ)	47
50.5 System Name (システム名)	47
50.6 MAC Address (MAC アドレス)	47
50.9 User Authentication (ユーザー認証)	47
55.4 Date Set (データ セット)	48
55.6 Time Set (時刻設定)	48
55.7 Time Zone (タイムゾーン)	49
55.71 Daylight Savings (サマータイム)	49
70.1 Screen Saver (スクリーンセーバー)	49
70.2 Display Intensity (ディスプレイ輝度)	50
70.3 Fan Speed (ファン速度)	50
80.1 Serial Number (シリアル番号)	50
80.2 SW Version (SW バージョン)	50
91.1 Recall Preset (プリセットのロード)	50
92.1 Store Preset (プリセットのセーブ)	51
99.0 Factory Reset (ファクトリーリセット)	51
MEDIA メニューのパラメーター	51
12.1 Media State (メディアモード)	51
14.1 Encode Type (エンコードタイプ)	52

15.1 Play Media (メディアの再生).....	52
15.2 Loop Play (ループ再生).....	53
15.3 Playlist (プレイリスト).....	53
15.4 Dropped Frames (ドロップフレーム).....	53
16.1 Format Media (メディアのフォーマット).....	53
16.2 Delete Clips (クリップの削除).....	54
16.25 Delete Clip (クリップを削除) : <クリップ名>.....	54
17.0 Preset Reel Name (プリセットリール名).....	54
17.1 Camera Name (カメラ名).....	54
17.2 Clip Name (クリップ名).....	55
17.3 Clip Number (クリップ番号).....	55
17.4 Clip Append (クリップアペンド).....	55
17.5 Alpha Append (Alpha アペンド).....	55
17.6 Take (テイク).....	56
17.7 Combined Name (連結名).....	56
19.1 Use Custom Clip Name (カスタムクリップ名の使用).....	56
19.2 Custom Clip Name (カスタムクリップ名).....	57
19.4 Custom Take (カスタムテイク).....	57
22.1 Gang Clip Name (連動クリップ名).....	57
FPS メニューパラメーター.....	57
23.1 Format (フォーマット).....	57
23.2 Frame Rate (フレーム レート).....	58
23.3 Slow Motion (スローモーション).....	58
フォーマットとフレームレートの設定に関する注意.....	59
EI メニューパラメーター.....	60
24.1 EI.....	60
24.2 Shutter Type (シャッタータイプ).....	61
24.3 Shutter Speed (シャッタースピード).....	61
24.3 Shutter Angle (シャッターアングル).....	62
24.7 Gamma (ガンマ).....	62
WB メニューパラメーター.....	63
25.1 White Balance (ホワイトバランス).....	63
25.2 Auto White Balance (オートホワイトバランス).....	63
25.3 Saturation (彩度).....	63
25.4 Color Correction (色補正).....	64
STATUS (ステータス) メニュー.....	64
警告とアラーム.....	64
第 6 章 : Web ブラウザでのリモート操作.....	66
概要.....	66
Web UI 独自の操作.....	71
ファームウェアをアップデートする.....	71
プリセット.....	73
複数の CION を使用した Gang Recording (連動撮影).....	74
LAN によるデータ転送.....	76
プレイリスト.....	78
第 7 章 : AJA 純正オプションアクセサリーの使用.....	81
概要.....	81
バックフォーカスツール.....	81
フロントベースプレート.....	82
リアベースプレート.....	83
アッパーロッドクランプ.....	83
9 インチ延長アーム.....	84

6 インチ延長アーム	84
ロッド - ロゼットマウント	84
VCT-WEDGE.....	85
VCT-HEEL	85
VCT-HEEL-RBP	85
ビューファインダーマウント.....	86
LANC カラー.....	86
LANC コイルケーブル	87
LANC ケーブル (短).....	87
7 インチ 15mm ロッド.....	87
ハンドグリップ	88
付録資料 A: 仕様	89
ユーザーインターフェース.....	89
センサータイプ	89
センサーサイズ	89
レンズマウント	89
フィルター	89
リムーバブルストレージ	89
ビデオ出力	89
オーディオ入力	89
オーディオ出力	89
リファレンス入力	89
タイムコード	90
ネットワークインターフェース	90
フォーマット / フレームレート / エンコーディング / 出力情報.....	90
露光指数 (EI)	90
ホワイトバランス	91
重量.....	91
電源.....	91
温度範囲	91
本体サイズ	92
付録資料 B: 安全性とコンプライアンス.....	97
連邦通信委員会 (FCC) の準拠に関する通知.....	97
Class B 製品の電波障害に関する情報	97
FCC に関する注意事項.....	97
カナダ ICES 宣言	97
欧州連合および欧州自由貿易連合 (EFTA) 規制の遵守	98
適合宣言	98
韓国 KCC 適合宣言	99
台湾適合宣言	99
適合宣言 (日本).....	99
リサイクルに関する通知.....	100
警告と注意.....	100
製品のご使用前に、以下の注意事項をよくお読みください。.....	100
保証と責任に関する情報.....	107
限定的保証.....	107
限定責任.....	107
索引.....	108

商標、著作権、サポート

商標

AJA®、Io®、Ki Pro®、KONA®、KUMO®、T-TAP®、Because it matters.®、ROI® は、米国 AJA Video Systems, Inc. の登録商標です。AJA および Ki Pro は、米国以外の国や地域で AJA Video Systems, Inc. が登録している商標です。AJA Control Room™、CION™、Corvid Ultra™、FiDO™、Science of the Beautiful™、TruScale™、TruZoom™、V2Analog™、V2Digital™ は、AJA Video Systems, Inc. の商標です。

AirPort、Apple、Apple ロゴ、AppleShare、AppleTalk、FireWire、iPod、iPod touch、Mac、Macintosh は、Apple, Inc. の登録商標です。Final Cut Pro、QuickTime、QuickTime ロゴは、Apple Inc. の商標です。

Avid、Avid DNxHD、Media Composer は、Avid Technology, Inc. の登録商標です。

HDMI、HDMI ロゴ、High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

DVI は DDWG の登録商標です。

TASCAM は TEAC Corporation の登録商標です。

その他のすべての商標は、各所有者に帰属します。

著作権

Copyright © 2015 AJA Video Systems, Inc. 無断複写・転載を禁じます。このマニュアルのすべての情報は、予告なく変更される場合があります。本書のいかなる部分も、複写や記録を含め、形式や手段を問わず、また電子的または機械的であるかを問わず、AJA Video Systems, Inc. の書面による許可なく複製または転送することを禁じます。

サポートへのお問い合わせ

サポートへの電話によるお問い合わせの際は、お電話の前にすべての情報をお手元にご用意ください。

AJA Video のセールスやサポートについては、以下の方法でお問い合わせください。

電話: +1.530.271.3190

FAX: +1.530.271.3140

ウェブ: <http://www.aja.com>

サポート電子メール: support@aja.com

セールス電子メール: sales@aja.com

本書の内容

- 第 1 章** はじめに - ハードウェアの接続性と物理的な配置
- 第 2 章** 基本的な接続 : 電源、レンズ、モニタリング、メディア
- 第 3 章** ProRes 収録と RAW 出力
- 第 4 章** 収録、再生、メディアのフォーマット
- 第 5 章** ユーザーインターフェースの操作 : CONFIG、MEDIA、FPS、EI、WB の各メニューパラメーター
- 第 6 章** Web ブラウザからのリモートコントロールおよび Web UI の操作方法
- 第 7 章** AJA 対応アクセサリーの使用
- 付録資料 A** 仕様
- 付録資料 B** 安全とコンプライアンス

第 1 章 : 概要情報



概要

このマニュアルでは、CION およびオプションのアクセサリーの操作方法について説明します。

CION は 4K/Ultra HD/2K/1080 HD に対応するカメラで、電子グローバルシャッターを含む、APS-C サイズの CMOS センサーを搭載しています。CION はライブビデオ出力だけでなく、Apple ProRes ファイル形式で収録して以下のフォーマットで出力することも可能です。

- 4096x2160
- 3840x2160
- 2048x1080
- 1920x1080

記録した QuickTime ファイルはトランスコードなしで、ノンリニア編集、コンポジット、カラー補正などの各種アプリケーションで使用できます。

物理的デザイン

CION の物理的デザインは、プロダクションにおける様々な環境やニーズに対応するよう、細部まで配慮されています。

- 取り外し可能な PL (Positive Lock) レンズマウントが標準で付属。この PL レンズマウントにより、高品質なプライムレンズやズームレンズの利用が可能になります。
- 統合型 OLPF (光学式ローパスフィルター) と IR (赤外線) カットフィルターを装備。不要なモアレを軽減できるだけでなく、余計な光波長を IR カットフィルターでブロックすることにより、正確なカラーを再現できます。
- 業界標準の Hirth tooth (菊) 型口ゼットで、ハンドグリップなどのアクセサリーを容易に統合。
- 本体のトップ部とボトム部に、取り外し可能な複数のネジ穴付きチーズプレートを装備。これにより、AJA 純正トップハンドルなどのアクセサリーを容易に取り付けることができます。
- マグネシウム製のボディパネルにより、軽量で高い強度を実現。
- CION には独自のコネクタが一切採用されていないため、一般的なケーブルを使用可能。
- CION で収録した映像を確認できる操作ボタンを装備。
- 様々な設定を容易に調整できる専用のメニューボタンを各種装備。
- ユーザーインターフェース調整ノブ 1 つで、ユーザーインターフェースの操作が可能。
- ディスプレイを搭載し、メニュー情報や映像などの確認が可能。

ハードウェアの接続性

幅広いタイプのオーディオ / ビデオコネクタに対応する CION は、他の製品と容易に統合できます。

- 3G SDI/HD-SDI 出力 x 4 (BNC コネクタ x 4)
- 3G SDI/HD-SDI モニター出力 x 2 (フロント : BNC コネクタ x 1、リア : BNC コネクタ x 1)
- HDMI v1.4 出力 x 1 (リア : HDMI v1.4 タイプ A コネクタ)
- HDMI v1.3 出力 x 1 (フロント : HDMI v1.3 タイプ A コネクタ)
- バランスアナログオーディオ入力 x 2 (各端子に line/mic/48v 選択スイッチが付いた 3-pin の XLR コネクタ x 2)
- リファレンス x 1 (BNC コネクタ、アナログ ブラックバースト)
- LTC x 1 (BNC コネクタ、0.5 ~ 4.5Vpp)
- USB x 1 (タイプ A コネクタ、v2.0)
- LANC x 2 (トップ : 2.5mm コネクタ x 1、サイド : 2.5mm コネクタ x 1)
- 2-pin 電源出力コネクタ x 1 (フロントトップマウント、推奨 : 最大 10W)
- 4-pin XLR 電源入力コネクタ x 1 (12 ~ 18Vdc、最大 5A)
- 2-pin 電源入力コネクタ x 1 (12 ~ 18Vdc、最大 5A)
- LAN x 1 (RJ45 コネクタ、10/100/1000)
- Thunderbolt x 1 (ミニディスプレイポートコネクタ、Thunderbolt v1)
- ヘッドフォンジャック x 1 (3.5mm ステレオ ミニ TRS)

オープンアーキテクチャ

CION にオープンアーキテクチャが採用されているため、幅広いサードパーティ製アクセサリと合わせて使用できます。

- PL マウントレンズ
- 電子ビューファインダー (EVF)
- オンボードモニター
- 外部レコーダー
- マイク
- ハンドグリップ
- ベースプレートなど

図 1. 完全装備の CION



機能性

CION は、以下をはじめとする充実した機能を特長としています。

- グローバルシャッターにより、好ましくないローリングシャッター現象（蛇行や歪みなど）の影響を受けない映像を実現。
- Apple ProRes ファイルを、取り外し可能な Pak Media に収録。
- 標準的なフレームレートでの撮影、および設定を変更して、タイムラプス収録やスローモーションも可能。
- SDI 接続でのベースバンドビデオ出力または Raw データ出力。
- フロントパネルの UI での操作、または Web ブラウザインターフェースを使用したリモートコントロールが可能。
- Web ブラウザインターフェースにより、CION を複数台使用した同時収録に対応。
- LAN 接続と Web ブラウザインターフェースにより、ファイルをアップロード/ダウンロード。
- システムプリセットを 20 件までセーブしてロードすることができるため、容易なカスタム設定が可能。
- ユーザーインターフェースディスプレイにユーザーフィードバック（注意や警告を含む）を表示。
- タイムコード、操作ステータス、シャッター設定、露光指数値、電圧などの詳細情報は、ユーザーの選択によってモニター出力に表示することが可能。
- 適切な露光量を実現するため、ヒストグラム情報を表示。
- 物理的な VU メーターと、ビデオ出力におけるスーパーインポーズ式 VU メーター（オプション）により、適切なオーディオレベル設定を実現。

物理的レイアウト

このセクションでは、本マニュアルの説明に使用される CION の物理的な構成要素を紹介し
ます。

フロント

本体のフロント部には、PL レンズマウントとバックフォーカスアクセスドアがあります。

図 2. CION フロント部

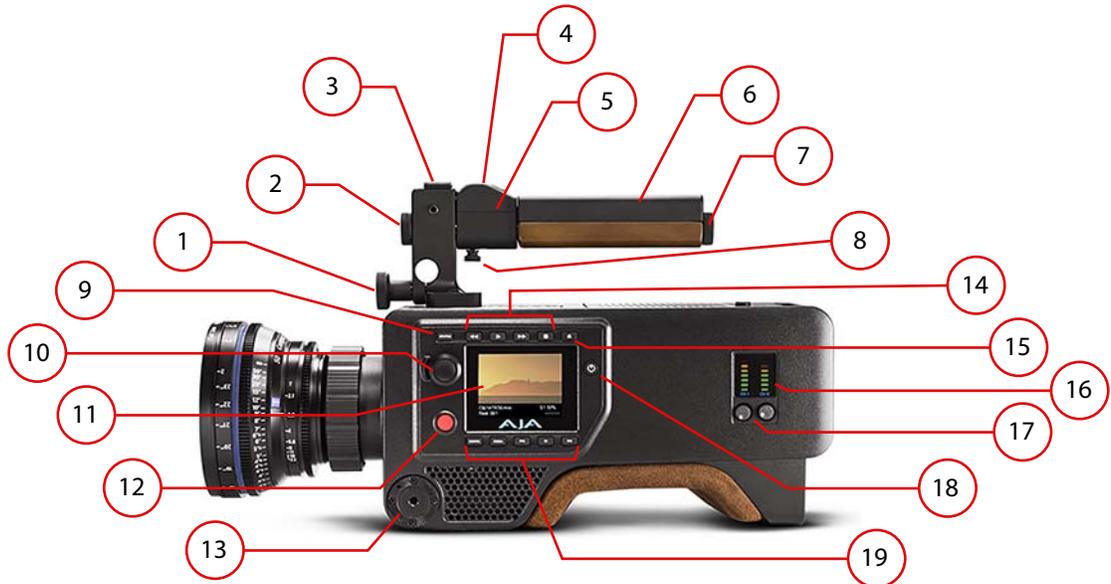


1. バックフォーカスアクセスドア
2. PL レンズマウント
3. PL レンズマウントカバー

オペレーター側

オペレーター側には、オペレーターが調整またはモニターする必要がある様々なメニューコントロールがあります。

図 3. CION オペレーター側



- | | |
|----------------------|-----------------------------------|
| 1. 15mm ロッドクランプノブ | 11. ユーザーインターフェースディスプレイ |
| 2. ロッドエンドキャップ | 12. レコードボタン |
| 3. コールドシュー | 13. Hirth tooth (菊) 型ロゼット (M6 ねじ) |
| 4. タリーランプ | 14. 操作ボタン |
| 5. LANC カラー | 15. メディアアンマウントボタン |
| 6. トップハンドル | 16. オーディオ VU メーター |
| 7. ロッドエンドキャップ | 17. オーディオ調整ノブ |
| 8. LANC カラーノブ | 18. 電源ボタン |
| 9. STATUS メニューボタン | 19. メニューボタン |
| 10. ユーザーインターフェース調整ノブ | |

注： 木目やステインの仕上がりには個体差があるため、ハンドルの木製部分は製品ごとに見た目が異なります。肩パッドにも自然素材が使用されているため、製品ごとに色合いが若干異なります。

操作ボタンやメニューボタンの詳細は、[12 ページの図 4](#) を参照してください。

図 4. CION の操作ボタンとメニューボタン



- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. STATUS メニューボタン | 7. CONFIG メニューボタン |
| 2. 巻き戻しボタン | 8. MEDIA メニューボタン |
| 3. 再生ボタン | 9. FPS メニューボタン |
| 4. 早送りボタン | 10. EI メニューボタン |
| 5. 停止（一時停止）ボタン | 11. WB メニューボタン |
| 6. メディアアンマウントボタン | |

ユーザーインターフェースディスプレイ

CION のオペレーター側には、ユーザーインターフェースディスプレイがあります。ユーザーインターフェースディスプレイには、デバイスのステータス情報だけでなく、メニュー情報や確認用画像も表示されます。

注：ユーザーインターフェースディスプレイに映し出される確認用画像は、高性能な電子ビューファインダーやオンボードモニターの代わりとなるものではありません。

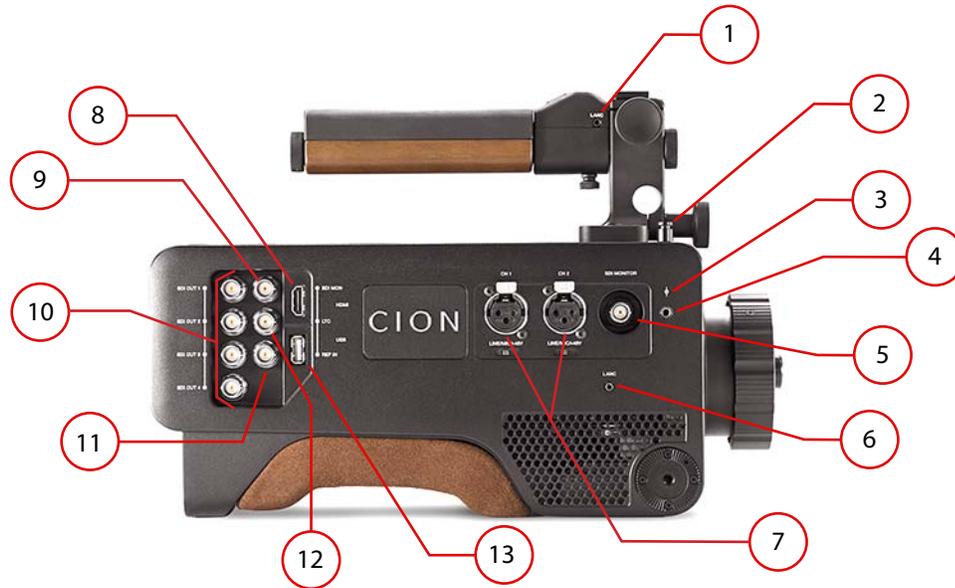
図 5. CION のオンボードユーザーインターフェースディスプレイとコントロール



コネクタ側

本体のコネクタ側には、各種のオーディオ / ビデオ接続があります。各種の接続端子は、利便性を考慮してフロント部とリア部の両方に用意されています。

図 6. CION の接続側



1. LANC (2.5mm コネクタ)

2. センサー面の標柱 / メジャーフック

注： センサープレーンポスト / メジャーフックは本体のいずれの側にも配置でき、本体トップ部に配置することもできます (上図)。

3. 撮像面マーク

4. センサー面の標柱 / メジャーフック用ねじ式差込口

5. フロント部 SDI モニター出力 (BNC コネクタ、3G/1.485Gbps)

6. LANC (2.5mm コネクタ)

7. アナログオーディオ入力 (各端子に line/mic/48v 選択スイッチが付いた 3-pin XLR コネクタ x 2)

8. HDMI (タイプ A コネクタ、v1.4)

9. リア部 SDI モニター出力 (BNC コネクタ、3G/1.485Gbps)

10. SDI 1 ~ 4 メイン出力 (BNC コネクタ x 4、3G/1.485Gbps)

11. リファレンス入力 (BNC コネクタ、アナログ ブラックバースト)

12. LTC (BNC コネクタ、0.5 ~ 4.5Vpp)

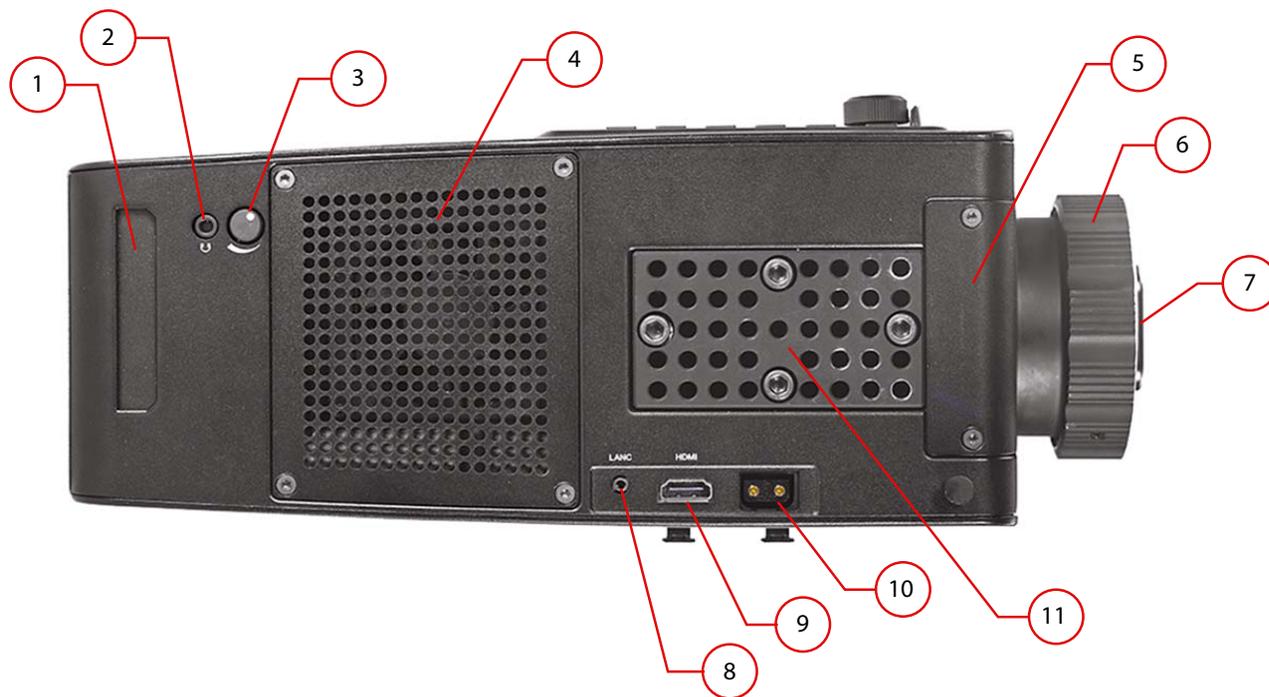
13. USB (タイプ A コネクタ、v2.0)

注： 木目やステインの仕上がりには個体差があるため、ハンドルの木製部分は製品ごとに見た目が異なります。肩パッドにも自然素材が使用されているため、製品ごとに色合いが若干異なります。

トップ

本体のトップ部には、オーディオ/ビデオ接続およびメディアスロットがあります。

図 7. CION トップ部



1. メディアスロット
2. ヘッドフォンジャック (3.5mm ステレオミニ TRS)
3. ヘッドフォン音量調整ノブ
4. ファンカバー
5. バックフォーカスアクセスドア
6. PL レンズマウント
7. PL レンズマウントカバー
8. LANC (2.5mm コネクタ)
9. HDMI (タイプ A コネクタ、v1.3)
10. 2-pin 出力コネクタ (推奨: 最大 10W)
11. チーズプレートトップハンドルマウント

ボトム

本体のボトム部には、CION をベースプレートや三脚に直接取り付けるためのネジ穴があります。

図 8. CION ボトム部のマウント



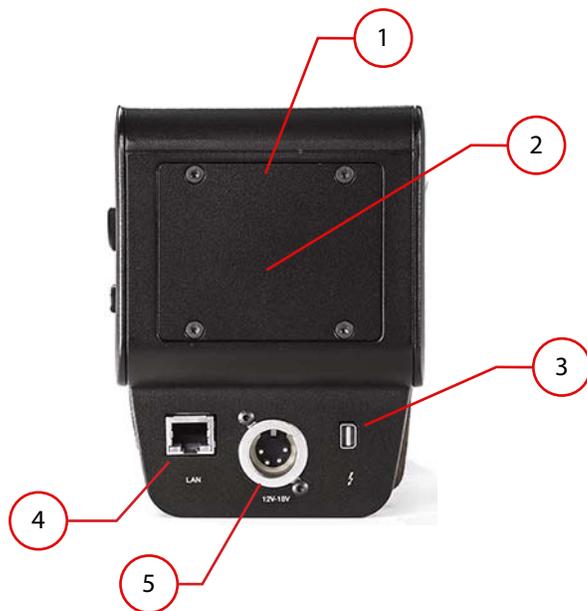
1. 1/4-20 と 3/8-16 のねじ穴、およびガイドピンホールを備えた取り外し可能なチーズプレート（チーズプレートは 1/4-20 押さえねじ、3/16 六角ねじで固定）
2. 中心間距離 9mm の 1/4-20 ねじ穴
3. 取り外し可能な肩パッド（1/4-20 押さえねじ、3/16 六角ねじで固定）
4. リア部ヒール 1/4-20 ねじ式差込口

注： 肩パッドには自然素材が使用されているため、製品ごとに色合いが若干異なります。

リア部

本体のリア部には、電源とデータ接続の端子があります。

図 9. CION リア部



1. 標準リア部ドア（バッテリーアダプタープレートを取り付ける場合は代替リア部ドアを使用）
2. 2-pin 電源入力コネクタ（標準リア部ドアの裏にあり、バッテリープレート、12-18Vdc、最大 5A での接続に使用）
3. Thunderbolt コネクタ（ミニディスプレイポートコネクタ、Thunderbolt 1）
4. LAN コネクタ（RJ45 コネクタ、10/100/1000）
5. 4-pin XLR 電源コネクタ（12 ~ 18Vdc 4-pin XLR コネクタ、最大 5A）

第 2 章 : 基本的な接続

概要

CION を実際に使用する前に、本マニュアルに記載されている操作ガイドラインとメニューパラメーターをご確認ください。この章では、CION を使用する前に行う基本的な接続について説明します。

CION の電源

CION の電源には、AJA 純正 AC/DC 電源ユニットまたはサードパーティ製バッテリーを使用できます。スタジオでの撮影など、AC 電源を使用できる状況では、AJA 純正 AC/DC 電源ユニットの使用をお勧めします。CION 稼働時の電圧は、12 ~ 18 Vdc です。

注： CION に過電圧を供給しないでください。CION を適切に使用するには、必ず電圧 12 ~ 18 Vdc の電源を使用するようにしてください。

AJA 純正 AC/DC 電源ユニットを CION に接続する

必要なツール：なし

必要なパーツ：AJA 純正 AC/DC 電源ユニットと電源コード

1. 電源コードを AC/DC 電源ユニットに接続し、電源コードをコンセントに差し込みます。正しく機能している場合は、電源ユニット上の緑のインジケータランプが点灯します。
2. 電源ユニットの 4-pin XLR コネクタを、リア部の 4-pin XLR コネクタに接続します。

バッテリープレートを CION に取り付ける

必要なツール：トルクスドライバー T10、六角レンチ 3/32、プラスドライバー #2 (メモ：これらツールは CION に付属されていません)

必要なパーツ：AJA 純正代替リア部ドア、T10 トルクスねじ x 4、4-40 押さえねじ x 3、バッテリーアダプタープレート、サードパーティ製バッテリープレート。(メモ：サードパーティ製バッテリープレートは CION に付属されていません。)

スタジオ外で撮影を行う場合は、CION にバッテリーを接続して使用することをお勧めします。CION には、AJA 純正バッテリーアダプタープレートを取り付けるために必要なねじが同梱されています。このバッテリーアダプタープレートにはねじ穴があるため、業務用の様々なサードパーティ製バッテリープレートを接続することができます。

1. バッテリーアダプタープレートを CION に取り付けるには、まず標準装備のリア部ドアを本体から外します。標準装備のリア部ドアから取り外した T10 トルクスねじ 4 本は、アダプタープレート用のリア部ドアを取り付ける際に使用するため、保管しておきます。
2. 2-pin 電力リード線が開口部から飛び出るようにして、アダプタープレート用のリア部ドアを 4 本の T10 トルクスねじで取り付けます (18 ページの図 10 を参照)。

注： 2-pin 電力リード線は、2 つの (1-7709870-0) 圧着ピンを備えた Tyco Electronics 社製 (172165-1) コネクタです。これら圧着ピンは 20AWG ワイヤーに対応します。バッテリープレートに対応するコネクタは、2 つの (170366-1) 圧着ピンを備えた Tyco Electronics 社製 (172233-1) コネクタ (または同様の製品) になります。これらのコネクタは、Tyco Electronics 社では「Mini Universal MATE-N-LOCK (ミニユニバーサル メイテンロック)」と呼ばれていますが、他社では違う名称が使用されている場合もあります。この 2-pin 電源コネクタは各種 ENG カメラで一般的に使われているタイプのため、さまざまなメーカー (Anton Bauer 社 (QR-DP800 など) や IDX 社 (P-V2 など) など) から、適切な対応コネクタを備えたバッテリープレートが販売されています。

図 10. アダプタープレート用のリア部ドアと 2-Pin 電力リード線



3. 4-40 押さえねじ 3 本を使用し、バッテリーアダプタープレートを取り付けます。
4. サードパーティ製バッテリープレートを、バッテリーアダプタープレートに取り付けます。

注： サードパーティ製バッテリープレートと M3 ねじが必要です。

注： バッテリーアダプタープレートとサードパーティ製バッテリープレートを一度取り付けた後は、すぐに使用できるようにするため、取り付けたままにしておくことも可能です。

CION の電源をオン / オフにする

CION の電源をオンにするには、電源ボタンを押します。起動中には、起動処理の進行度合いが示されます。

CION の電源をオフにするには、電源ボタンを押したままにして、ユーザーインターフェースディスプレイに表示される 3 秒のカウントダウンを待ちます。これは、通常の操作時に誤って電源がオフになることを防ぐための機能です。電源がオフになるまでの 3 秒以内に電源ボタンから手をはなすと、電源オフ処理を中断することができます。

CION にレンズを取り付ける

必要なツール：なし

必要なパーツ：PL マウントレンズ

CION に搭載されている PL (Positive Lock) レンズマウントは、頑丈さとシンプルさを特長としています。レンズは、CION の電源がオン / オフいずれの状態でも交換することができます。

1. PL レンズマウントカバーを取り外すには、片方の手で PL レンズマウントカバーを抑え、もう片方の手で PL レンズマウント外側のロックリングを反時計回りに回します。

注：ほこりやゴミがレンズマウントに入るのを防ぐため、PL レンズマウントカバーやレンズを長時間外したままにしないでください。

注：PL マウントレンズには、4つの爪部分それぞれにノッチがあるものや、1つの爪部分に1つのノッチのみがあるものなどが存在します。1つの爪に1つのノッチのみがあるレンズを使用する場合は、PL レンズマウントの内部にあるピンにレンズのノッチを合わせてから、レンズマウントにレンズを取り付けます。PL レンズマウント内部の装着ピンは、マウントの右上にあります。

2. 慎重にレンズをスライドさせて PL レンズマウントに合わせます。

3. レンズを適切に配置できたら、PL レンズマウント外側のロックリングを時計回りに回してレンズを固定します。

注：レンズが PL レンズマウントにしっかり固定されるまで、レンズを支えている手は離さないようにしてください。

注：重量のあるレンズ（約 5.5 ポンド / 2.5 kg を超えるレンズ）の場合は、サードパーティ製のレンズサポートを使用する必要があります。

モニタリング機器を CION に接続する

必要なツール：なし

必要なパーツ：ユーザーが用意した 3G または 1.485Gbps SDI ケーブル（BNC コネクタ）、または HDMI ケーブル（タイプ A コネクタ）

CION は、各種モニタリング機器と合わせて使用できます。CION は、電子ビューファインダー、オンボードモニター、オフボードモニター、プロジェクターなどと接続できる、複数の SDI 出力コネクタと HDMI 出力コネクタを搭載しています。ロック式の BNC コネクタが採用されているため、原則として SDI 接続の使用が推奨されます。

図 11. フロント部とリア部のビデオコネクタ



CION では、モニタリング機器のケーブル接続やバランス調整を、人間工学に基づいた設計により簡単に行えるよう、フロント部とリア部の両方に接続端子が用意されています。一般的に、電子ビューファインダーを接続する場合は、フロント部の SDI モニター端子を使用するのが便利です。SDI 入力で接続ができない電子ビューファインダーを使用する場合は、フロント部に取り付けられている HDMI 接続を利用できます。

注： CION では、幅広いフォーマットとフレームレートで出力が行えますが、すべての電子ビューファインダーやモニターが、あらゆるフォーマットやフレームレートに対応しているわけではありません。使用する電子ビューファインダー / モニターの仕様を必ずご確認ください。

外部電源を必要とする電子ビューファインダーを使用する場合は、CION の本体トップフロント部近くにある 2-Pin 電源コネクタが便利です。また CION との接続には、多くの電子ビューファインダーに標準アクセサリパッケージとして付属する電源ケーブルを使用できます。

注： 電子ビューファインダーの電源ケーブルを CION の 2-Pin 電源コネクタに接続する際は、CION の 2-Pin 電源コネクタとビューファインダーのケーブルの方向、および極性のマーキングに十分注意して接続を行ってください。

注： 電源コネクタケーブルの中には、フロント部の HDMI ポートを同時に使用することが困難（または不可能）になるケーブルレイアウトになっている製品も存在します。その場合は、HDMI 電子ビューファインダーを CION のリア部にある HDMI コネクタに接続して使用することができます。

注： 電子ビューファインダー / モニターの電源に CION の 2-Pin 電源コネクタを使用した場合、CION の電源をオフにしても、これらデバイスへの電力供給は継続します。このため、バッテリーの消費量を節約するには、CION の電源をオフにした時に電子ビューファインダー / モニターの電源も忘れずにオフにしてください。

電子ビューファインダーやオンボードモニターには数多くの設定が存在するため、ここでは設定手順の具体的な説明を省略します。設定の詳細は、ご使用のモニタリング製品のマニュアルをご覧ください。

図 12. ビューファインダー



原則として、CION からモニタリング機器への電源とビデオ接続は、モニタリング機器の電源を入れる前にすべて行ってください。

フロント部のモニター出力

フロント部の SDI モニター出力は、以下のフォーマットとフレームレートでの出力に対応しています。

- 2K プログレッシブ (2048x1080)
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60 出力時は 25/29.97/30 へと変換されます。
- 1080 プログレッシブ HD (1920x1080)
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60 出力時は 25/29.97/30 へと変換されます。
- 1080 インターレース HD (1920x1080)
 - 25/29.97/30

注： 出力フォーマットとフレームレートは、CONFIG、MEDIA、FPS の各メニューパラメーターの選択内容が反映されます。

注： すべての電子ビューファインダー / モニターが、CION で出力可能なすべてのフォーマットやフレームレートに対応しているわけではありません。対応するフォーマットやフレームレートについては、使用するデバイスの仕様書をご確認ください。

フロント部の HDMI モニター出力は、以下のフォーマットやフレームレートでの出力に対応しています。

- 2K プログレッシブ (2048x1080)
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60 出力時は 25/29.97/30 へと変換されます。
- 1080 プログレッシブ HD (1920x1080)
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 注： 50/59.94/60 は出力時に 25/29.97/30 へと変換されます。
- 1080 インターレース HD (1920x1080)
 - 25/29.97/30

注： 出力フォーマットとフレームレートは、CONFIG、MEDIA、FPS の各メニューパラメーターの選択内容が反映されます。

注： すべての電子ビューファインダー / モニターが、CION で出力可能なすべてのフォーマットやフレームレートに対応しているわけではありません。対応するフォーマットやフレームレートについては、使用するデバイスの仕様書をご確認ください。

リア部のモニター出力

リア部の SDI モニター出力は、以下のフォーマットやフレームレートでの出力に対応しています。

- 2K プログレッシブ (2048x1080)
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60 出力時は 25/29.97/30 へと変換されます。
- 1080 プログレッシブ HD (1920x1080)
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60 出力時は 25/29.97/30 へと変換されます。
- 1080 インターレース HD (1920x1080)
 - 25/29.97/30

注： 出力フォーマットとフレームレートは、CONFIG、MEDIA、FPS の各メニューパラメーターの選択内容が反映されます。

注： すべての電子ビューファインダー / モニターが、CION で出力できるすべてのフォーマットやフレームレートに対応しているわけではありません。対応するフォーマットやフレームレートについては、使用するデバイスの仕様書をご確認ください。

リア部の HDMI モニター出力は、以下のフォーマットとフレームレートでの出力に対応しています。

- 2K プログレッシブ (2048x1080)
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60 出力時は 25/29.97/30 へと変換されます。
- 1080 プログレッシブ HD (1920x1080)
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60 出力時は 25/29.97/30 へと変換されます。
- 1080 インターレース HD (1920x1080)
 - 25/29.97/30

注： 出力フォーマットとフレームレートは、CONFIG、MEDIA、FPS の各メニューパラメーターの選択内容が反映されます。

注： すべての電子ビューファインダー / モニターが、CION で出力可能なすべてのフォーマットやフレームレートに対応しているわけではありません。対応するフォーマットやフレームレートについては、使用するデバイスの仕様書をご確認ください。

リア部の HDMI モニター出力は、CONFIG と FPS の各メニューパラメーターの選択内容によって、4K (4096x2160) や Ultra HD (3840x2160) フォーマット、いくつかのフレームレートの中から出力を設定することもできます。

- 4K プログレッシブ (4096x2160)
 - 23.98/24
- Ultra HD プログレッシブ (3840x2160)
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60 出力時は 25/29.97/30 へと変換されます。

注： リア部の HDMI 出力は HDMI v1.4 のため、HDMI v1.4 規格に基づいて 4K 24Hz と Ultra HD 30Hz に制限されます。CION を 4K や Ultra HD の高フレームレート (HFR) で使用した場合、信号は HDMI v1.4 規格が対応可能なフレームレートへと低下します。

注： リア部の HDMI 出力を 4K または Ultra HD 出力で使用している場合、スーパーインポーズ表示は出力に表示されません。

注： すべての電子ビューファインダー / モニターが、CION で出力可能なすべてのフォーマットやフレームレートに対応しているわけではありません。対応するフォーマットやフレームレートについては、使用するデバイスの仕様書をご確認ください。

SDI 1～4 メイン出力では、いつでも画面上にスーパーインポーズを表示可能です。これらの出力はモニターやプロジェクター、外部レコーダー、ルーター、コンバーターなどに送ることができます。SDI 1～4 メイン出力は、CION で出力可能なすべてのフォーマットとフレームレートに対応します。

- 4K プログレッシブ (4096x2160)
 - 23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60
- Ultra HD プログレッシブ (3840x2160)
 - 23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60
- 1080 プログレッシブ HD (1920x1080)
 - 23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60
- 1080 インターレース HD (1920x1080)
 - 25/29.97

注： SDI 1～4 メイン出力を 4 つすべて使用する必要のないフォーマットの場合、残りの出力には同じ内容が出力されます。例えば、収録フォーマット、フレームレート、ビデオ出力設定が 1080p 23.98 YCbC に設定されている場合、SDI 出力 1～4 の 4 つそれぞれ 1080p 23.98 YCbCr ビデオが出力されます。

注： 接続されたすべてのデバイスが、CION で出力可能なすべてのフォーマットやフレームレートに対応するわけではありません。対応するフォーマットやフレームレートについては、使用するデバイスの仕様書をご確認ください。

LANC ケーブルを CION のトップハンドル LANC カラーに接続する

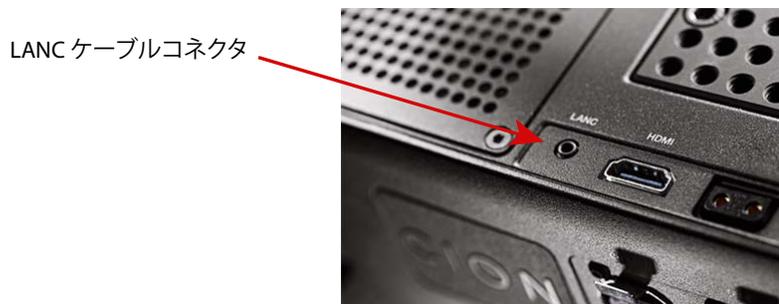
必要なツール：なし

必要なパーツ：AJA 純正 LANC ケーブル

CION には LANC カラーが付属されています。LANC カラーはスタート/ストップのリモートコントロール装置として、トップハンドルとハンドルベースの間に取り付けられます。付属の LANC ケーブルは、CION トップ部またはサイド部にある LANC コネクタのいずれにも接続できます。通常は、CION トップ部にある LANC コネクタに LANC ケーブルを接続し、CION サイド部にあるもう 1 つの LANC コネクタをハンドグリップの LANC に接続して使用します。

注： CION の LANC ポートは、収録のスタート/ストップコマンドにのみ対応しており、その他の LANC 機能には対応していません。

図 13. LANC のケーブルとコネクタ



CION で Pak Media を使用する

必要なツール：なし

必要なパーツ：AJA Pak Media

Pak Media は強度の高い金属製ボディに耐性の高いコネクタを備えているため、撮影現場での繰り返しの使用に適しています。

Pak Media を CION に挿入する

1. CION の電源をオンにします。CION の起動処理が完全に終わるまで待ちます。
2. Pak Media をメディアスロットに挿入します。Pak Media が正しく挿入された場合、青い「AJA」ロゴがカメラのフロント方向に向かってまっすぐ見える状態になります。

図 14. Pak Media が正しく挿入された状態



3. Pak Media を挿入するとスキャンが行われ、ユーザーインターフェースディスプレイに「Media Mounting (メディアのマウント中)」と表示されます。
4. Pak Media が適切にマウントされると緑の LED インジケーターが点灯し、CION のユーザーインターフェースディスプレイには残り空き容量が表示されます（「99%」など）。

注：撮影を行う前に、メニューパラメーターを確認し、フォーマット、フレームレート、エンコードタイプなどの各種設定を行います。

Pak Media を CION から取り出す

1. 撮影や再生などの操作が行われていないことを確認します。何らかの操作が行われている場合は、ディスプレイに「Press STOP (停止ボタンを押してください)」とメッセージが表示されます。
2. 「取り出し」マークが記載されているメディアアンマウントボタンを押します。
3. Pak Media の緑の LED インジケーターが消えるのを待ち、Pak Media を上方向に引き出し、取り外します。

注意！ LED インジケーターが点灯または点滅している間は、Pak Media を取り外さないでください。

警告！ メディアアンマウントボタンを使用しないでメディアを取り外すと、メディアに問題や破損が生じる恐れがあります。挿入されたメディアに何らかの問題がある場合は、「**WARNING: Backup and Reformat** (警告：バックアップを取って再フォーマットしてください)」などのメッセージが表示されます。

- 注：メディアが不適切に取り外された場合は、「Please Reboot（再起動してください）」という警告が表示されることがあります。このメッセージが表示された場合は、カメラを再起動してください。このような事態を避けるためには、メディアのアンマウントと取り外しを適切に行ってください。
- 注：突然電源が切断した場合は、進行中の撮影データが適切にメディアに書き込まれない可能性があります。「Low Battery（バッテリー残量低下）」警告には十分注意を払い、バッテリーがなくなる前に撮影を停止するようにしてください。十分なバッテリー残量がある場合は、バッテリーが停止する前にファイルを閉じることができますが、バッテリーの性質や撮影の長さによってはこれが不可能な場合もあります。このため、バッテリー残量には常に気を配るようにしてください。また、メーター機能の付いたバッテリーや、残量の分かるバッテリーを使用することを強くお勧めします。

オーディオ機器を CION に接続する

必要なツール：なし

必要なパーツ：サードパーティ製 XLR オーディオケーブルとミニ TRS ヘッドフォン

CION は、各端子に専用のライン/マイク/ファントム電源を備えた 2 つのバランスアナログオーディオ XLR 入力機能を搭載しています。各入力端子にはオーディオ調整ノブも備わっているため、信号レベルを調整することも可能です。また、CONFIG メニューの「Analog Audio（アナログオーディオ）」パラメーターにより、CION と合わせて使用しているオーディオ機器のタイプに応じた適切なオーディオ入力レベルのタイプ（+24dBu、+18dBu、+15dBu、+12dBu）を設定することもできます。オーディオは 24-bit 48kHz で記録されます。

- 注：ファントム電源を必要とするマイク（コンデンサーマイク）を使用する場合は、ディップスイッチを +48 に設定し、ファントム電源を必要としないマイク（ダイナミックマイク）には「Mic」を使用します。

7 セグメント LED には、2 つのアナログオーディオ入力のオーディオ入力レベルが表示されます。VU メーターの下にあるノブでは、入力レベルを個別に調整できるため、クリップの防止や適切な信号レベルの維持が可能になっています。

VU メーターの緑の LED は、オーディオ信号の「安全」なエリア（クリップなし）を意味します。この緑 LED の縦方向はシグナルの強さを表すため、シグナルレベルが低い状態を見逃すこともありません。一般的に、シグナルは緑の位置にあることが推奨されますが、LED の黄色部分に達することも許容されます。

VU メーター LED の黄色部分は、クリップが発生する直前の、オーディオ入力が入力安全エリアぎりぎりのレベルになっていることを示します。

VU メーター LED の赤色部分は、入力レベルが限度を超えており、シグナルのピークでクリップが発生していることを意味します。この場合は、ソース（信号を出力しているミキサーや音響機器）側の入力ゲインを落とすか、CION のオーディオ調整ノブを使用して調整してください。

オーディオレベルを調整するとき、オーディオ調整ノブを押すと、ノブが飛び出て調節しやすくなります。ノブが埋め込み型になっているのは、撮影環境で誤って変更されないようにするためです。

オーディオモニタリング用にヘッドフォンジャックが装備されており、ヘッドフォン用のボリューム調整ノブも用意されています。ヘッドフォンの音量調整は、オーディオ入力レベルのノブと同様に、調整ノブを押して、飛び出てきた調整ノブを使用して行います。

エンベデッドオーディオも、SDI 1～4 メイン出力の SDI 1 出力、SDI モニター出力、HDMI 出力を通じて出力されます。

- 注：オーディオは SDI 1～4 メイン出力のうち SDI 1 でのみ出力され、SDI 2、3、4 では出力されません。

第 3 章 : ProRes 収録と Raw 出力

概要

CION では、Apple ProRes QuickTime ファイルが SSD (ソリッドステートドライブ) の Pak Media に記録されます。Pak Media は HFS+ でフォーマットされているため、特別な設定を行うことなく Mac OS コンピューターで使用できます。また、サードパーティ製ソフトウェアツールと合わせて使用することで、Windows OS コンピューターでの使用も可能です。

CION から取り外した Pak Media の読み込みには、AJA Pak Dock メディアリーダーを利用します。Pak Dock は Thunderbolt または USB 3.0 を使用し、直接コンピューターに接続できます。高速な転送により、ファイルの転送やバックアップをすばやく行えます。

Apple ProRes 422 と Apple ProRes 444

Apple ProRes 422 コーデックや Apple ProRes 444 コーデックは、非圧縮 4K/Ultra HD/2K/HD と実質的にほぼ同等です。Apple ProRes は編集でも品質が維持されるため、画質を低下させることなく、エンコーディング/デコーディングを繰り返し行うことができます。Apple ProRes の利用には、以下のようなメリットがあります。

- 解像度 4K (4096x2160)、Ultra HD (3840x2160)、2K (2048x1080)、HD (1920x080) において、フレームレート 23.98 ~ 60 をサポート。
- 4:2:2 (最大 60 fps) または 4:4:4 (最大 30 fps) のクロマサンプリング。
- 10-bit のサンプル深度 (Apple ProRes 422) によって絶妙に階調度が維持されるため、バンドニングの影響を受けることなく、グリーンバック合成やカラー補正を正確に行うことが可能。
- 12-bit のサンプル深度 (Apple ProRes 444) では、10-bit のすべてのメリットにさらなる特性が加えられるため、最高品質が求められる場合に最適。
- 1フレームのみのエンコーディングに対応。各フレームで均一な画質を維持できるため、複雑な動きの映像でもアーチファクトが発生しません。
- 可変ビットレート (VBR) エンコーディングに対応。画像を解析し、複雑なフレームにより多くのビットデータを割り当てる「インテリジェント」なエンコーディング処理が行われます。
- データレート要件が低い (非圧縮データと比較した場合) ため、高画質なビデオでもより少ない記憶容量で保存可能。
- Apple ProRes コーデックはトランスコーディングを行う必要なく、様々なノンリニア編集、カラー補正、合成で使用可能。

AJA Raw

CION ではベースバンドによるビデオ出力に加え、SDI 1～4 のメイン出力接続または Thunderbolt 接続により、Raw センサーデータを出力することもできます。

注： Raw データの出力は、CONFIG メニューのパラメーターで設定できます。

CION では、AJA の Corvid Ultra ハードウェアと TruZoom ソフトウェアを使用することにより、最大 120Hz の 4K または Ultra HD SDI Raw 出力を収録できます。

SDI 1～4 メイン出力は、以下の Raw フォーマットとフレームレート用に設定できます。

- SDI 1 Raw : 4K プログレッシブ (4096x2160) 23.98/24/25/29.97/30
- SDI 1～2 Raw : 4K プログレッシブ (4096x2160) 50/59.94/60
- SDI 1～4 Raw : 4K プログレッシブ (4096x2160) 119.88/120
- SDI 1 Raw : Ultra HD プログレッシブ (3840x2160) 23.98/24/25/29.97/30
- SDI 1～2 Raw : Ultra HD プログレッシブ (3840x2160) 50/59.94/60
- SDI 1～4 Raw : Ultra HD プログレッシブ (3840x2160) 119.88/120

Thunderbolt 接続により、最大 30 fps での 4K または Ultra HD の Raw 出力にも対応します。

注： SDI による Raw 出力と Thunderbolt による Raw 出力は、同時に両方を使用することはできません。

CION の Thunderbolt 出力による、最大 30 fps の 4K または Ultra HD の Raw データは、AJA のソフトウェアアプリケーション CamXchange を起動し、適切な仕様のホストコンピューター、Thunderbolt 対応の RAID ドライブを合わせて使用することによって収録できます。

AJA Raw の詳細は、AJA が提供する補足ドキュメントや AJA CamXchange のマニュアルをご覧ください。

第 4 章 : 基本操作



収録

撮影を開始する前にメニューパラメーターを確認し、フォーマット、フレームレート、エンコードタイプなどを目的の値に設定します。メニューパラメーター設定の詳細については、「[33 ページの第 5 章 : ユーザーインターフェースの操作](#)」を参照してください。

CION のオペレーター側には、レコードボタンが装備されています。Pak Media を CION に挿入してレコードボタンを押すと収録が開始し、もう一度押すと収録が停止します。収録中は、レコードボタンが点灯して Pak Media LED が点滅し、収録中であることを確認できるようになっています。接続時は、LANC カラーのタリールランプも赤く点滅します。

LANC カラーを使用して、収録のスタート / ストップの操作を行うこともできます。本体のレコードボタンと同様に、LANC カラーのレコードボタンを 1 回押すと収録が開始し、再度ボタンを押すと収録が停止します。

注： 本体と LANC カラーのレコードボタンは、どちらで収録を開始または停止しても、どちらでもその後に撮影をスタート / ストップすることができます。たとえば、本体のレコードボタンを押して収録を開始し、その後に LANC カラーのレコードボタンを押して収録を停止することができます。

Pak Media の空き容量が少なく（残量 15%）になると、「Media Low（空き容量低下）」警告メッセージが表示されます。メディアの合計空き容量が 10% になると、「Media Full（空き容量なし）」の警告メッセージが表示されます。収録を開始した後も空き容量が 10% になると収録が停止し、メディアをフォーマットするか一部または全部のクリップを削除するまで、そのメディアを使ってそれ以上収録を継続できなくなります。クリップを削除して 10% 超の空き容量を確保すると収録を再開できるようになります。

注： 新たな撮影を行う前に、すべてのデータをバックアップしてメディアをフォーマットすることが推奨されます。これにより、間違って記録内容を消してしまう事態を避けることができます。

収録素材を再生する

収録した素材を再生するには、本体のトランスポートボタンを使用します。

図 15. CION のトランスポートボタン



停止ボタン: 停止ボタンには2つの機能があります。クリップの再生（再生、早送り、巻き戻し）中に停止ボタンを1回押すと「一時停止」モードになって再生が一時停止し、その時点のクリップが表示された状態で停止ボタンが点滅します。停止ボタンをもう1回押すと再生が完全に停止し、CIONの出力はライブビューを表示する「E-to-E」モードに戻ります。

注: メディア再生の一時停止中は停止ボタンが点滅するため、「一時停止」モードになっていることを一目で判別できます。「停止」モードの場合は、停止ボタンは常に点灯しています。

再生ボタン: 再生ボタンを押すと、現在のクリップが通常で再生されます。

早送りボタン: このボタンを押すと現在のクリップが2倍速で再生されます。ボタンを連続して押すと、再生速度が4、8、16倍に増加します。

注: 16倍速に達した後でボタンを押しても変化はありません。早送り中は速度に関わらず音声はミュートになります。

巻き戻しボタン: 消灯時にこのボタンを押すと、現在のクリップが2倍速で逆再生されます。ボタンを連続して押すと、再生速度が4、8、16倍に増加します。

注: 16倍速に達した後でボタンを押しても変化はありません。逆再生中は速度に関わらず音声はミュートになります。

クリップ間の移動: ユーザーインターフェース調整ノブを時計回りまたは反時計回りに回し、クリップを選択してください。

注: 何も再生していない場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを回すと自動的に一時停止状態（停止ボタンが点滅）になり、クリップ間を移動できるようになります。

ジョグ: 一時停止状態（停止ボタンが点滅）中に、ユーザーインターフェース調整ノブを押すとジョグ再生モードに切り替わり、以下のノブ操作が可能になります。

- 反時計回りに回すと、逆方向にコマ送りします。
- 時計回りでは順方向にコマ送りします。

ジョグモードを終了するには、ユーザーインターフェース調整ノブを押します。

注: このモードでは、ユーザーインターフェース画面に「JOG」と表示されます。

収録したメディアを再生する

1. 停止ボタンを押すと、デフォルトの「アイドリング」トランスポートモードに切り替わります（別のモードになっている場合）。
2. 再生したいクリップを見つけるには、ユーザーインターフェース調整ノブを回して、ユーザーインターフェース画面に目的のクリップ名を表示させます。
3. 再生ボタンを押します。
4. クリップの再生を停止すると、停止ボタンが点滅します。他のクリップを見る必要がない場合は、停止ボタンをもう一度押して、ライブビデオ出力を表示するデフォルトの「E to E」モードに戻ります。

メディアのフォーマットとクリップの削除

Pak Media はフォーマットされた状態で提供されていますが、すでに使用したことのあるメディアをフォーマットする必要や、撮影時にメディアに名前を付けてフォーマットする必要がある場合もあります。Pak Media をフォーマットする場合は、まずメディアを CION のメディア スロットに挿入します。メディアがマウントされた後、以下の手順を実行します。

1. MEDIA ボタンを押します。
2. ユーザーインターフェース調整ノブを回して、メニューパラメーター 16.1「Format Media（メディアのフォーマット）」を選択します。
3. ユーザーインターフェース調整ノブを押します。
4. 「Format（フォーマット）」が表示されるまでユーザーインターフェース調整ノブを回します。ユーザーインターフェース調整ノブを押します。
5. 画面の指示通りにユーザーインターフェース調整ノブを 2 秒以上長押しすると、フォーマットが開始します。

注: 意図せずこのメニューパラメーターを選択してしまった場合は、他のキーを選択することでフォーマットを中断できます。メディアをフォーマットする際は、確認プロセスを通じて意図しないメディアのフォーマットを防いでください。

警告! メディアのフォーマットが完了した後は、メディアに以前記録されていた内容を復元することはできません。メディアをフォーマットする際は、必ず事前に適切なバックアップを取るよう心がけてください。

CION にフォーマットの進行状況が表示され、終了すると完了の確認メッセージが表示されます。この状態でどれかのキーを押すと確認メッセージが消えます。

- 撮影したクリップの削除:
1. デフォルトモードの場合、ユーザーインターフェース調整ノブを回して Pak Media に記録されているクリップを探します。
 2. 削除するクリップを選択したら、停止ボタンを押します。
 3. MEDIA メニュー ボタンを押して、パラメーター 16.25 「Delete Current Clip (選択したクリップの削除)」に移動します。
 4. ユーザーインターフェース調整ノブを押し、「Delete (削除)」を選択して、ノブをもう一度押します。
 5. 表示される指示に従ってクリップを削除します。
- 注： クリップを削除すると、カメラは最後に撮影したクリップを表示した状態で一時停止モードになります。他のクリップを削除する場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを回して別のクリップを選択します。ライブビューを表示する「E-to-E」モードに戻るときは停止ボタンを押します。

第 5 章 : ユーザーインターフェースの操作



概要

CION は、以下の 2 つの方法で操作します。

- オペレーター側からメニューボタンとユーザーインターフェース調整ノブを使用
- LAN 経由で接続したウェブブラウザからリモートコントロール

この章では、メニューボタンとユーザーインターフェース調整ノブを使用して CION を設定する方法について説明します。ウェブブラウザを使用した操作については、66 ページの「第 6 章 : Web ブラウザでのリモート操作」を参照してください。

ユーザーインターフェース画面のデフォルト表示

ユーザーインターフェース画面には、デフォルトの表示モードがあります。デフォルト表示モードでは、Pak Media を挿入した際に、一番上の行の左側にクリップ名、右側にメディアの残り容量がパーセンテージで表示されます。

2 行目の左側には現在のリール番号、右側にはクリップのタイムコードが表示されます。

メニュー構造

CION には、フラットなメニュー構造が採用されているため、サブメニューやメニュー内メニューは存在しません。CION のメニューパラメーターは、以下の専用メニューボタンに割り当てられています。

CONFIG (設定): 一般的なオプションを設定できます。

- オーディオ / ビデオ設定
- スーパーインポーズ出力オプション
- オーディオ / ビデオシグナルジェネレーター、その他

MEDIA (メディア): 以下のオプションを設定できます。

- エンコードタイプ
- クリップの名前
- 再生設定

FPS: 以下のオプションを設定できます。

- フォーマット
- 1 秒あたりのフレーム数

EI: 以下のオプションを設定できます。

- 露光指数
- シャッター速度 / 角度、その他

WB: 以下のオプションを設定できます。

- ホワイト バランス
- 色と彩度の設定

STATUS (ステータス): 設定メニューではありませんが、以下の情報が表示されます。

ステータス情報

警告および警報

メニューを選択する

1. 調整するパラメーターに対応するボタンを押します。
2. 目的のメニューを選択します。
3. ユーザーインターフェース調整ノブを回すと様々なメニューパラメーターが表示されます。
4. メニューパラメーターを選択して調整するには、ユーザーインターフェース調整ノブを押します。
5. メニューパラメーターの選択後にノブを回すと、そのパラメーターで選択可能な項目が表示されます。

注: 選択されている項目は黄色の文字で表示され、その他の項目は白い文字で表示されます。

メニューパラメーターの項目を選択するには、ユーザーインターフェース調整ノブを回し、目的の項目が表示されたらユーザーインターフェース調整ノブを押します。

決定した項目が黄色の文字で表示されます。

メニューパラメーターを終了するには、ユーザーインターフェース調整ノブを回して「Exit (終了)」を表示させ、ノブを押して「Exit (終了)」を選択します。メニューパラメーターの確認を続ける場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを回します。メニューパラメーター選択の確認または変更が終了したら、最初に押したメニューボタンをもう一度押すか、別のメニューボタンを押して別のメニューを選択します。

例: 撮影時のフレームレートを 23.98 から 29.97 に変更する場合

1. FPS メニューボタンを押します。
2. ユーザーインターフェース調整ノブを回してメニューパラメーター「23.2 Frame Rate (23.2 フレーム レート)」を選択します。
3. ユーザーインターフェース調整ノブを押します。ユーザーインターフェース調整ノブを回して「29.97」を表示させます。
4. ユーザーインターフェース調整ノブを押します。「29.97」が黄色の文字で表示されます。
5. メニューパラメーターを終了するには、ユーザーインターフェース調整ノブを回して「Exit (終了)」を表示させ、ノブを押して「Exit (終了)」を選択します。
6. FPS メニューボタンを再度押すと FPS メニューが終了します。

複数のパラメーター値の
入力: 日付、時刻、IP アドレスなど、複数の値を入力する必要がある項目では、ユーザーインターフェース調整ノブを数回押して、値入力フィールド間を移動します。すべての値を設定した後、ユーザーインターフェース調整ノブをさらに回して「Accept (適用)」または「Reject (キャンセル)」を表示させます。値を適用するには、「Accept (適用)」が表示された状態でユーザーインターフェース調整ノブを押します。設定をキャンセルする場合は、「Reject (キャンセル)」が表示された状態でユーザーインターフェース調整ノブを押します。その後、メニューパラメーター値の編集を続けることもできます。

出荷時設定にリセット: 特定のパラメーターを出荷時の設定値にリセットするには、ユーザーインターフェース調整ノブを 3 秒間長押しします。

CONFIG (設定) メニューパラメーター

CONFIG (設定) では、以下の一般的なオプションを設定できます。

- オーディオ / ビデオ設定
- スーパーインポーズ出力オプション
- オーディオ / ビデオシグナルジェネレーター、その他

CONFIG (設定) メニューボタンを押して CONFIG (設定) メニューパラメーターを選択します。ユーザーインターフェース調整ノブを回して、メニューパラメーターや項目を選択します。

注： 以下のメニューパラメーターのデフォルト値は、太字でハイライトされています。

1.3 Progressive Playback (プログレッシブ再生)

プログレッシブ収録時の出力方法を設定します。PsF が必要な CRT モニターを接続しない限り、プログレッシブ出力用に設定されたデフォルト値のままにしておくことをお勧めします。

選択可能なオプション

- **Progressive** (プログレッシブ) (デフォルト) – プログレッシブフレームとして再生します。
- PsF – プログレッシブセグメントフレームとして再生します。

注： 再生時に HDMI 出力を利用する場合は、「Progressive」を選択する必要があります。

注： 4K または Ultra HD フォーマットの使用中は、PsF の選択は無効になります。

1.5 Crop SDI 1 ~ 4 Output (クロップ SDI 1 ~ 4 出力)

メイン SDI 1 ~ 4 出力のクロップ出力を有効または無効にします。

選択可能なオプション

- **OFF** (デフォルト) – SDI 1 ~ 4 出力にクロップを適用しません。
- ON – 4K (4096x2160) を (3840x2160) Ultra HD 出力に、または 2K (2048x1080) を (1920x1080) HD 出力にクロップします。

注： CION に接続するモニターやデバイスが 4K (4096x2160) または 2K (2048x1080) に対応していない場合があるため、それらのデバイスを適切に使用するにはクロップ機能を有効にする必要があります。使用するモニターやデバイスの技術仕様書を参照し、対応するフォーマットとフレームレートを確認してください。

注： FPS メニューで Ultra HD、1080p、1080i に設定している場合は、クロップ機能を有効にしても効果はありません。

1.6 SDI 1 ~ 4 Output (SDI 1 ~ 4 出力)

SDI 1 ~ 4 メイン出力の出力タイプを設定します。

選択可能なオプション

表 1. SDI 出力パラメーターのオプション

SDI 1 ~ 4 RGB (デフォルト)	SDI 1 ~ 4 出力を RGB に設定 (最大 4K 30 fps に対応)
SDI 1 ~ 4 YCbCr	SDI 1 ~ 4 出力を YCbCr に設定 (最大 4K 60 fps に対応)
SDI 1 ~ 4 RAW	SDI 1 ~ 4 出力を RAW に設定 (最大 4K 120 fps に対応)
SDI 1 ~ 2 RGB	SDI 1 ~ 2 出力を RGB に設定 (最大 2K 30 fps に対応)

表 1. SDI 出力パラメーターのオプション

SDI 1 ~ 2 YCbCr	SDI 1 ~ 2 出力を YCbCr に設定 (最大 2K 60 fps に対応)
SDI 1 ~ 2 RAW	SDI 1 ~ 2 出力を RAW に設定 (最大 4K 60 fps に対応)
SDI 1 RGB	SDI 1 出力を RGB に設定 (最大 2K 30 fps に対応)
SDI 1 YCbCr	SDI 1 出力を YCbCr に設定 (最大 2K 60 fps に対応)
SDI 1 RAW	SDI 1 出力を RAW に設定 (最大 4K 30 fps に対応)

注： 表示または設定可能になる項目は、Format、Frame Rate、Encode Type の各メニューパラメーターの設定内容によって変化します。不適切なビデオ出力設定となる値は自動的に非表示されるため、すべてのオプションが同時に表示されることはありません。

詳細は、59 ページの「フォーマットとフレームレートの設定に関する注意」を参照してください。

1.61 SDI 1 ~ 4 RGB Range (SDI 1 ~ 4 RGB 範囲)

SDI 1 ~ 4 メイン出力から、SMPTE レンジとフルレンジのどちらのビデオを出力するか設定します。

注： この値は通常、ほとんどのデバイスが対応する SMPTE レンジに設定します。

選択可能なオプション

- **SMPTE** (デフォルト) – SDI 1 ~ 4 RGB 出力が SMPTE レンジになります。
- **Full Range** – SDI 1 ~ 4 RGB 出力がフルレンジになります。

1.62 SDI 12-bit/10-bit

SDI 12-bit/10-bit では、SDI 1 ~ 4 メイン出力が 12-bit 用または 10-bit 用に設定されます。

選択可能なオプション

- **10-bit** (デフォルト) – SDI 出力を 10-bit に設定します。
- **12-bit** – SDI 出力を 12-bit に設定します。

注： 選択したフォーマット、フレームレート、エンコードタイプが 12-bit に対応していない場合、設定は自動的に 10-bit に戻ります。12-bit 非対応のデバイスも数多くあるため、デバイスによっては CION の出力を 10-bit 用に設定する必要もあります。

1.64 3G SDI Level (3G SDI レベル)

3G SDI 出力を Level A 用または Level B 用に設定します。多くの 3G SDI デバイスは Level A と Level B の両方に対応していますが、一部のデバイスではどちらかの Level でしか適切に動作できないため、設定が必要な場合があります。

選択可能なオプション

- **Level B** (デフォルト) – Level B に対応、またはこれを必須とするデバイスに使用します。
- **Level A** – Level A に対応、またはこれを必須とするデバイスに使用します。

注： メニューパラメーター 1.6 「SDI 1 ~ 4 Output (SDI 1 ~ 4 出力)」を SDI Raw 出力用に設定した場合、他のデバイスと適切に連携できるようにするために 1.64 「3G SDI Level」メニューパラメーターを Level B 用に設定する必要があります。

1.66 Rear HDMI Out (リア HDMI 出力)

リア部の HDMI 出力からスケールされたビデオまたはフルスタービデオのどちらを出力するかを設定します。

注：フルスターは、4K または Ultra HD のフォーマットを使用する出力に対してのみ影響します。

選択可能なオプション

- **Scaled** (スケール) (デフォルト) – HDMI 出力を 2K または HD に制限します。
- **Full Raster** (フルスター) – HDMI 出力による 4K または Quad HD の出力を許可します。

注：リア部の HDMI 出力は HDMI v1.4 のため、HDMI v1.4 規格に応じて 4K は最大 24Hz、Ultra HD は最大 30Hz に制限されます。フレームレートが 50/59.94/60 の場合、フルスター HDMI 出力はそれぞれ 25/29.97/30 に低減して出力されます。また、様々なメニューパラメーターが設定可能になっているため、リア部の HDMI コネクターからビデオが出力されない場合があります。例えば、FPS メニューの 23.1 「Format (フォーマット)」メニューパラメーターが 4K (4096 x 2160) に設定され、23.2 「Frame Rate (フレームレート)」メニューパラメーターが 25 に設定されていても、メニューパラメーター 1.8 「Crop SDI/HDMI Monitor Outputs (クロップ SDI/HDMI モニター出力)」でクロップが設定されていない場合は、HDMI v1.4 がネイティブに対応できないフォーマットになります。このような場合にビデオ出力を生成するには、1.8 「Crop SDI/HDMI Monitor Outputs」メニューパラメーターでビデオ出力をクロッピングする方が望ましいことがあります。

1.68 Rear HDMI 10-bit/8-bit (リア HDMI 10-bit/8-bit)

リア HDMI 出力が、EDID (ディスプレイ識別拡張データ) または指定の出力タイプを通じて受信デバイスと自動ネゴシエートするかどうかを設定します。

選択可能なオプション

- **Auto** (デフォルト) – HDMI 出力は EDID を通じて受信デバイスと自動的にネゴシエートします。
- **10-bit YCbCr** – 10-bit YCbCr 用に HDMI 出力を設定します。
- **8-bit RGB** – 8-bit RGB 用に HDMI 出力を設定します。

注：通常は、デバイス間のネゴシエーションを自動で行う Auto 設定から変更する必要はありません。

1.8 Crop SDI/HDMI Monitor Output (SDI/HDMI モニター出力のクロップ)

SDI/HDMI モニター出力をクロップするかどうかを決定します。例えば、多くの電子ビューファインダーやオンボードモニターは 1080 HD にのみ対応し 2K には対応していないため、4K や 2K の撮影フォーマットで使用する際は、クロップ出力用にこのパラメーターを設定することが有効な場合があります。

選択可能なオプション

- **ON** (デフォルト) – モニター出力のためにスケールされたビデオをさらに 1080 HD にクロップします (ソースが 1080 HD 以外の場合)。
- **OFF** – モニター出力にクロップを適用しません。

注：リア HDMI モニター出力がフルスター出力用に設定されている場合、4K 信号は Ultra HD にクロップされます。

1.85 SDI/HDMI Monitoring LUT (SDI/HDMI モニタリング)

収録中に Video Gamma LUT を、ビデオ モニター出力に適用するかどうかを決定します。Video Gamma LUT の適用は、「Disabled (無効)」または「Expanded 1 gamma (拡張 1 ガンマ)」を選択した撮影の際に便利です。

注： Video Gamma LUT は、モニター出力にのみガンマ補正が適用され、その他の色補正設定 (WB メニューパラメーター 25.4 「Color Correction (色補正)」による色補正) は適用されません。

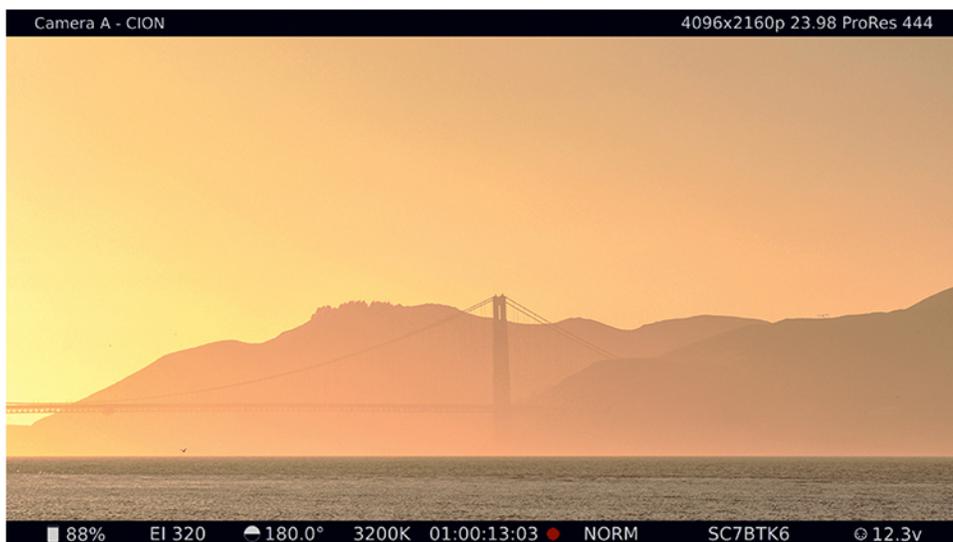
選択可能なオプション

- **Record Gamma LUT Enabled** (Record Gamma LUT 有効) (デフォルト) – 24.7 「Gamma (ガンマ)」で選択したガンマ設定が SDI/HDMI モニター出力にそのまま適用されます。
- **Video Gamma LUT Enabled** (Video Gamma LUT 有効) – 24.7 「Gamma (ガンマ)」で選択したガンマ設定とは別に、Video Gamma LUT が SDI/HDMI モニター出力に適用されます。

注： Video Gamma LUT は、ポスト処理またはグレーディング処理された映像のリファレンスとして視覚的に確認するためのものです。このため、撮影時の露出を決めるために Video Gamma LUT が生成したイメージに頼ることはお勧めできません。露出については、ヒストグラム機能を参照して確認および設定してください。

1.9 Super Out (スーパー出力)

図 16. スーパー出力の例 — 収録状況



このパラメーターでは、スーパーインポーズデータを SDI/HDMI モニター出力に適用するかどうかを設定します。

注： スーパー出力は SDI/HDMI モニター出力にのみ適用され、4K 用や Ultra HD 用に設定された SDI 1～4 メイン出力やリア HDMI 出力には適用されません。

選択可能なオプション

- **SDI/HDMI Monitor** (デフォルト) – スーパーインポーズデータを SDI モニターおよび HDMI 出力に対して有効にします。
- **OFF** – スーパーインポーズデータを無効にします。
- **SDI Monitor Outputs** (SDI モニター出力) – スーパーインポーズデータを SDI モニター出力に対して有効にします。
- **HDMI Monitor Outputs** (HDMI モニター出力) – スーパーインポーズデータを HDMI 出力に対して有効にします。

1.92 Super Displayed（スーパー表示）

スーパーインポーズデータを、メニューパラメーター 1.9「Super Out（スーパー出力）」で選択したモニター出力に表示するかどうかを設定します。さらに、特定の情報を画像の下部や上部、あるいは上下両方に表示させることもできます。

選択可能なオプション

- **Top+Bottom**（上部 + 下部）（デフォルト） - スーパーインポーズデータを画像の上下に表示します。
- **OFF** - スーパーインポーズデータを表示しません。
- **Bottom**（下部） - スーパーインポーズデータを画像の下部に表示します。
- **Top**（上部） - スーパーインポーズデータを画像の上部に表示します。

画像下部のスーパーインポーズには、以下のデータを表示させることができます。

- メディアの残り容量
- 露光指数
- シャッター設定
- ホワイトバランス値
- タイムコード
- トランスポートステータス
- ガンマ
- バッテリー電圧

画像上部のスーパーインポーズには、以下のデータを表示させることができます。

- カメラ名
- 警告
- フォーマット
- フレームレート
- エンコードタイプ

1.93 Super Area Opacity（スーパー表示エリアの不透明度）

スーパーインポーズのテキストとデータの背景の不透明度を設定します。

選択可能なオプション

- **25%**（デフォルト） - テキストの背景に薄い影を付けます。テキストの背後には、映像をはっきりと見ることができます。
- **75%** - テキストの背景に比較的暗いブラックを付けます。
- **50%** - テキストの背後に中程度のブラックを付けます。テキストの背後にある大抵の映像を視認できます。

注： 白い背景を撮影する場合は、スーパーインポーズテキストの判読が困難になるため、25%設定では不適切な可能性があります。

注： 「Super Area Opacity」で設定した不透明度は、スーパーインポーズ表示されるヒストグラムおよびVUメーターにも適用されます。

1.94 Graticules (グリッド)

グリッドは一般的に、イメージ上にシンプルな線を表示して、画像の中心やアスペクト比のフレームガイドラインとして使用します。

選択可能なオプション

表 2. グリッドオプション

OFF (デフォルト)	画像上にグリッドをオーバーレイ表示しない
4K/2K Crop (4K/2K クロップ)	画像上にクロップラインをオーバーレイ表示する
Crosshairs (十字線)	画像中央に十字線をオーバーレイ表示する
4K/2K Crop + Crosshairs (4K/2K クロップと十字線)	画像上にクロップラインと十字線をオーバーレイ表示する
1.85:1	アスペクト比 1.85:1 のフレームガイドラインを画像上にオーバーレイ表示する
2.35:1	アスペクト比 2.35:1 のフレームガイドラインを画像上にオーバーレイ表示する
2.39:1	アスペクト比 2.39:1 のフレームガイドラインを画像上にオーバーレイ表示する
Crosshairs + 1.85:1 (十字線 + 1.85:1)	十字線とアスペクト比 1.85:1 のフレームガイドラインを画像上にオーバーレイ表示する
Crosshairs + 2.35:1 (十字線 + 2.35:1)	十字線とアスペクト比 2.35:1 のフレームガイドラインを画像上にオーバーレイ表示する
Crosshairs + 2.39:1 (十字線 + 2.39:1)	十字線とアスペクト比 2.39:1 のフレームガイドラインを画像上にオーバーレイ表示する
4K/2K Crop + Crosshairs + 1.85:1 (4K/2K クロップ + 十字線 + 1.85:1)	クロップライン、十字線、アスペクト比 1.85:1 のフレームガイドラインを画像上にオーバーレイ表示する
4K/2K Crop + Crosshairs + 2.35:1 (4K/2K クロップ + 十字線 + 2.35:1)	クロップライン、十字線およびアスペクト比 2.35:1 のフレームガイドラインを画像上にオーバーレイ表示する
4K/2K Crop + Crosshairs + 2.39:1 (4K/2K クロップ + 十字線 + 2.39:1)	クロップライン、十字線およびアスペクト比 2.39:1 のフレームガイドラインを画像上にオーバーレイ表示する

注：アスペクト比グリッドは、あくまで撮影フォーマットの混乱を避けるためのガイドで、クロップ適用後の SDI 出力に適用されるものではありません。

アスペクト比の値

- 4096x2160
 - アスペクト比 2.39:1 = 4096 x 1716 (DCI 定義)
 - アスペクト比 2.35:1 = 4096 x 1743 (数学的に算出)
 - アスペクト比 1.85:1 = 3996 x 2160 (DCI 定義)
- 3840x2160
 - アスペクト比 2.39:1 = 3840x1607 (数学的に算出)
 - アスペクト比 2.35:1 = 3840 x 1634 (数学的に算出)
 - アスペクト比 1.85:1 = 3840x2076 (数学的に算出)

- 2048x1080
 - アスペクト比 2.39:1 = 2048 x 858 (DCI 定義)
 - アスペクト比 2.35:1 = 2048 x 871 (数学的に算出)
 - アスペクト比 1.85:1 = 1998 x 1080 (DCI 定義)
- 1920x1080
 - アスペクト比 2.39:1 = 1920x803 (数学的に算出)
 - アスペクト比 2.35:1 = 1920 x 817 (数学的に算出)
 - アスペクト比 1.85:1 = 1920x1038 (数学的に算出)

注：「数学的に算出」されたサイズは、以下の方法で計算されます。

横幅 ÷ アスペクト比 = 縦幅 (小数点以下四捨五入)

例: $1920 \div 2.39 = 803.35$ (803)
 $1920 \div 1.85 = 1037.84$ (1038)

1.95 Graticules Color (グリッドカラー)

グリッドは白または黒で表示できます。ほとんどの場合は白が適していますが、非常に明るいシーンでは黒が適する場合があります。

選択可能なオプション

- **White** (白) (デフォルト)
- **Black** (黒)

1.97 Display VU Meters (VU メーターを表示)

適切なオーディオレベルのモニタリングおよび決定に役立つ、VU メーターのスーパーインポーズ表示を有効にできます。

選択可能なオプション

- **Off** (デフォルト)
- **Horizontal** (水平)
- **Vertical** (垂直)

1.98 Histogram (ヒストグラム)

ヒストグラムは露出の調整に役立ちます。「Histogram (ヒストグラム)」パラメーターでは、ヒストグラムをどのように解釈するかを設定します。デフォルトのリニア設定では、拡張表示などを適用せず、センサー値をそのまま表示します。表示データを拡張する場合は、対数設定を選択します。

選択可能なオプション

- **Logarithmic** (対数) (デフォルト) - 対数マッピングを使用してセンサー値を表示します。
- **OFF** (オフ) - ヒストグラムをモニター出力にスーパーインポーズ表示しません。
- **Linear** (リニア) - リニアマッピングを使用してセンサー値を表示します。

注：ヒストグラムは、ライブプレビュー時や撮影中に正確な露出ガイドとして使用できますが、再生時には表示されません。

1.99 Histogram Mode (ヒストグラムモード)

ヒストグラムモードは、輝度、RGBの個々の色、RGB、RGBと輝度を表示するように設定できます。

- 選択可能なオプション
- **RGB+Luma** (RGB+ 輝度) (デフォルト)
- Luma (輝度)
- R
- G
- B
- RGB

4.1 Analog Audio (アナログオーディオ)

アナログオーディオ入力の信号レベルを設定します。

選択可能なオプション

- **+24dBu** (デフォルト) – +24dBuの業務用信号レベル (米国) を選択します。
- +18dBu – +18dBuの業務用信号レベル (欧州) を選択します。
- +15dBu – +15dBuの業務用信号レベル (ドイツ) を選択します。
- +12dBu – +12dBuの民生用信号レベルを選択します。

注： 最大増幅幅 (0 dBFS)

注： 業務用オーディオ機器には、民生用機器よりも大幅に高いレベルが採用されています (0 VUの読取値が +4 dBuに相当)。一般的に、民生用デバイスを業務用オーディオ入力に接続しても十分なパワーは得られません。

6.1 Genlock (ゲンロック)

一台のカメラで撮影する場合、一般的にはゲンロックを CION に適用する必要はありません。マルチカメラの場合、例えばカメラソースをリアルタイムで切り替える際にシグナルを同期する必要があるため、リファレンスをリファレンス入力端子に入力します。

選択可能なオプション

- **Freerun** (フリーラン) (デフォルト) – CION は自身のタイムベースに依存し、外部ソースにはロックしません。
- RefIn – リファレンス入力端子をゲンロック/リファレンス/同期のソースとして使用します。

8.0 TC Select (TC 選択)

使用するタイムコードソースを選択します。

選択可能なオプション

- **TC Value** (TC 値) (デフォルト) – メニューパラメーター 8.1 TC Value (8.1 TC 値) で指定したレコードランの値を使用します。
- LTC – LTC 入力の値を使用します。
- Time Of Day/Freerun (時刻/フリーラン) – タイムコードをデバイスクロックの値 (55.6 Time Set (タイムセット)) に設定し、フリーランタイムコード値を生成します。
- Jam Sync (ジャムシンク) – 最初に検出した値にタイムコードを設定し、ソースが変更されるまでその値をカウントし続けます。

注： タイムコードを正確に維持する必要がある場合は、タイムコードを再度 Jam Sync することをお勧めします。タイムコードを再度 Jam Sync せずに、タイムコードの精度が維持される時間は、最大 1 時間と考えてください。

8.1 TC Value (TC 値)

タイムコードのカウントを開始する時間値を選択します。

選択可能なオプション

- **01:00:00:00** (デフォルト) – タイムコード値を 01:00:00:00 に設定します
- 00:00:00:00 to 23:00:00:00 – 時間値を 02:00:00:00 や 03:00:00:00 など、1 時間単位で調整できます。

8.2 TC Type (TC タイプ)

ドロップフレームまたはノンドロップフレームのタイムコードを選択します。

選択可能なオプション

- **NDF** (デフォルト) – ノンドロップフレームのタイムコードを選択します。
- **DF** – ドロップフレームのタイムコードを選択します。

注： 23.98、24、25、50 fps は、ドロップフレームタイムコードに対応しません。

注： メニューパラメーター 8.0 「TC In」が LTC に設定されている場合、「TC Type」の設定は反映されません。TC タイプは、TC 値または CION が生成した時刻値にのみ適用されます。

9.0 Interval Record (インターバル撮影)

CION は、9.0 「Interval Record (インターバル撮影)」、9.1 「Interval Frames (インターバルフレーム)」、「9.2 「Interval Time (インターバルタイム)」を設定することにより、タイムラプス撮影に使用することができます。

注： 9.0 「Interval Record」が無効になっている状態では、9.1 「Interval Frames」および 9.2 「Interval Time」の各パラメーターは表示されません。

選択可能なオプション

- **OFF** (デフォルト) 通常の撮影を行います。
- **ON** - タイムラプス撮影を行います。

例: FPS メニューの 「Frame Rate」パラメーターでフレーム レートを 29.97 fps に設定します。以下の設定でレコードボタンを押すと、90 秒後に収録が停止します。

- 9.0 Interval Record > On
- 9.1 Interval Frames > 1
- 9.2 Interval Time > Second (秒)

収録の結果は、全 90 フレーム、フレームレート 29.97 fps となり、通常の映像と比べて「アンダークランク」あるいは「スピードアップ」した映像になります。

注： 1 秒あたりに入力されるビデオフレーム数を超えるインターバルフレーム数を選択した場合、結果は通常の映像と同じになります。インターバル撮影は、「オーバークランク」や「スローモーション」には対応しません。スローモーションについては、FPS メニューの 「Slow Motion (スローモーション)」パラメーターを参照してください。

9.1 Interval Frames (インターバルフレーム)

タイムラプス撮影に使用するフレーム数を設定します。一般にインターバル時間ごとに1フレームの設定が推奨されますが、単なるタイムラプス撮影とは異なる「アンダークランク」効果を意図して適用する場合は、撮影するフレーム数を増やします。

選択可能なオプション

- Incrementing Value (値を増やす) – 撮影するフレーム数を設定します。

9.2 Interval Time (インターバルタイム)

インターバルフレームを選択する時間の周期を決定します。

選択可能なオプション

- **Second** (秒) (デフォルト) – インターバルフレームを秒単位で選択します。
- Minute (分) – インターバルフレームを分単位で選択します。
- Hour (時間) – インターバルフレームを時間単位で選択します。

注： 9.1 および 9.2 は、9.0 が「ON」に設定されている場合のみ表示されます。

41.2 Video SG (ビデオ シグナル)

CION のシグナルジェネレーターからのビデオ信号の出力を設定します。

選択可能なオプション

- **OFF** (オフ) (デフォルト) – テスト信号の出力を無効にします。
- BLACK (黒) – ビデオテスト信号の出力をカラーブラックにします。
- 75% BARS (75% カラーバー) – ビデオテスト信号の出力を 75% カラーバーにします。
- 100% BARS (100% カラーバー) – ビデオテスト信号の出力を 100% カラーバーにします。
- 75% BARS + PLUGE (75% バー + PLUGE) – ビデオテスト信号の出力を 75% カラーバーと PLUGE (Picture Line-Up Generation Equipment) パターンにします。

注： ビデオシグナルジェネレーターは、センサーからの信号の代わりとして機能します。このため、ビデオ SG が Black (黒)、75% Bars (75% バー)、100% Bars (100% バー)、75% Bars + Pluge (75% バー + PLUGE) に設定されている場合、それらのシグナルジェネレータを収録することになります。

注： 23.98 ~ 60 fps の設定と異なり、カメラが 119.88 fps や 120 fps 用に設定され、ビデオ SG が有効になっている場合は、メニューパラメーターが「OFF」にリセットされていても、映像を再度生成するためにカメラを再起動する必要があります。

41.3 Audio SG (オーディオ シグナル)

CION に内蔵されたテストシグナルジェネレーターのオーディオ信号の出力を設定します。

選択可能なオプション

- **OFF** (デフォルト) – オーディオテスト信号を無効にします。
- SILENCE (無音) – 無音のオーディオテスト信号を出力します。
- 1 kHz – 標準的な 1 kHz のテスト信号を出力します。

注： オーディオシグナルジェネレーターはオーディオ入力の代わりとして機能します。このため、ビデオ SG を SILENCE または 1 kHz に設定した場合、それらの信号が収録されます。

50.0 LAN Settings (LAN 設定)

後述する LAN 設定をユーザーインターフェースに表示するかどうかを決定します。

選択可能なオプション

- **Display** (表示) (デフォルト) – デバイスの LAN 設定を表示します。
- **Hide** (非表示) – デバイスの様々な LAN 設定を非表示にしてメニューインターフェースをシンプルにします。

注： 「Hide」を選択した場合は、50.1～50.4 および 50.6 の各パラメーターは表示されません。

50.1 IP Config (IP 設定)

CION が使用する TCP/IP ネットワーク設定のタイプを設定します。

選択可能なオプション

- **DHCP**(デフォルト)–LAN 上の DHCP により自動的に取得された IP アドレスを使用します。
この値は編集できません。
- **Static Address** (固定アドレス) – 固定アドレスを手動で指定します。
この設定を完了するには、50.2、50.3、50.4 の各パラメーターを設定する必要があります。
- **Default Address** (デフォルトアドレス) – 出荷時の固定 IP アドレス「10.65.74.65」を使用します。

注： CION カメラの固定 IP アドレスを変更する場合は、ホストコンピュータが新しい IP アドレスを正しく認識できるように、CION の電源をいったん切ってから入れ直す必要がある場合があります。

50.2 IP Address (IP アドレス)

TCP/IP ネットワーク機能のために使用する固定 IP アドレスを設定します。

変数: ユーザーインターフェース調整ノブを使用して、利用する LAN に対応する IP アドレスを入力します。

50.2、50.3、50.4 の各パラメーターについては、ピリオド (.) で区切った 8 ビットの数値で構成される IP アドレス (「10.0.181.0」など) を設定します。

数値の編集方法

1. ユーザーインターフェース調整ノブを押し、目的の数値に達するまでノブを回します。
2. 再度ノブを押し、その数値を選択します。
3. 「Accept (適用)」が表示されるまでこの手順を繰り返します。数値を決定する場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを押します。

キャンセルする場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを回して「Reject (キャンセル)」を選択します。ノブを押すとキャンセルされ、値の編集が再開します。

50.3 Subnet Mask (サブネットマスク)

TCP/IP ネットワーク機能のために使用するサブネットマスクを設定します。

変数: ユーザーインターフェース調整ノブを使用して、利用する LAN に対応するサブネットマスクを入力します。

50.4 Static Gateway (固定ゲートウェイ)

変数: ユーザーインターフェース調整ノブを使用して、利用する LAN に対応するゲートウェイ値を入力します。

注: 適切に設定されているデフォルトゲートウェイがない場合 (ルーター / ゲートウェイの有無に関わらず)、CION は同一ネットワーク上の他の CION を認識できませんが、ウェブブラウザを通じて CION を制御することは可能です。

50.5 System Name (システム名)

CION の名前を設定し、固有の識別名を与えます。この名前は、ウェブインターフェースを通じてシステムを表示する際などに使用されます。

変数: ユーザーインターフェース調整ノブを使用して、利用する LAN に対応するサブネットマスクを入力します。

デフォルトのシステム名は「CION」です。名前には、最大 20 文字使用することができます。

文字の編集方法

1. ユーザーインターフェース調整ノブを押してから回転させます。
2. 目的の文字を選択した状態で、ノブをもう一度押します。

使用可能な文字セットは、**0~9**、**'-'**、**'.'**、**A~Z** (大文字) および **a~z** (小文字) です。

50.6 MAC Address (MAC アドレス)

このパラメーターには、CION の Ethernet アダプターの MAC アドレスのみが表示されます。

Information only display (情報のみ表示) - このパラメーターを選択すると、CION の Ethernet MAC アドレスが表示されます。MAC アドレスは内部 Ethernet アダプターに関連付けられている固有値で、「ハードウェアアドレス」や「物理アドレス」の別名でも知られています。MAC アドレスは、LAN 上の Ethernet アダプターを識別するための情報で、「**MM:MM:MM:SS:SS:SS**」形式の 12 桁の 16 進数で表記されます。

50.9 User Authentication (ユーザー認証)

ウェブユーザーインターフェース (ウェブ UI) を使用する際の認証ログインを有効または無効にします。このパラメーターのデフォルト値は「Disabled (無効)」に設定されています。

フロントパネルインターフェースで「Login (ログイン)」を選択して Web UI にアクセスすると、ログインパスワードが要求されます。各種のパラメーターや設定画面にアクセスするには、ウェブブラウザに表示されるログイン画面でパスワードを入力する必要があります。

パスワードは、初期設定ではデフォルトの「password」に設定されています。

ウェブ UI から「User Authentication」パラメーターで「Login (ログイン)」を選択すると、ユーザーが設定したパスワードを入力できるようになります。このメニューパラメーターを「Disabled (無効)」に変更しない限り、常にパスワードが要求されます。Web UI にアクセスする際は常に、ログインパスワードを入力した後に、ウェブ UI の他のパラメーターや設定画面にアクセスできるようになります。ユーザーが設定したパスワードを入力した際は、そのパスワード設定が維持されるため、パスワードを覚えておく必要があります。ユーザー設定のパスワードを忘れた場合はハードファクトリーリセットが必要になるため、AJA テクニカル サポートにお問い合わせください。6 ページの「サポートへのお問い合わせ」を参照してください。

55.4 Date Set (データセット)

内部 CION クロックのカレンダーを、「MM/DD/YYYY (月 / 日 / 年)」形式で手動で設定します。

変数: 数値の編集方法

1. ユーザーインターフェース調整ノブを押して、目的の数値が表示されるまでノブを回します。
2. 再度ノブを押して、その数値を選択します。
3. 「Accept (適用)」が表示されるまでこの手順を繰り返します。入力した数値を決定する場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを押します。
4. キャンセルする場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを回して「Reject (キャンセル)」を選択します。ノブを押すとキャンセルされ、値の編集が再開します。

ヒント: 日付と時刻は、ユーザーインターフェース調整ノブを物理的に操作するより、Web UI によるキーボード操作で設定したほうが簡単な場合があります。

55.6 Time Set (時刻設定)

CION 内蔵クロックの時刻を「時間 : 分 (24 時間)」形式で手動で設定します。

変数: 数値の編集方法

1. ユーザーインターフェース調整ノブを押して、目的の数値が表示されるまでノブを回します。
2. 再度ノブを押して、その数値を選択します。
3. 「Accept (適用)」が表示されるまでこの手順を繰り返します。入力した数値を決定する場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを押します。
キャンセルする場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを回して「Reject (キャンセル)」を選択します。ノブを押すとキャンセルされ、値の編集が再開します。

ヒント: 日付と時刻は、ユーザーインターフェース調整ノブを物理的に操作するより、Web UI によるキーボード操作で設定したほうが簡単な場合があります。

55.7 Time Zone (タイムゾーン)

CION 内蔵クロックのタイムゾーンを手動で選択します。

表 3. タイムゾーンのオプション

GRASS VALLEY (グラスバレー) (デフォルト)	AZORES (アゾレス)	KUWAIT (クエート)	BEIJING (北京)
LOS ANGELES (ロサンジェルス)	LISBON (リスボン)	JEDDA (ジェッダ)	MANILA (マニラ)
DENVER (デンバー)	LONDON (ロンドン) (GMT)	MOSCOW (モスクワ)	TAIPEI (台北)
MEXICO CITY (メキシコシティ)	MADRID (マドリッド)	TEHRAN (テヘラン)	SEOUL (ソウル)
DALLAS (ダラス)	PARIS (パリ)	ABU DHABI (アブダビ)	TOKYO (東京)
CHICAGO (シカゴ)	AMSTERDAM (アムステルダム)	KABUL (カブール)	GUAM (グアム)
DETROIT (デトロイト)	ROME (ローマ)	NEW DELHI (ニューデリー)	SYDNEY (シドニー)
WASH DC (ワシントン DC)	BERLIN (ベルリン)	COLOMBO (コロンボ)	AUCKLAND (オークランド)
NEW YORK (ニューヨーク)	VIENNA (ウィーン)	DHAKA (ダッカ)	HONOLULU (ホノルル)
MONTREAL (モントリオール)	ATHENS (アテネ)	BANGKOK (バンコク)	ANCHORAGE (アンカレッジ)
BOSTON (ボストン)	HELSINKI (ヘルシンキ)	HANOI (ハノイ)	SEATTLE (シアトル)
CARACAS (カラカス)	CAIRO (カイロ)	SINGAPORE (シンガポール)	
BUENOS AIRES (ブエノスアイレス)	TEL AVIV (テルアビブ)	JAKARTA (ジャカルタ)	
RIO DE JANEIRO (リオデジャネイロ)	BEIRUT (ベイルート)	HONG KONG (香港)	

55.71 Daylight Savings (サマータイム)

時刻をサマータイムに応じて調整するかどうかを決定します。

選択可能なオプション

- ON (デフォルト)
- OFF

注：「Time Zone」と「Daylight Savings」の各パラメーターを設定することにより、システム時間を現地時間に合わせることができると同時に、GMT 時間が適切に補正されるため、ファイル作成時間とタイムコード値を一致させることができます。

70.1 Screen Saver (スクリーンセーバー)

搭載画面の寿命を延ばすためのスクリーンセーバーを有効にします。通常のプロダクション環境で使用する場合は、スクリーンセーバーを無効にしてもかまいません。

- On (AJA ロゴ) (デフォルト)
- Off
- システム名

70.2 Display Intensity (ディスプレイ輝度)

キーのバックライトおよびユーザーインターフェース画面の輝度を調整します。

変数: 4 (デフォルト)

設定値: 1 (暗) - 8 (明)

70.3 Fan Speed (ファン速度)

CION の内部冷却ファンの速度を設定します。

- **Quiet Auto** (静音オート) (デフォルト) - 撮影を開始するまでは通常速度で回転し、開始後はできるだけ静音性を維持できるようにファンの回転速度が徐々に低下します。
- **Normal** (通常) - 通常の温度条件で最適な冷却効果を維持できる一定速度でファンが回転します。
- **High Temp** (高温) - 高温環境で最適な冷却効果を維持できる高い一定速度でファンが回転します。
- **High Temp Auto** (高温オート) - 高温環境で最適な冷却効果を維持できるように可変速度でファンが回転します。

注: 高温環境には、高い気温 (40 °C以上) だけでなく、動作温度上昇の原因となる標高 (1524m以上) や直射日光も含まれます。高温環境でユニットが適切に冷却されない場合は、過熱警告が表示されます。過熱警告が表示された場合は、このパラメーターを「High Temp」に調整してから撮影を再開してください。ユニットの過熱状態が続くと、損傷を防ぐためユニットがシャットダウンします。

80.1 Serial Number (シリアル番号)

CION の固有シリアル番号が表示されます。

80.2 SW Version (SW バージョン)

CION のソフトウェアバージョンが表示されます。

91.1 Recall Preset (プリセットのロード)

セーブしたプリセット (パラメーター 92.1 を使用してセーブ) をロードすることができます。

プリセットの選択方法

1. ユーザーインターフェース調整ノブを押して、目的の数値が表示されるまでノブを回します。
2. 再度ノブを押して、その数値を選択します。
3. ノブを回して「Accept」を選択します。入力した数値を決定する場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを押します。

キャンセルする場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを回して「Reject (キャンセル)」を選択します。ノブを押すとキャンセルされ、値の編集が再開します。

92.1 Store Preset (プリセットのセーブ)

プリセットをセーブします (プリセットをロードするにはパラメーター 91.1 を使用)。

プリセットのセーブ方法

1. ユーザーインターフェース調整ノブを押して、目的の数値が表示されるまでノブを回します。
2. 再度ノブを押して、その数値を選択します。
3. ノブを回して「Accept」を選択します。数値を決定する場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを押します。

キャンセルする場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを回して「Reject (キャンセル)」を選択します。ノブを押すとキャンセルされ、値の編集が再開します。

99.0 Factory Reset (ファクトリーリセット)

CION を、出荷時の設定にリセットするには、このパラメーターを選択してユーザーインターフェース調整ノブを 2 秒間長押しします。

注： この操作では、以下の設定はリセットされません。

- IP 設定
- IP アドレス
- サブネットマスク
- デフォルトゲートウェイ
- システム名
- 日付と時刻

役に立つヒント： 特定のパラメーターのみを出荷時の設定値にリセットするには、ユーザーインターフェース調整ノブを 3 秒間長押しします。

MEDIA メニューのパラメーター

MEDIA (メディア) メニューには、以下の設定オプションが用意されています。

- エンコードタイプ
- クリップの名前
- 再生設定

MEDIA メニューボタンを押して MEDIA メニューのパラメーターを表示させます。

注： 以下のメニューのデフォルトパラメーターは太字でハイライトされています。

12.1 Media State (メディアモード)

CION でデータ転送を行う場合は、このパラメーターを適用します。

選択可能なオプション

- **Record-Play** (収録 - 再生) (デフォルト) - メディアをビデオの撮影と再生に使用します。
- Data-LAN (データ -LAN) - LAN を使用して、データを CION にアップロード / ダウンロードします。

通常のビデオ操作は、「Record-Play」を選択します。Ethernet LAN 経由でデータを転送する場合は、「Data-LAN」を選択します。Data Media State（データメディアモード）では、メディアから CION へのコピーやその逆も実行できます。

モードが「Data（データ）」に設定されている場合はトランスポート機能がロックされ、メディアをビデオとして撮影や再生することができません。

この状態でも MEDIA メニューパラメーターへのアクセスは可能なため、パラメーターをリセットすることはできます。データモードで撮影や再生を行おうとすると、「CHANGE MEDIA STATE（メディアモードを変更してください）」という警告メッセージが表示され、トランスポート機能を使用することはできません。さらに、通常はフロントパネルに、クリップ、リース、タイムコードなどが表示されますが、フロントパネル UI には、ユニットが DATA MEDIA STATE（データメディアモード）になっていることが表示されます。

データモードの選択後は、LAN 経由で CION をコンピュータに接続できます。デバイスのリブート後や電源を入れ直した後は、DATA MEDIA STATE が無効になり、デフォルトの Record-Play モードに戻ります。

「Media State（メディアモード）」が「Data-LAN」に設定されている場合、CION の制御 / 設定用の Web UI は、データ転送のみに使用できます。Web UI では、UI の「All Clips（すべてのクリップ）」に「Upload+（アップロード +）」ボタンと「Download+（ダウンロード +）」ボタンが表示されます。これらのボタンは、Data-LAN モードが無効になっている場合は Web UI に表示されません。

14.1 Encode Type（エンコードタイプ）

Apple ProRes エンコード方式を設定します。選択可能なエンコードタイプは、FPS メニューの 23.2 「Frame Rate」の設定によって異なります。

選択可能なオプション

- ProRes 444（30fps までのデフォルト） – Apple ProRes 444 ファイルを記録します。
- ProRes 422（HQ） – Apple ProRes 422（HQ）ファイルを記録します。
- ProRes 422（50 fps 以上のデフォルト） – Apple ProRes 422 ファイルを記録します。
- ProRes 422（LT） – Apple ProRes 422（LT）ファイルを記録します。
- ProRes 422（Proxy） – Apple ProRes 422（Proxy）ファイルを記録します。

注： 選択可能なエンコードタイプは 23.2 「Frame Rate」の設定に応じて変化し、各フレームレートに対しては、対応するエンコードタイプのみが表示されます。

15.1 Play Media（メディアの再生）

撮影現場での再生に関する動作を設定します。

選択可能なオプション

- **One**（1本）（デフォルト） – クリップを1本再生した後、再生を停止します。
- **All**（すべて） – 選択されているクリップを再生した後、メディア内の次のクリップを順次再生します。
- **Playlist**（プレイリスト） – ユーザーが作成したリストからクリップを再生します（プレイリストは、66 ページの「第 6 章 :Web ブラウザでのリモート操作」で説明しているウェブ UI を使用して作成）。

注： 「**ALL**」または「**Playlist**」を選択した場合は、フォーマットやフレームレートに関係なくすべてのクリップが再生されますが、ビデオモニターは、フォーマット / フレームレートの変更によってリセットされます。すべてのクリップのフォーマットとフレームレートが同じであれば、クリップは順次スムーズに再生されます。

15.2 Loop Play (ループ再生)

ループ再生のオン/オフを切り替えます。

選択可能なオプション

- **Off** (デフォルト) – 一連のクリップを再生して、その後に停止します。
- **On** – 一連のクリップを再生し、その後に再生を繰り返します。

15.3 Playlist (プレイリスト)

選択したプレイリストの名前が表示されます。

変数: 選択したプレイリストの名前が表示されます。Web UI での操作で選択したプレイリストがない場合、名前は表示されません。

注: プレイリストは、フロントパネル UI から選択または作成することができないため、ウェブ経由で行います。

15.4 Dropped Frames (ドロップフレーム)

再生時のドロップフレームの処理方法を設定します。

選択可能なオプション

- **Continue** (継続) (デフォルト) – クリップの再生中にフレームのドロップが発生しても再生を継続します。
- **Stop** (停止) – クリップの再生中にフレームのドロップが発生した場合は、再生を停止します。

16.1 Format Media (メディアのフォーマット)

メディアをフォーマットする際に使用します。

選択可能なオプション

- **KEEP MEDIA** (メディアを維持) (デフォルト) – 何もしません。
- **FORMAT (Prompt verification)** (フォーマット (確認メッセージあり)) – メディアのフォーマット処理を開始します。

1. 「Format (フォーマット)」が表示されるまでユーザーインターフェース調整ノブを回します。ユーザーインターフェース調整ノブを押します。
2. 表示される指示に従ってユーザーインターフェース調整ノブを 2 秒以上長押しすると、フォーマットが開始します。

注: 他のキーを押すとフォーマット処理を中断できます。

3. フォーマットの進行状況が表示され、終了すると完了メッセージが表示されます。

注意! メディアをフォーマットする際は、その前に、保存されている内容を必ずバックアップすることを心がけてください。メディアは、使用する度に事前にフォーマットすることを推奨します。これにより、時間経過によって発生する場合がありますメディアディレクトリの問題を避けることができます。

16.2 Delete Clips (クリップの削除)

メディア内のすべてのクリップを削除できます。

選択可能なオプション

- **KEEP CLIPS** (クリップを保持) (デフォルト) – 何もしません。
- **DELETE ALL** (Prompt verification) (すべて削除 (確認メッセージあり)) – メディア内のクリップの削除を開始します。

注： 一般的に、メディアからすべてのクリップを削除する場合は、メディアをフォーマットするのが最も簡単な方法です。状況によっては、メディア上のすべてのクリップを素早く削除してすぐに撮影を開始できる方が望ましい場合があります。

16.25 Delete Clip (クリップを削除) : < クリップ名 >

選択したクリップをメディアから削除します。

選択可能なオプション

- **KEEP CURRENT CLIP** (現在のクリップを保持) (デフォルト) – 何もしません。
- **DELETE** (Prompt verification) (削除 (確認メッセージあり)) – 選択したクリップの削除を開始します。

クリップの削除方法

1. デフォルトのユーザーインターフェースモードでは、ユーザーインターフェース調整ノブを回転させて Pak Media 上のクリップを選択します。
2. 削除するクリップが見つかったら、停止ボタンを押します。
3. MEDIA ボタンを押して、16.25 「Delete Current Clip」に移動します。
4. ユーザーインターフェース調整ノブを押し、「Delete (削除)」を選択して、ノブをもう一度押します。
5. 表示される指示に従ってクリップを削除します。

注： この方法でクリップを削除するとメディアは「一時停止」モードになるため、削除する他のテイクやクリップを簡単に確認することができます。他のクリップやテイクを削除しない場合は、停止ボタンを押すだけで「E-to-E 撮影スタンバイ」モードに戻ります。

17.0 Preset Reel Name (プリセットリール名)

この設定の使用中に生成されたすべてのクリップに関連付けるリール名を設定します。

選択可能なオプション

- 001 to 999 – 001 ~ 999 の値を選択します。

リール名は 001 ~ 999 までの数字で命名されます。これはフィルムやテープベースのメディアに使用されてきた命名規則に準じています。

「Preset Reel Name」パラメーターは、この値を設定し「Format Media」パラメーターを使用してメディアをフォーマットした場合に、メディアをコンピュータにマウントした際にボリュームとして表示されるメディア名の設定にも使用できます。

17.1 Camera Name (カメラ名)

17.7 「Combined Name (連結名)」パラメーター使用時の文字を設定します。

- A to Z – A ~ Z までの値を選択します。

注： カメラ名は、17.7 「Combined Name」が有効になっていない場合は、クリップ名には組み込まれません。

17.2 Clip Name (クリップ名)

この設定の使用中に生成されたすべてのクリップに関連付けるクリップ名を、「Clip」または「SC」に設定します。

選択可能なオプション

- **SC** (デフォルト) – 作成したクリップに「SC」で始まるファイル名が付きます。
- **Clip** (クリップ) – 作成したクリップに「Clip」で始まるファイル名が付きます。

生成されるクリップ名は、以下のようになります。

以下の例では、「TK」がデフォルトで名前に追加されるアペンド文字で、自動加算される数値 (17.8 「Take」パラメーターで手動で上書きすることも可能) がこれに続きます。

これらのパラメーターにより、QuickTime ファイルの識別が容易になると同時に撮影スクリプトと名前が論理的に一致し、Final Cut Pro X の Events や Avid Media Composer の Bins などの様々なノンリニア編集のインポート時の利便性が向上します。

例 1：出荷時のデフォルト設定で AJA パラメーターを使用した場合

- Reel Name 001
- Clip Name SC
- Clip Number 1
- Clip Append Alpha
- Alpha Append A
- Take 1

この結果、クリップには「SC1ATK1」という名前が付きます。メディアを OS X のデスクトップにマウントした場合は、「001」という名前のボリュームとして表示されます。

17.3 Clip Number (クリップ番号)

この設定の使用中に生成されたすべてのクリップに関連付ける、クリップ名に続く 1 ~ 999 のクリップ番号を設定します。

選択可能なオプション

- 1 to 999 – 1 ~ 999 までの数値を選択します。

17.4 Clip Append (クリップアペンド)

このパラメーターは、以下のいずれかのために 17.5 「Alpha Append」と合わせて使用します。

- クリップ番号の後にテキスト値を付加する
- テキストを付加しない

選択可能なオプション

- **None** (なし) (デフォルト) – クリップ名やクリップ番号にテキストを付加しません。
- **Alpha** (アルファ) – クリップ名とクリップ番号に、Alpha アペンドに入力したテキスト値を付加します。

17.5 Alpha Append (Alpha アペンド)

クリップ番号の後にテキスト値を付加するために、17.4 「Clip Append」パラメーターと合わせて使用します。

選択可能なオプション

- A to Z – A ~ Z までの値を選択します。

17.6 Take (テイク)

Alpha アペンド (選択している場合) に続くクリップ名およびクリップ番号に続く、1 ~ 999 のテイク番号を設定します。このテイク番号は、この設定の使用中にすべてのクリップに対して生成されます。

選択可能なオプション

- 1 to 999 - テイク番号は自動的に生成されますが、ユーザーが自分で設定する場合は、ここに値を入力します。

クリップとテイクの規則: クリップとテイクには、以下の規則が適用されます。

1. 既存のクリップは上書きされません。
2. テイク番号は以下によって定義される「プレフィックス」に対して、それまでの既存番号を自動的に増加させます。
 - クリップ名
 - クリップ番号
 - クリップアペンド
 - Alpha アペンド
 - テイク設定
3. 番号が 999 になると、テイク 999 のクリップが撮影されますが、その後は自動的に進行することができなくなります。さらに撮影を試みると「**Name In Use** (この名前は使用されています)」という警告メッセージが表示されます。このメッセージが表示された場合は、新しい固有のプレフィックスが生成されるように、新しいクリップ名、クリップ番号、クリップアペンド、Alpha アペンド、テイク設定を選択してください。これにより、ファイルにわかりやすい固有名が付けられ、クリップが上書きされる心配がなくなります。

注: テイク番号の最大値は 999 です。

17.7 Combined Name (連結名)

カメラ名、リール名、クリップ名、クリップ番号、クリップアペンド、Alpha アペンドを、ひとつのファイル名に連結します。

- **Off** (デフォルト) - 連結クリップ名を無効にします。
- **On** - 連結クリップ名を有効にします。

例: A001SC1ATK1

19.1 Use Custom Clip Name (カスタムクリップ名の使用)

メニューパラメーターの 19.1、19.2、19.4、または Web UI で、カスタムクリップ名を使用可能にするかどうかを設定します。

選択可能なオプション

- **OFF** (デフォルト) - クリップにカスタム名を設定する機能を無効にします。
- **ON** - クリップにカスタム名を設定する機能を有効にします。

重要: 一部の文字は、クリップ名に使用できない場合があります。たとえば、句読点 (内部スペースやピリオドを除く)、特殊文字 (@ など)、ASCII UTF-8 以外の文字は、無条件に拒否されます。

注: 日本語や中国語などの一部の言語で使われる UTF-8 以外の文字には対応していません。

カスタムクリップ名はフロントパネル UI メニューパラメーター (19.1、19.2、19.4) から作成できませんが、Web UI の入力フィールドを使用するほうがより効率的です。カスタムクリップ名の文字を入力する場合は、ネームスペースの最後に達するまですべての文字列をスクロールした後に、名前を決定する必要があります。

19.2 Custom Clip Name (カスタムクリップ名)

カスタムクリップ名を設定します。カスタム名はフロントパネルから選択し、上下の矢印で調節して設定します。デフォルト名は「CUSTOM」です。

選択可能なオプション

- Variable (設定可能な項目) - ユーザーインターフェース調整ノブを使用してカスタムクリップ名を入力します。
- デフォルト名: CUSTOM

19.4 Custom Take (カスタムテイク)

カスタムテイク番号を設定します。

選択可能なオプション

- 1 to 999 - 1 ~ 999 までの数値を選択します。

注: テイク番号の最大値は 999 です。

22.1 Gang Clip Name (連動クリップ名)

複数の CION ユニットによる連動撮影の実施時に使用します (74 ページの「複数の CION を使用した Gang Recording (連動撮影)」参照)。連動する CION ユニットを使用したすべての撮影でクリップ名を統一する場合は、このパラメーターの「Master Name (マスター名)」を選択します。各 CION ユニットで独立したクリップ名を付ける場合は、「Slave Name (スレーブ名)」を選択します。「Slave Name」を選択すると、映像は個々の CION のパラメーターに基づいて命名され、マスター CION ユニットがスレーブにプッシュした値は無視されます。

選択可能なオプション

- **Master Name** (マスター名) (デフォルト) - 連動するすべての CION ユニットで同じクリップ名が付けられます。
- Slave Name (スレーブ名) - 各 CION ユニットでクリップ名が付けられます。

注: ほとんどの連動操作は、Web UI でのみ実行できます。

FPS メニューパラメーター

FPS メニューには、フォーマットと 1 秒あたりのフレーム数に関する設定オプションが用意されています。

FPS メニュー ボタンを押すと、FPS メニューパラメーターが表示されます。

注: 以下のメニューのデフォルトパラメーターは太字でハイライトされています。

23.1 Format (フォーマット)

- **4K** (デフォルト) - 4K (4096x2160) プログレッシブ用にカメラを設定します。
この設定は、収録とビデオ出力に反映されます。
- Ultra HD - Ultra HD (3840x2160) プログレッシブ用にカメラを設定します。
この設定は、収録とビデオ出力に反映されます。
- 2K - 2K (2048x1080) プログレッシブ用にカメラを設定します。
この設定は、収録とビデオ出力に反映されます。

- 1080p – 1080 HD (1920x1080) プログレッシブ用にカメラを設定します。
この設定は、収録とビデオ出力に反映されます。
- 1080i – 1080 HD (1920x1080) インターレース用にカメラを設定します。
この設定は、収録とビデオ出力に反映されます。

23.2 Frame Rate (フレームレート)

- 23.98 – 23.98 fps で撮影します。
 - 24 – 24 fps で撮影します。
 - 25 – 25 fps で撮影します。
 - 29.97 – 29.97 fps で撮影します。
 - 30 – 30 fps で撮影します。
 - 50 – 50 fps で撮影します (14.1 「Encode Type」を ProRes 422、あるいは、よりデータレートが低いバージョンの ProRes に設定する必要があります)。
 - 59.94 – 59.94 fps で撮影します (14.1 「Encode Type」を ProRes 422、あるいは、よりデータレートが低いバージョンの ProRes に設定する必要があります)。
 - 60 – 60 fps で収録します (14.1 「Encode Type」を ProRes 422、あるいは、よりデータレートが低いバージョンの ProRes に設定する必要があります)。
 - 119.88 – 119.88 fps は、オンボード収録には対応していません。
これは SDI RAW 出力専用です。
 - 120 – 120 fps は、オンボード撮影には対応していません。
これは SDI RAW 出力専用です。
- 注： 23.1 「Format」が 1080i に設定されている場合は、23.98、24、50、59.94、60 の各フレームレートには対応しません。
- 重要： カメラの電源をオフにした場合や再起動した場合、119.88 fps や 120 fps の設定は維持されません。カメラの電源を入れ直す前に 119.88 fps または 120 fps が選択されていた場合は、カメラの再起動後にデフォルトの 23.9 fps に自動設定されます。このため必要に応じて、再起動や電源を入れ直す度にカメラを 119.88 fps または 120 fps に再設定する必要があります。
- 注： フレームレートの変更中は、UI 画面とビデオ出がブラックになります。フレームレートの再設定が完了すると、UI 画面とビデオ出力に映像が表示されます。

23.3 Slow Motion (スローモーション)

- **OFF** (デフォルト)
 - 59.94>23.98 – 23.2 「Frame Rate」パラメーターが 59.94 に設定されている場合に表示され、23.98 fps のスローモーションファイルが生成されます。
 - 59.94>29.97 – 23.2 「Frame Rate」パラメーターが 59.94 に設定されている場合に表示され、29.97 fps のスローモーションファイルが生成されます。
 - 60>30 – 23.2 「Frame Rate」パラメーターが 60 に設定されている場合に表示され、30 fps のスローモーションファイルが生成されます。
 - 50>25 – 23.2 「Frame Rate」パラメーターが 50 に設定されている場合に表示され、25 fps のスローモーションファイルが生成されます。
- 役に立つヒント： スローモーション機能を有効にするには、23.2 「Frame Rate」で高いフレームレートを設定する必要があります。比較的高いフレームレートである 50 fps、59.94 fps、60 fps が選択されていない場合、このメニューパラメーターは表示されません。
- 注： スローモーションは、ProRes 422 またはよりデータレートが低いバージョンの ProRes でのみ使用できます。

フォーマットとフレームレートの設定に関する注意

23.1 「Format」、23.2 「Frame Rate」、14.1 「Encode Type」、1.6 「SDI Out」での設定はすべて、CIONの設定に連動しています。

以下は、組み合わせ可能な設定のリストです。

- 4K:
- 4K (4096x2160) プログレッシブ
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60
 - 119.88/120
 - 最高 30 fps の Apple ProRes 444 または Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 50/59.94/60 fps の Apple ProRes 422 (またはよりデータレートが低いバージョンの ProRes)
 - 23.98/24/25/29.97/30 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 YCbCr、SDI 1 ~ 4 RGB、SDI 1 RAW)
 - 50/59.94/60 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 YCbCr、SDI 1 ~ 2 RAW)
 - 119.88/120 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 RAW)
- Ultra HD:
- Ultra HD (3840x2160) プログレッシブ
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60
 - 119.88/120
 - 最高 30 fps の Apple ProRes 444 または Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 50/59.94/60 fps の Apple ProRes 422 (またはよりデータレートが低いバージョンの ProRes)
 - 23.98/24/25/29.97/30 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 YCbCr、SDI 1 ~ 4 RGB、SDI 1 RAW)
 - 50/59.94/60 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 YCbCr、SDI 1 ~ 2 RAW)
 - 119.88/120 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 RAW)
- 2K:
- 2K (2048x1080) プログレッシブ
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60
 - 最高 30 fps の Apple ProRes 444 または Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 50/59.94/60 fps の Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 23.98/24/25/29.97/30 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 YCbCr、SDI 1 ~ 2 RGB、SDI 1 RGB)
 - 50/59.94/60 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 2 YCbCr、SDI 1 YCbCr)

- 1080 HD プログレッシブ:
- 1080 HD (1920x1080) プログレッシブ
 - 23.98/24/25/29.97/30
 - 50/59.94/60
 - 最高 30 fps の Apple ProRes 444 または Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 50/59.94/60 fps の Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 23.98/24/25/29.97/30 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 YCbCr、SDI 1 ~ 2 RGB、SDI 1 RGB)
 - 50/59.94/60 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 2 YCbCr、SDI 1 YCbCr)
- 1080 HD インターレース:
- 1080 HD (1920x1080) インターレース
- 25/29.97/30
 - 最高 30 fps の Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 最高 30 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 YCbCr)

EI メニューパラメーター

EI メニューボタンを押すと EI メニューパラメーターが表示されます。

24.1 EI

露光指数値を選択します。一般的に、屋外での撮影や、可能な限りノイズを抑えたい場合は、露光指数値を小さくします。光量が限定されている状況では、高い露光指数がよく使用されます。

選択可能なオプション

- **320** (デフォルト) – 露光指数を、照明を調節できる状況や屋外での撮影に適した値に設定します。
 - EI 320 では、ガンマと色補正を広範囲に設定できます。
- **500** – 露光指数を、光量を調節できる状況に適した値に設定します。
 - EI 500 では、ガンマと色補正を広範囲に設定できます。
- **800** – 露光指数を、光量が比較的少ない状況に適した値に設定します。
 - EI 800 では、一部のガンマと色補正の設定範囲が制限されます。
- **1000** – 露光指数を、光量が少ない状況に適した値に設定します。
 - EI 1000 では、ガンマと色補正の設定範囲が制限されます。

注： EI 値の変更中は、UI 画面およびビデオ出力がブラックになります。EI 値の再設定が完了すると、UI 画面とビデオ出力に映像が表示されます。

24.2 Shutter Type (シャッタータイプ)

シャッター情報の表示方法を設定します。

選択可能なオプション

- **Angle** (角度) (デフォルト) – 物理シャッターを補正する角度の値で、「180」などと表示されます。
- **Speed** (速度) – シャッタースピードが「1/48」などの分数値で表示されます。

注： Speed を選択すると、メニューパラメーター 24.3 が「Shutter Speed」として表示されます。Angle を選択すると、メニューパラメーター 24.3 が「Shutter Angle」として表示されます。

注： CION には、物理シャッターは搭載されていません。シャッターアングル (シャッター開角度) という用語は、単にフィルムカメラの知識を持つユーザーに対する説明を分かり易くするために使用されています。

24.3 Shutter Speed (シャッタースピード)

シャッタースピードはフレームレートによって異なります。

表 4. 選択可能なシャッター速度 (フォーマット別)

23.98 & 24	25	29.97 & 30	50	59.94 & 60	119.88 & 120
1/24	1/25	1/30	1/50	1/60	1/120
1/48 (デフォルト)	1/30	1/50	1/60	1/100	1/200
1/50	1/50 (デフォルト)	1/60 (デフォルト)	1/100 (デフォルト)	1/120 (デフォルト)	1/240 (デフォルト)
1/60	1/60	1/90	1/150	1/180	1/360
1/72	1/100	1/120	1/200	1/240	1/480
1/96	1/200	1/240	1/400	1/480	1/960
1/192	1/300	1/360	1/600	1/720	1/1440
1/288	1/600	1/720	1/1200	1/1440	1/2880
1/576					

24.3 Shutter Angle (シャッター角度)

シャッター角度はフレームレートによって異なります。

表 5. 選択可能なシャッター角度 (フォーマット別)

23.98 & 24	25	29.97 & 30	50	59.94 & 60	119.88 & 120
360	360	360	360	360	360
180 (デフォルト)	300	216	300	216	216
172.8	180 (デフォルト)				
144	150	120	120	120	120
120	90	90	90	90	90
90	45	45	45	45	45
45	30	30	30	30	30
30	15	15	15	15	15
15					

注： 値が 360 度でも、実際には極わずかに 360 度を下回っています。

役に立つヒント： スチール写真に詳しいユーザーにとっては、シャッター値を Speed (速度) として表示するように設定したほうがわかりやすく、フィルムや映画に詳しいユーザーにとっては、シャッター値を Angle (角度) として表示するように設定したほうがわかりやすくなります。

24.7 Gamma (ガンマ)

ガンマ設定をビデオに適用するかどうかを設定します。

選択可能なオプション

- Disabled (無効) – ガンマ曲線を使用しません。
(ガンマ曲線を適用すると、他の設定と比べて画像のコントラストが非常に強くなります)。

重要： この設定は、撮影後に色補正および映像処理の予定がある場合に使用してください。一般的な撮影用途には向いていません。

- Normal (ノーマル) – 非常に濃い黒と豊かな色彩を適用します。
- **Normal Expanded** (ノーマル拡張) (デフォルト) – 非常に濃い黒と豊かな色彩を適用します (Normal と比べてダイナミックレンジが拡張されている)。

注： この設定は、EI 1000 では利用できません。

- Video (ビデオ) – ビデオ製作において一般的な黒と色彩を適用します (Normal や Normal Expanded と比べてダイナミックレンジが拡張されている)。

注： この設定は、EI 800 や EI 1000 では利用できません。

- Expanded 1 (拡張 1) – 拡張されたガンマ曲線で、より幅広いダイナミックレンジを適用します。

重要： この設定は、撮影後に色補正および映像処理の予定がある場合にのみ使用してください。

注： この設定は、EI 800 や EI 1000 では利用できません。

WB メニューパラメーター

WB メニューには、ホワイトバランス、色、および彩度設定に関する設定オプションが用意されています。

25.1 White Balance (ホワイトバランス)

色温度プリセットの選択や、自動ホワイトバランス値のロードなどを行えます。

選択可能なオプション

- **5600K** (デフォルト) – デイライトバランス照明に適したホワイトバランス値。
- **3200K** – タングステンバランス照明に適したホワイトバランス値。
- **4500K** – 混合照明または蛍光灯に適したホワイトバランス値。
- **AWB** – ホワイトバランス値に「Auto White Balance (自動ホワイトバランス)」パラメーターが反映されます。
- **Unity** (無効) – ホワイトバランス補正を無効にします。

注： 自動ホワイトバランスの処理に失敗した場合、ホワイトバランスはデフォルトの「Unity」に設定されます。

25.2 Auto White Balance (オートホワイトバランス)

シーンアベレージからカラーバランスを割り出します。混合照明下や 25.1 「White Balance」パラメーターのホワイトバランスのプリセット値がシーンの要求を満たさない場合に、オートホワイトバランスを使うと最適な結果が得られることがあります。

- **OFF** (デフォルト)
- **SET** (設定) (選択ノブを押す)

役に立つヒント: 最適な結果を得るため、ホワイトバランス調整にはホワイトカードを使用することを強くお勧めします。その際は、ホワイトカードをレンズの正面に配置し、主光源の光が均等に当たるようにします。ヒストグラムを参照し、ホワイトカード上でクリッピングが発生しないように注意します。ホワイトカードがない場合は自動ホワイトバランスを実行することもできますが、ホワイトカードを使用した場合ほど正確な結果にはなりません。また他に注意すべき点として、シーンから十分な量の照明情報が得られない場合は、自動ホワイトバランスに失敗して警告メッセージが表示されます。自動ホワイトバランスが失敗した場合、ホワイトバランスはデフォルトの「Unity」に設定されます。

ショートカット: 自動ホワイトバランスは、WB メニューボタンを 3 秒間長押しするショートカットで実行できます。「Auto White Balance」パラメーターを選択して設定する必要はありません。

25.3 Saturation (彩度)

イメージ全体の彩度を設定します。

- 通常は「100」で色の彩度が表現されます。
- 「0」で彩度が完全になくなり、イメージがモノクロになります。

変数: 100～0 の範囲で設定できます。

注： ユーザーが設定した新しい値が黄色の文字で表示されるまで画像には反映されず、値の移動と平行して画像がリアルタイムに変化することはありません。

25.4 Color Correction (色補正)

カメラ内で色補正を反映したルックが再現できます。

- **Normal** (ノーマル) (デフォルト) – ガンマとホワイトバランスのほとんどの組み合わせで使用できます。「Normal」設定は全体的な色の正確性よりも肌の色合い表現に適しています。このルックは、適用されるガンマ設定によって大きく変化する場合があります。
- **Flat** (フラット) – 原則的にカメラ内でのあらゆる色補正を無効にします。この設定で生成された映像は、撮影後の編集段階で補足的な色補正が必要になることがあります。
- **Skin Tones** (スキントーン) – 「Normal」よりも彩度を抑えたスキントーン値が適用されます。「Normal」の色補正選択と比較すると、全体的に彩度が低下します。
- **Video** (ビデオ) – 従来のビデオカメラのような一般的なカラー値が適用されます。

STATUS (ステータス) メニュー

STATUS (ステータス) は設定メニューではなく、ステータス情報、警告、警報が表示されます。このメニューが他と異なるのは、収録中や再生中でも任意に選択できる点です。

STATUS (ステータス) メニューボタンを押すとメニューが表示されます。最初の「STATUS」ページには、実行中の撮影や再生のステータスが表示されます。次のページには、8.0「CONFIG」パラメーターで設定されている撮影用タイムコード設定が表示され、3つ目の「STATUS」ページには「Interval Record」のステータスが表示されます。

警告とアラーム

CION では警告やアラームが表示されますが、一部のアラームは自動的にディスプレイに表示されます。その他の警告やアラームは、STATUS ボタンを押し、ユーザーインターフェース調整ノブを回して「STATUS」画面を選択した場合にのみ表示されます。

アラーム条件に当てはまると、すべてのバックライトキーが最大輝度で2秒間点滅します。

警告やアラームが発生すると、アラームがリセットされるまで、STATUS ボタンのランプが点滅し続けます。これは、アラームの原因が解消されていないことを意味し、この状態でSTATUS ボタンを押すとアラーム内容を確認できます。

複数のアラームがある場合は、ユーザーインターフェース調整ノブを回し、スクロールすることで確認できます。

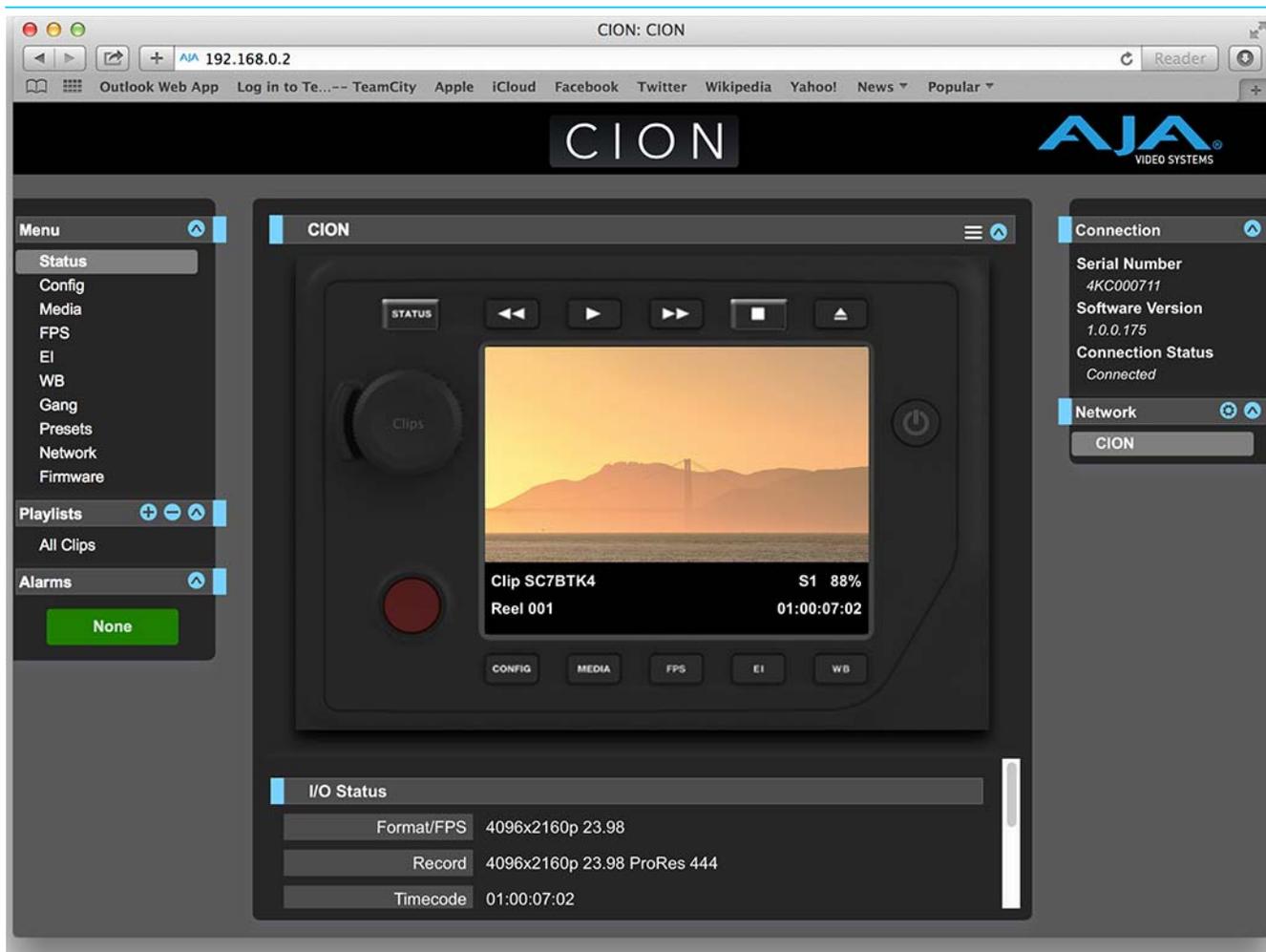
CION には、ユニットの状態、設定や信号の問題を診断する際に役立つ様々なアラームが用意されています。

以下に、アラームメッセージとその意味を説明します。

「Press Stop (停止ボタンを押してください)」:	収録中や再生中にメニューパラメーターを選択すると表示される場合があります。メニューパラメーターを選択する場合は、収録や再生を停止する必要があります。(このルールで唯一例外の「STATUS」メニューは、収録中や再生中でも選択して設定を確認できます。)
「WARNING Dropped Frames (警告：フレームドロップ)」:	メディアの機能が低下し、収録や再生に必要なデータレートを維持できない場合に表示されます。収録中にこのメッセージが表示されると、収録が停止します。このメッセージが表示された場合は、現在の撮影内容をバックアップして Pak Media をフォーマットするのもひとつの方法です。再生時の場合は、再生を再試行してみてください。
「WARNING Media Low (警告：空き容量低下)」:	Pak Media の空き容量が 15% になると表示されます。空き容量が 10% になると「WARNING Media Full (警告：空き容量なし)」メッセージが表示され、メディアを交換する必要があります。

「WARNING Media Unformatted (警告：メディア未フォーマット)」:	CION が Pak Media を認識できない場合や、メディアが CION 用にフォーマットされていない場合に表示されます。
「WARNING Storage Removed (警告：ストレージ取り出し)」:	メディアアンマウントボタンを押さずにメディアを取り外すと表示されます。この時、メディアをすぐに再挿入するとクリップが「N/A」と表示されて撮影できなくなる場合があります。この問題を解決するには、OSX がインストールされている Mac コンピュータにメディアをマウントしてから取り外し、CION に再挿入します。メディアを正常に読み込めない場合は、フォーマットする必要があります。また、この警告から「Please Reboot (再起動してください)」というメッセージに続くこともあります。
「WARNING Please Reboot (警告：再起動してください)」:	メディアアンマウントボタンを使わずに Pak Media を取り外したために、CION が動作を継続できず再起動が必要となった場合に表示されます。
「WARNING Backup and Reformat (警告：バックアップと再フォーマット)」:	マウントしているメディアに問題がある場合に表示されることがあります。このメッセージが表示された場合は、メディアに記録されている内容を別のハードディスクまたはディスクアレイにコピーしてバックアップし、メディアを再フォーマットするのが最善の方法です。メディアが読み出し専用状態であるにも関わらず、クリップがメディアに記録された場合は、UI のクリップエリアに「N/A」と表示され、次に「Loading (ロード中)」と表示されますが、実際にはクリップはロードされません。また、CION の設定を正しく行って撮影ボタンを押しても撮影は開始しません。
「WARNING Media In Use (警告：メディア使用中)」:	メディアが処理を実行している最中にユーザーが何らかの操作を行おうとすると表示されます。このアラームが継続的に発生する場合は、CION の電源を切り、コンピュータ上でメディア診断を実行してください。
「WARNING Name In Use (警告：この名前は使用されています)」:	命名パラメーターで指定したクリップ名がメディア上にすでに存在する場合に表示されます。これはテイクが 999 に到達し、使用できる番号がなくなった場合に表示されます。クリップが上書きされることはないため、クリップを削除するか新しい名前を選択する必要があります。
「WARNING No Clip Name (警告：クリップ名なし)」:	存在しないカスタムクリップ名を使用して連動モードで撮影を行おうとすると表示されます。
「WARNING Genlock Missing (警告：ゲンロックなし)」:	6.1 「Genlock」で「Ref In」を選択し、選択した入力でゲンロックが検出されなかった場合に表示されます。
「WARNING Invalid Selection (警告：無効な設定)」:	対応しない設定を選択した場合に表示されることがあります。
「AWB Failure (AWB 失敗)」:	このメッセージは、オートホワイトバランスを実行した際に、シーンに十分な光量がない場合や、オートホワイトバランスに適していない状況で表示されることがあります。

第 6 章 : Web ブラウザでのリモート操作



概要

CIONには最適化されたWebサーバーが搭載されているため、ネットワークに接続されたコンピュータ上のブラウザから、リモートモニタリングやパラメーター設定の調整が行えます。ネットワーク形式は、限定的なローカルエリアネットワーク、コンピュータとCIONをケーブルで直接接続、ファイアウォール利用のブロードバンドWANが利用できます。

注：ブロードバンドWANでの利用は、インターネット上の誰もがCIONにアクセスできる可能性があるため、あまり推奨されません。

CION における LAN 接続には標準の RJ45 コネクタが使用されますが、内部では標準の「ストレートスルー」CAT 5 Ethernet ケーブルまたはヌルモデム（クロスオーバー）ケーブルを通じてインテリジェントに通信が行われるため、設定やストラッピングの必要はありません。

CION のコントロールには、以下の Web ブラウザが推奨されます。

- Mac OS
 - Safari
 - Firefox
- Windows OS
 - Chrome
 - Firefox

注： 上記以外の Web ブラウザを利用できる場合もありますが、AJA ではすべての Web ブラウザ（およびそのバージョン）での適正な動作を常時保証することはできません。特定の Web ブラウザ（およびバージョン）を使用して CION の操作を行った際に予期しない動作が発生した場合は、別の Web ブラウザをご利用いただき、生じた問題を AJA のテクニカルサポートまでご連絡ください（6 ページの「サポートへのお問い合わせ」を参照）。

CION をリモートコントロールするには、CAT5 以上の Ethernet ケーブルを使用し、コンピュータを CION の LAN コネクタ（RJ45 ソケット）に接続します。

CION には、Web ブラウザで URL を入力するだけでアクセスできます。この URL は、CION の「Network」メニューパラメーターで設定する IP アドレスになります（ネットワーク経由で CION にアクセスするには、CONFIG メニューパラメーターの 50.1 ~ 50.4 をすべて正しく設定する必要があります）。CION で DHCP（デフォルト）が使用されている場合は、パラメーター 50.2 で IP アドレスを確認できます。CION が AJA から出荷される際は、デフォルトとして DHCP が設定されています。DHCP 設定は、既存の IT インフラにカメラを接続できる、スタジオでの撮影環境に最も適した設定です。

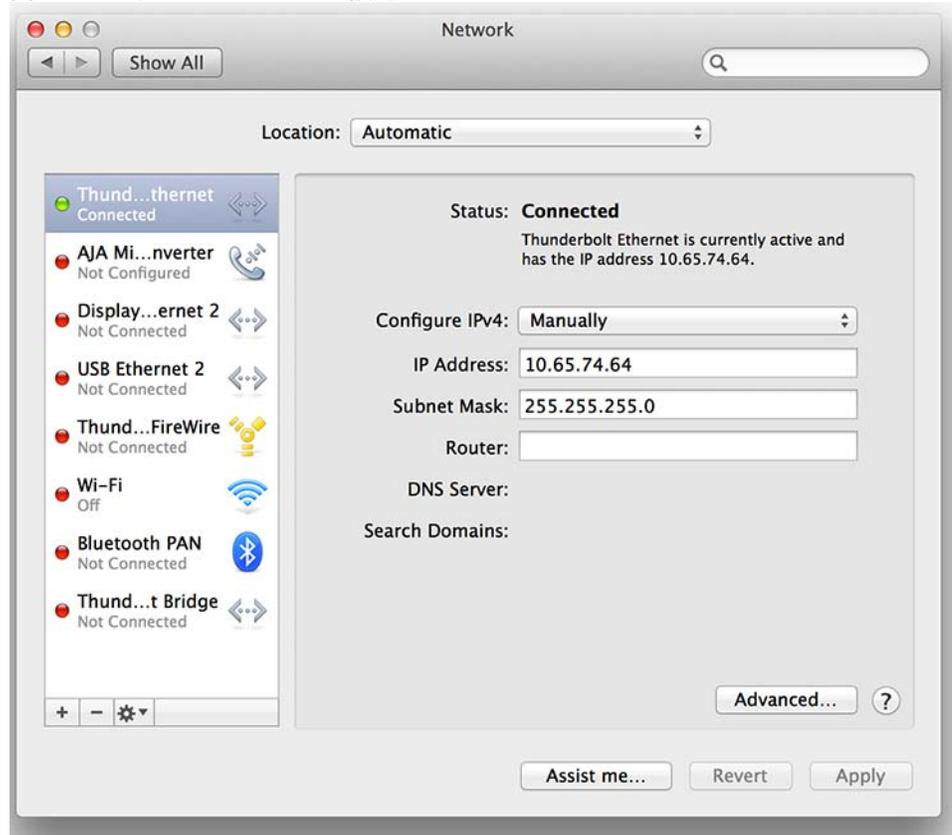
50.1 が「DHCP」に設定されている状態でネットワーク上の DHCP サーバーが IP アドレスの割り当てに失敗した場合は、CION の 50.2 「DHCP Address」パラメーターに「0.0.0.0」と表示されます。このアドレスでは、デバイスへの接続が行えません。DHCP ネットワークでデバイスへの接続に関する問題が発生した場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

50.1 が「Default Addr」設定されている場合、出荷時のデフォルト固定 IP アドレス 10.65.74.65 が設定されます。このため、50.1 が「Default Addr」に設定されている場合に CION の Web インターフェースを確認するには、以下の URL を Web ブラウザに入力します。

<http://10.65.74.65>

注： この IP アドレスにアクセスするには、使用するコンピューターやネットワークを設定する必要があります。またこの IP アドレスにアクセスするには、ホストコンピューターのネットワーク設定を変更する必要がある場合もあります。

図 17. デフォルトの IP アドレス設定

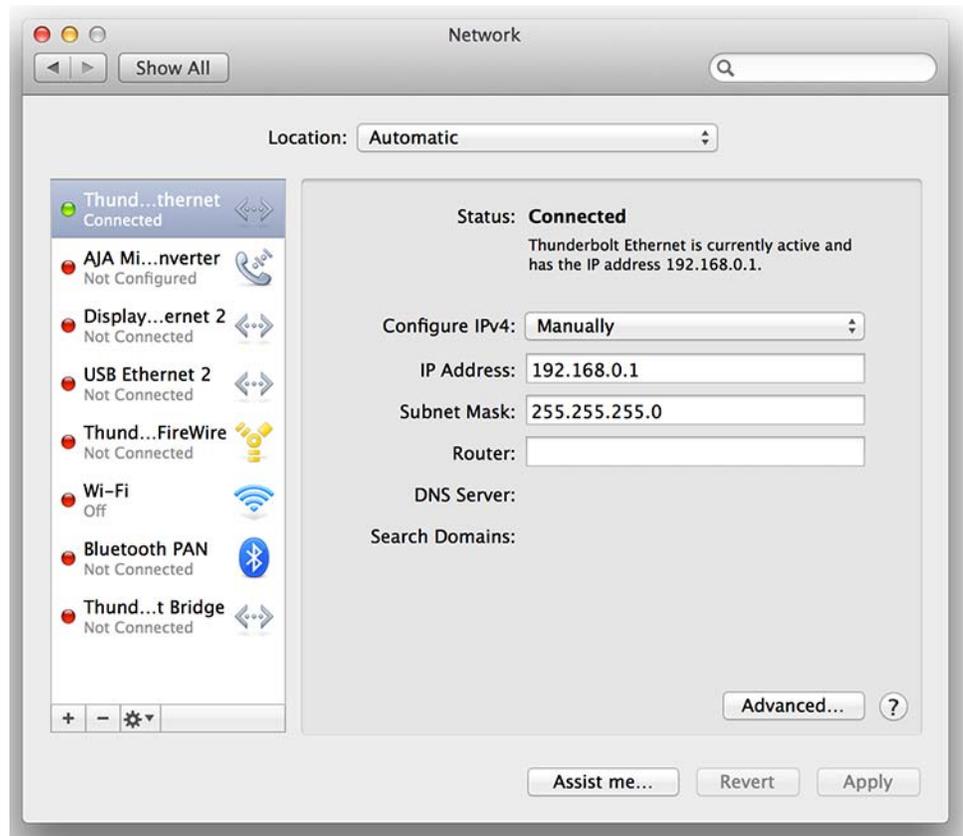


コンピューターと CION を直接接続する場合は、「Static Addr」オプションを使用します。このオプションでは、CION 用の IP アドレスを選択して適用できます。たとえば、IP アドレスに「**192.168.0.2**」を設定した場合は、以下の URL を Web ブラウザに入力すると CION の Web インターフェースを確認できます。

<http://192.168.0.2>

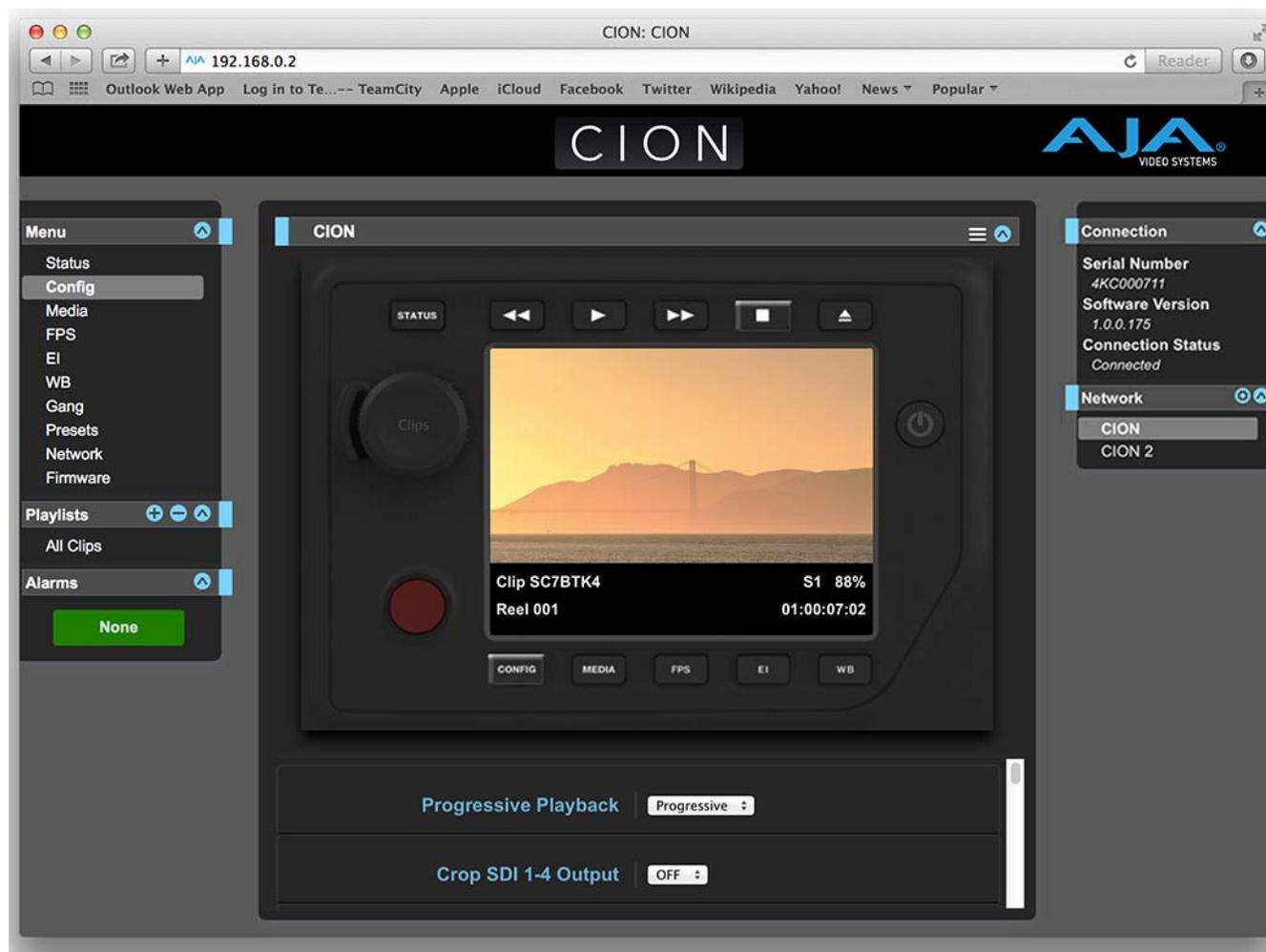
- 注： この IP アドレスにアクセスするには、使用するコンピューターやネットワークを設定する必要があります。またこの IP アドレスにアクセスするには、ホストコンピューターのネットワーク設定を変更する必要がある場合もあります。
- 注： CION カメラの固定 IP アドレスを変更する場合は、ホストコンピューターが新しい IP アドレスを正しく認識できるように、CION の電源をいったん切ってから入れ直す必要がある場合もあります。

図 18. 固定 IP アドレスの設定



すべての CION Web 画面には、共通するエリアがあります。各画面の左側には、CION の調整項目がすべて揃ったメニューパネルが表示されます。これらメニュー項目のいずれかをクリックすると、関連する画面が表示されます。各画面の右側には、[Connection (接続)] パネルが表示されます。この部分には、接続ステータス、CION のシリアル番号、ソフトウェアバージョンが表示されます。シリアル番号やバージョン情報は、AJA のテクニカルサポートにお問い合わせいただく際に役立ちます。

図 19. CION Web UI の [Config] 画面



[Connection] パネルの下にある [Network (ネットワーク)] パネルには、ネットワーク上の CION システムが表示され、コントロール対象のシステムを切り替えることができます。詳細は 74 ページの「複数の CION を使用した Gang Recording (連動撮影)」を参照してください。

各画面の中央にはメニューオプションと、画面上の項目に関する情報が表示されます。また、各画面の上部には実際の CION をエミュレーション (模倣) した画面が表示されます。

CION の Web 画面には、CION のフロントパネルに表示されるメニューパラメーターが反映されます。

メニューパラメーターの機能がよく分からない場合は、マウスポインタを目的のパラメーター名に重ねることで、そのパラメーターに関するヒントが表示されます。また、CION エミュレーション画面の上にあるプルダウンメニューで、このエリアに関するヒントを表示するかどうかを選択することができます。

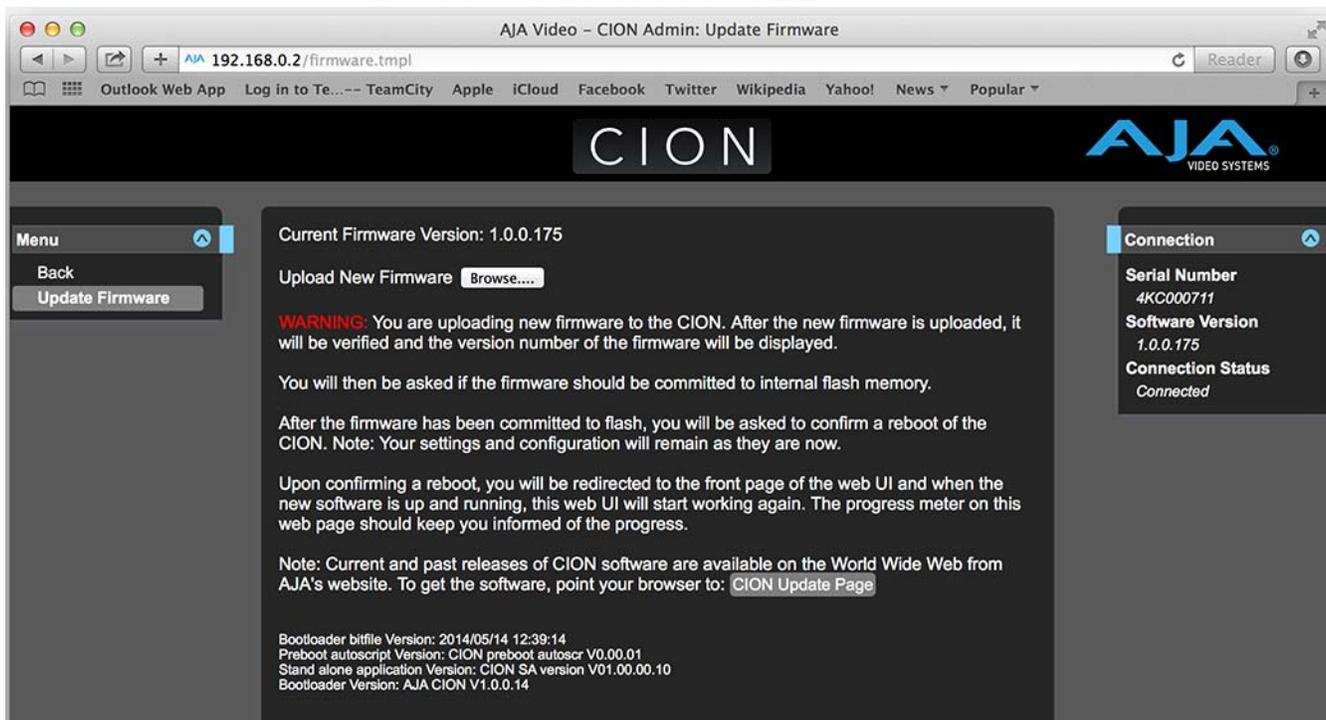
このエリアのボタンは、UIの左側にあるメニューバーと同じ要領で、メニューパラメーターにアクセスするために使用できます。操作ボタンは、クリップのプレイバック時にも使用できます。また、エミュレーション画面上にあるユーザーインターフェース調整ノブをクリックすると、クリップの操作からジョグ再生モードへと切り替えることが可能です。クリップ操作とジョグモードを切り替えるには、スクロールホイールの付いたマウス、またはタッチパッドを使用します。

Web UI 独自の操作

ファームウェアをアップデートする

[Update Firmware (ファームウェアのアップデート)] 画面では、AJA の Web サイトに掲載された最新バージョンのソフトウェアを CION にアップデートできます。多くの場合、ソフトウェアのアップデートがリリースされた際は、新機能、改善、役立つ情報などが追加されます。時間がある時に Web サイトを確認することをお勧めします。

図 20. ファームウェアのアップデート画面



CION はソフトウェアがインストールされた状態で出荷されますが、AJA の Web サイトに掲載されている最新バージョンではない場合があります。ここでは、CION のソフトウェアをアップデートする際に必要な手順について説明します。

注： ファームウェアをアップデートする際は、その前に CONFIG メニューでファクトリーリセットを実施することが推奨されます。

1. 最新の CION ファームウェアをダウンロードします。

AJA の Web サイトには、最新および過去にリリースされた CION のファームウェアが掲載されています。ファームウェアを入手するには、ブラウザで以下の URL にアクセスします。

www.aja.com/en/support/cion

CION のアップデートページで、適切なファームウェアファイルを選択し、ご使用の Mac または PC にダウンロードします。

2. ソフトウェアを解凍します。

CION のソフトウェアアップデートファイルは、標準アプリケーションやサードパーティ製アプリケーションで解凍できる「ZIP」形式で提供されます。Safari や Mac OS X などを使用している場合は、これらファイルが自動的に「解凍」されることもあります。CION にインストールするファームウェアのイメージファイルには、「CION_1.0.0.153.bin」などの名前が付いています。

ご使用の PC や Mac のオペレーティングシステムの設定によっては、ファイルディレクトリに拡張子「.bin」が表示されない場合もあります。

ファームウェアアップデートのアップロードやインストールは、Ethernet 接続を通じて CION を「認識」できる PC または Mac でのみ行うことができます。ファームウェアのインストールは以下の手順で行います。

1. IP アドレス情報が適切に設定されていることを確認し、ご使用の Web ブラウザで CION が認識されるようにします。
2. CION の IP アドレスを入力し、CION Web ページの左側にある [Update Firmware] ページのリンクをクリックします。
3. [Browse (参照)] ボタンをクリックし、事前にダウンロードしたファイル (CION_1.0.0.153.bin ファイルなど) を選択します。
4. 有効な CION .bin イメージファイルを選択した後、Web ブラウザの [Upload (アップロード)] ボタンをクリックします。

指定したファイルは CION にアップロードされ、有効かどうかテストされます。この工程により、不完全なファイル、破損しているファイル、CION ファームウェア以外のファイルは排除されます。

5. 表示される手順と確認事項に合意します。処理が完了するまで数分間待ちます。

処理の完了後、CION の再起動を促すメッセージが表示されます。再起動後、CION では新しいソフトウェアが実行されます。フロントパネルには進行状況が表示されます。

6. これらのステップが完了すると、次にアップデートするまで、CION は現在アップロードしたファームウェアで稼働します。

注： 新しいソフトウェアが適切に実行されているかを、CION の Web ページで再確認することをお勧めします。ソフトウェアのバージョンは、Web 画面の上部に表示されます。何らかの理由によってアップデートが正しく行われなかった場合は、アップデート手順を再度実行してください。

注： 一部のブラウザでは、ファームウェアのアップデートが成功したにもかかわらず [Retry (再試行)] ページが表示される場合があります。その場合は、[Retry] をクリックする前に、Web ページを更新してバージョンを確認してください。ページ上部に新しいバージョンが表示された場合は、ファームウェアのアップデートが正常に完了したことを意味します。古いバージョンが表示された場合は、[Retry] をクリックしてください。

ファームウェアのダウンロード中に停電や問題が発生した場合は、古いソフトウェアバージョンで起動するため、その後にアップデートプロセスを再開することができます。これは、アップデートプロセスに失敗した場合に備え、以前のソフトウェアの「安全」なコピーを内部に保管する安全機能によるものです。

注意！ CION のアップデートは、主電源に接続されている場合やバッテリーが完全に充電されている状態で行うことをお勧めします。

プリセット

[Presets (プリセット)] 画面では、プリセット設定を 20 件まで、メモリアreaにセーブ（保存）することや必要に応じてプリセットのロード（呼び出し）を実行できます。

図 21. プリセット画面



この画面にはエクスポート / インポート機能も用意されているため、1 つもしくはすべてのプリセットをファイルとしてコンピューターにエクスポートすることや以前にエクスポートしたプリセットファイルをコンピューターからインポートすることもできます。セーブ、ロード、エクスポート、インポートの成功と失敗はメッセージで表示されます。

[Save (セーブ)] ボタン: [Save] ボタンは、現在の設定を名前と番号と共に、プリセットレジスタに保存するために使用します。プリセットは保存時に設定され、一連のシステムパラメーターで構成されます。プリセットには、編集可能なパラメーターのみが保存されます。編集できないパラメーターは保存されません。

プリセット名を変更するには、名前のテキストフィールドをクリックして新しい名前を入力し、Enter キーを押します。

プリセット設定をロードすると、システムの既存設定がプリセットによって直ちに上書きされます。上書きされた設定は、あらかじめ別のプリセットとしてセーブしておくか、ファイルとしてエクスポートしていないと、すべて失われます。

[Import (インポート)] ボタン: [Import] ボタンは、コンピューター上のプリセットファイルを指定し、プリセットレジスタにインポートするために使用します。この操作を行うと、現在のプリセットがファイル内に保存されているデータによって上書きされることを警告するダイアログボックスが表示されます。

[Import Presets 1-20 (プリセット 1 ~ 20 のインポート)] では、以前にエクスポートした「all.presets」ファイルをインポートできます。この操作を行うと、20 件の既存プリセットがすべて、ファイル内に保存されているプリセットに上書きされることを警告するダイアログボックスが表示されます。

[Export (エクスポート)] ボタン: [Export] ボタンは、対象のプリセットをコンピューター上のファイルとして保存するために使用します。このファイルは、使用するブラウザのオプションで設定されている、デフォルトのダウンロード場所にエクスポートされます。ファイルの名前は、プリセット名と同じ名前に拡張子「.presets」が付きます。同じプリセットのファイルを複数エクスポートする場合は、固有のファイル名となるように数字が付加されます。ファイルサイズは小さく、通常は 10 キロバイト未満です。

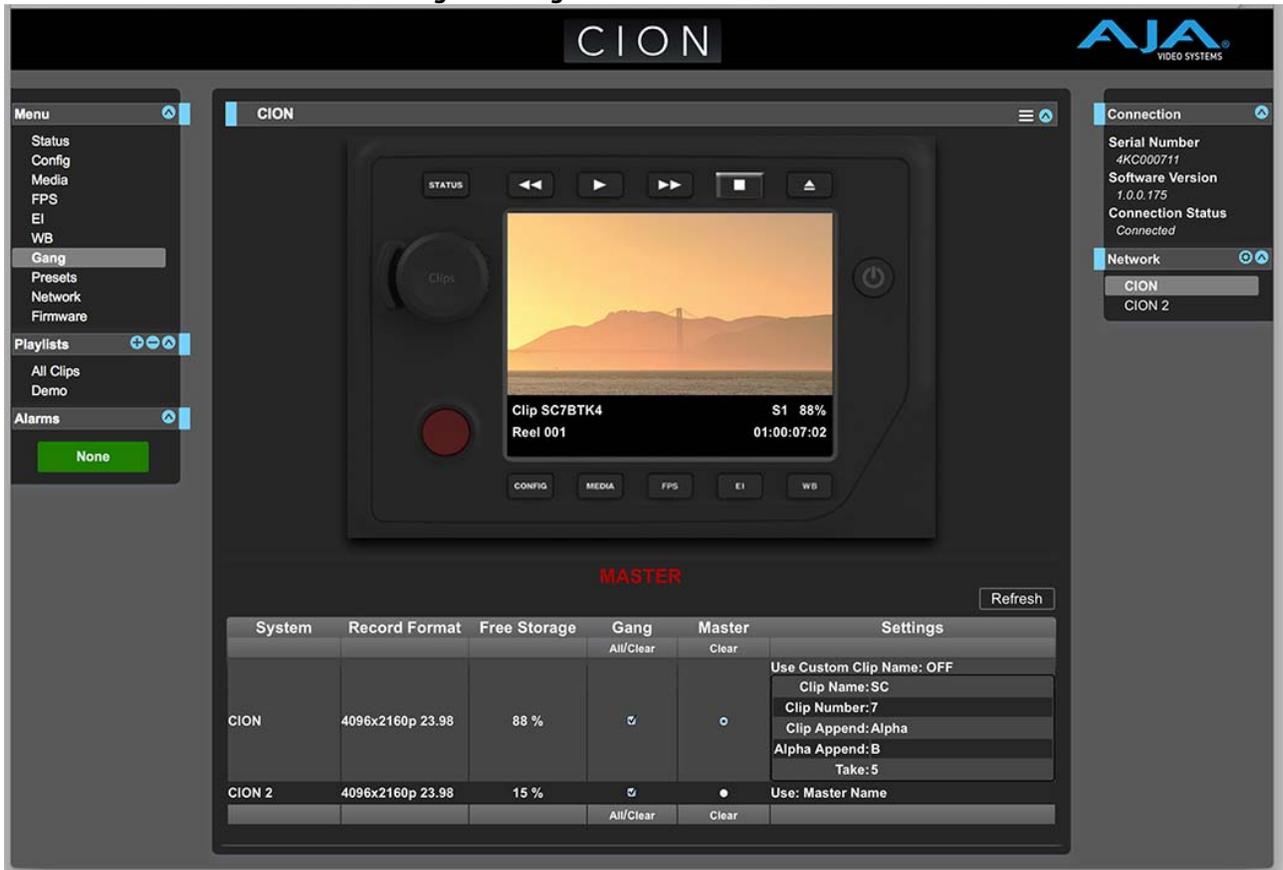
[Export Presets 1-20 (プリセット 1 ~ 20 のエクスポート)] では、20 件すべてのプリセットを、1 ファイルに保存できます。ファイルは、使用するブラウザのオプションで設定されている、デフォルトのダウンロード場所に「all.presets」という名前でエクスポートされます。複数のファイルをエクスポートする場合は、固有のファイル名となるように数字が付加されます。

ファクトリープリセットのロード: [Recall Factory Preset (ファクトリープリセットのロード)] は、編集可能なビデオとオーディオの全パラメータを、出荷時のデフォルト設定に戻すために使用します。個々のプリセット、ユーザーの基本設定、ネットワーク設定 (IP アドレスなど) は影響を受けません。

複数の CION を使用した Gang Recording (連動撮影)

Web UI の [Connection (接続)] セクションでは、同じローカル LAN 内に存在するすべての CION システムを一目で確認することができます。それぞれのシステム名は、画面右側の [Network] パネルに表示されます。

図 22. Gang Recording (連動撮影) の画面



システム名をクリックすると、選択した CION のシステムに関する情報がブラウザに表示されます。

注： CION を画面に表示させるには、デフォルトゲートウェイを正確に設定する必要があります。デフォルトゲートウェイ（パラメーター 50.4）が正しく設定されていない場合、他の CION は画面に表示されません。

Gang（連動）コントロール機能を利用すると、複数台の CION による同時収録が行えます。この機能は、共通のネットワークとサブネットマスクで設定された IP アドレスが CION に設定されていると同時に、CION が LAN 接続経由で Ethernet スイッチ / ハブおよびホストコンピュータに接続されている場合にのみ、Web UI を通して利用できます。連動撮影に利用するすべての CION には、同じバージョンのファームウェアを搭載することを推奨します。

例：ネットワークに接続された「マスター（親）」CION と「スレーブ（子）」CION があり、それぞれの固定 IP アドレスは「192.168.0.2」と「192.168.0.3」で、サブネットマスク値は両方とも「255.255.255.0」です。これらは共に、IP アドレス「192.168.0.1」、サブネットマスク「255.255.255.0」のホストコンピュータに接続されています。ホストコンピュータでは、Apple 社の Safari などの Web ブラウザを使用し、ブラウザの URL フィールドに「192.168.0.2」と入力して「マスター」CION にアクセスします。これにより、「マスター」CION の情報が Web UI に表示されます。ユーザーインターフェースで、[Gang（連動）] コントロールエリアを確認します。

[Gang] コントロールエリアには、有効な CION のパラメーターが表示されます。パラメーターには以下が含まれます。

- System（システム） - 連動撮影に追加された CION が表示されます。
- Record Format（撮影フォーマット） - 撮影用に設定された各システムのビデオフォーマットの種類 / フレームレートが表示されます。
- Free Storage（空き容量） - 各 CION のメディアの残り空き容量が表示されます。
- Gang（連動） - CION を連動撮影に追加、または連動撮影から削除できます。
- Master（マスター） - CION に制御ロールを割り当てられます。
- Settings（設定） - マスター / スレーブ CION のクリップ名を設定できます。

CION を連動撮影に追加するには、対象の CION の [Gang] 列にあるチェックボックスをオンにします。有効な CION のすべてを連動撮影に追加する場合は、[Gang] 列にある [All（すべて）] を選択すると一斉に追加できます。連動撮影から CION を除外するには、[Gang] 列での選択を解除するか、[Clear（クリア）] オプションを使用します。

連動撮影のマスターは 1 台に限られます。一般的に、ユーザーが CION 用 IP アドレスを入力し、Web UI に表示されている CION が、制御ロールを担うマスターとなります。Web UI に表示されている IP アドレスの CION をマスターとして選択すると、[Gang] 列の上に赤い大文字で「MASTER」と表示されます。

マスター CION は、連動撮影のスレーブ CION に対し、撮影開始コマンド、停止コマンド、クリップ名の 3 アイテムを送信できます。

各 CION のクリップ名は [Settings] エリアで設定できます。デフォルトでは、CION のクリップ名は、カスタムクリップ命名規則ではなく、標準のクリップ命名規則を使用して設定されます。最初にユーザーが選択するのが [Use Custom Clip Name] です。標準のクリップ命名規則を使用する場合はこの設定を「OFF」のままにしておきますが、カスタムクリップ名を作成する場合は、「OFF」をクリックして表示されるプルダウンメニューから「ON」をクリックし、続いて [OK] をクリックします。「OFF」を選択した場合、次のパラメーターは [Clip Name] になります。表示される [SC] または [Clip] をクリックすると、プルダウンメニューと [OK] ボタンを含むウィンドウが表示されます。[Clip Number] には、CION に対する有効な値を 1～999 の範囲で手動入力する必要があり、入力後は Enter キーを押して確定します。数値の入力後に Enter キーを押して確定しないと、値はその前の状態に戻ってしまいます。

[Clip Append] と [Alpha Append] の隣にある値をクリックすると、プルダウンメニューと [OK] ボタンが表示されます。1～999 の範囲で有効な値を入力できる [Clip Number] の操作は、入力した値を確定するために Enter キーを押す必要があります。カスタムクリップの命名に関する詳細は、56 ページの「19.1 Use Custom Clip Name (カスタムクリップ名の使用)」を参照してください。

スレーブ CION の場合、[Settings] 列には [Use: Master Name] または [Slave Name] が表示されます。[Master Name] のデフォルト値をクリックすると、[Master Name] または [Slave Name] プルダウンメニューと、[OK] ボタンが表示されます。すべての CION ユニットで同じ名前のクリップを使用する場合には、[Use: Master Name] を選択します。CION ごとに異なるクリップ名を付ける場合には、[Slave Name] を選択します。[Slave Name] を選択すると、個々の CION パラメータからの名前が収録ファイルに使用され、マスター CION からスレーブに提供される値は使用されません。

注： CION では複数の CION を用いた撮影を迅速に開始できますが、すべての CION が同時に同じフレームで正確に撮影を開始 / 停止できるわけではありません。しかし、タイムコードジェネレーターによる個別出力またはタイムコード用の分配増幅器を経由し、LTC によって一致したタイムコードが各 CION に送信されている場合、これはほとんど問題になりません。

注： CION は、メディアの同時プレイバック機能を搭載していません。収録の開始と停止のみを操作できます。

LAN によるデータ転送

CION の「Media State」が「Data-LAN」に設定されている場合は、適切にエンコードされた QuickTime ファイルを CION にアップロード、またはインターフェースの [All Clips] メニューを使用して CION からダウンロードできます。(クリップのエンコード要件については、77 ページの「適切にエンコードされたクリップ」を参照。)

図 23. データ LAN 画面



アップロード時には、アップロードされているファイルの名前、アップロードされているファイルのサイズ、進行状況バー、[Cancel (キャンセル)] ボタンなど、アップロードに関して役立つ情報が表示されます。また、転送速度情報、転送の残り時間、転送済みデータのパーセンテージも表示されます。

注： アップロードがキャンセルまたは何らかの理由で中断された場合は、転送していたクリップを再び選択し、転送を再スタートさせることで容易に再開できます。アップロードを途中でキャンセルした場合は、[Delete Partial Uploads (部分的なアップロードファイルを削除)] オプションを選択すると、部分的に行われたアップロード分の領域をメディアから解放できます。

クリップをダウンロードするには、[Download (ダウンロード)] オプションを選択します。ファイルは、Web ブラウザで設定されている特定のダウンロード先にダウンロードされます。

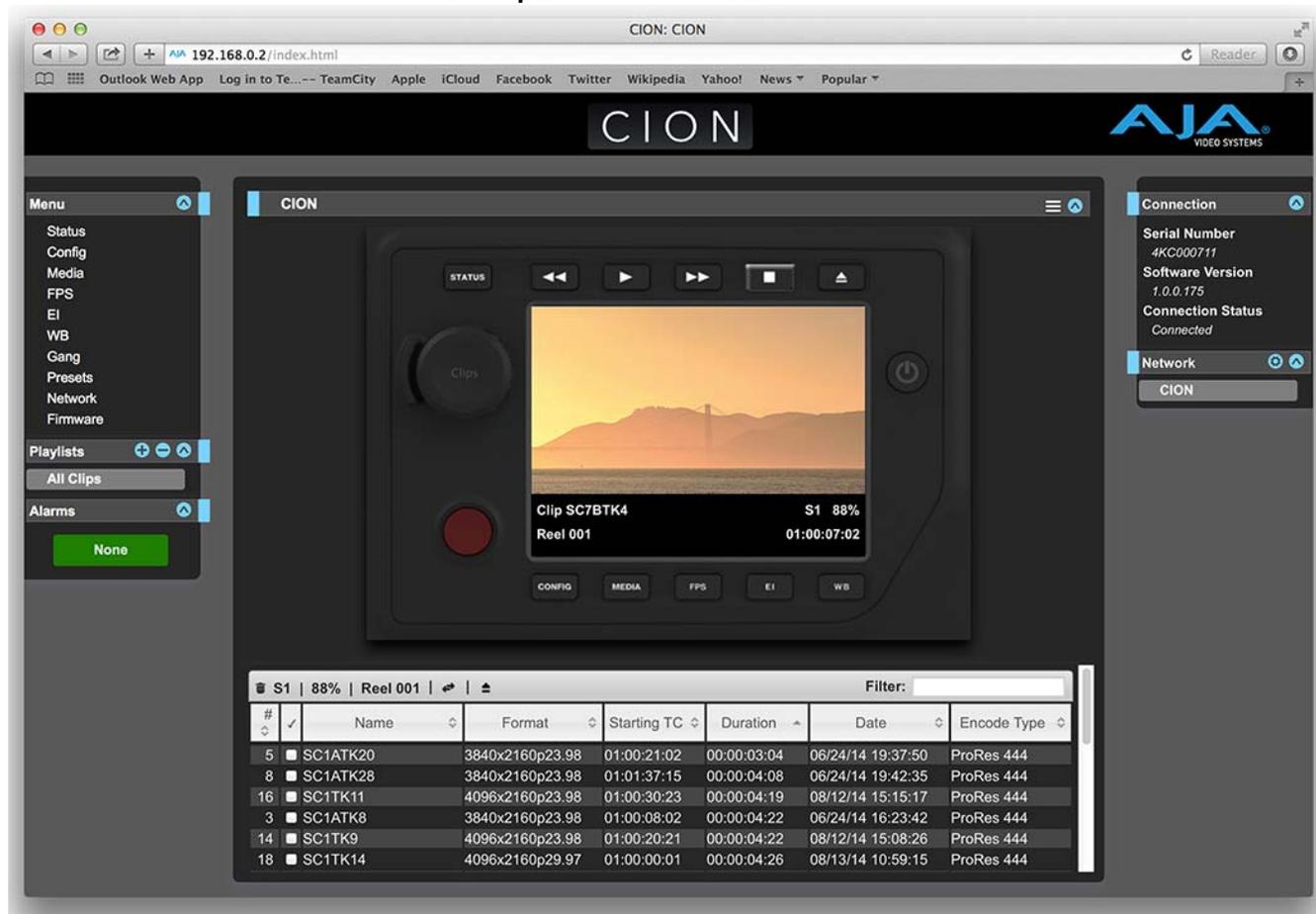
適切にエンコードされたクリップ: 適切にエンコードされたクリップの要件は、以下の通りです。

- 対応コーデック
 - Apple ProRes 444
 - Apple ProRes 422 (Proxy)
 - Apple ProRes 422 (LT)
 - Apple ProRes 422
 - Apple ProRes 422 (HQ)
 - 対応フレームサイズ
 - 4096x2160 (4K)
 - 3840x2160 (Quad HD)
 - 2048x1080 (2K)
 - 1920x1080 (HD)
 - 対応フレームレート
 - 4K、Quad HD、2K、1080p 映像の場合は、23.98、24、25、29.97、30、50、59.94、60 fps
 - 25 または 29.97 fps の 1080i 素材の場合
 - インターレース映像に対する適切なインターレース設定：50 Hz と 59.94 Hz の場合は、HD インターレース映像が最初のトップフィールドとなります。
 - 適切なサウンド設定
 - フォーマット > リニア PCM
 - チャンネル > ステレオ (LR)、2 チャンネル個別、または 8 チャンネル個別
 - レート > 48.000 kHz
 - サンプルサイズ > 24 bit、リトルエンディアン
- 注： あらゆるフォーマット、フレームレート、コーデックの組み合わせに対応しているわけではありません。詳細は、59 ページの「フォーマットとフレームレートの設定に関する注意」を参照してください。

プレイリスト

クリップのレビューや、クリップのプレイリスト作成が行えるツールが用意されています。クリップのプレイリストは、CION 上のクリップすべてがデフォルトの [All Clips] プレイリストに表示される、Web ブラウザの [Playlists] 画面で管理できます。

図 24. [All Clips] のプレイリスト画面

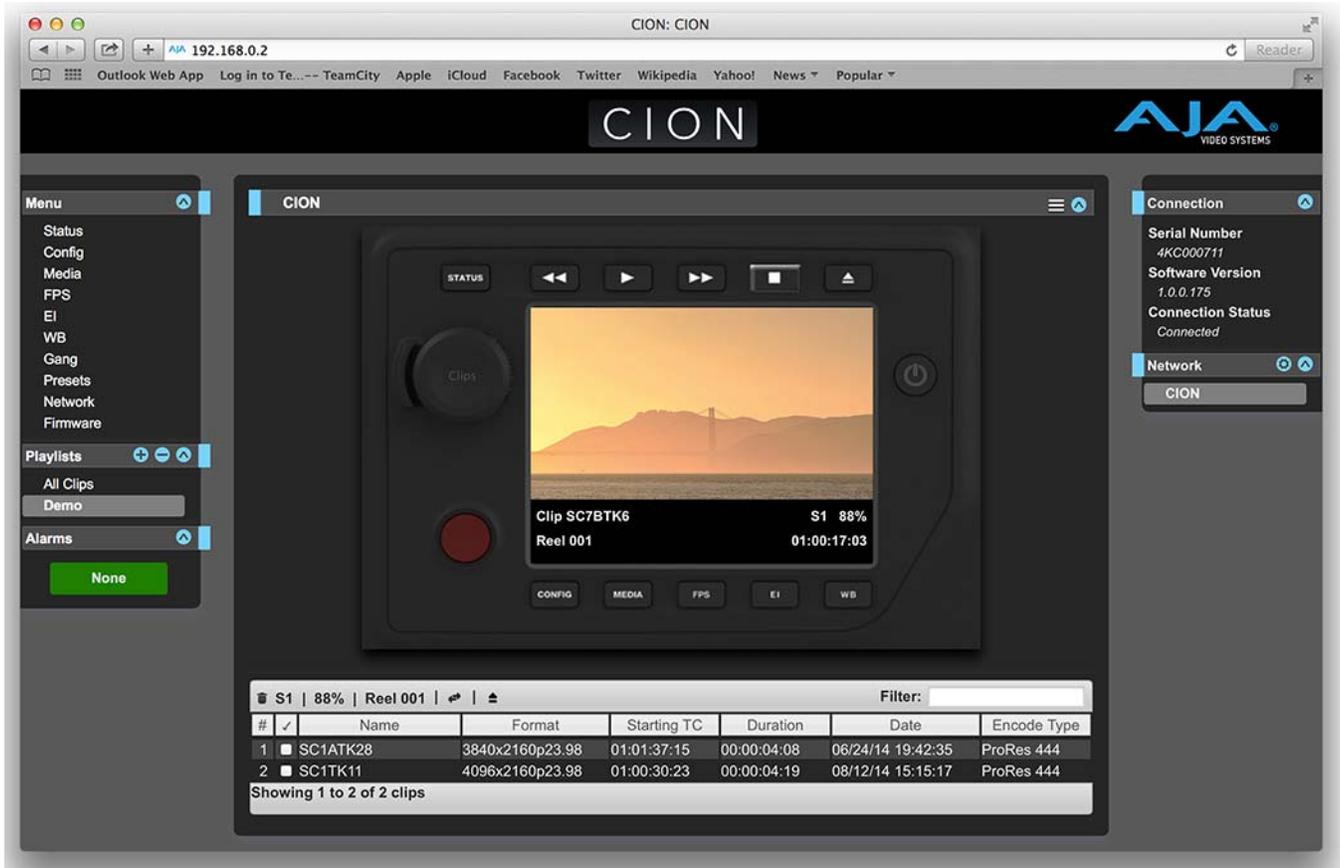


デフォルトのプレイリストには、有効なすべてのクリップがリスト表示されます。[All Clips] には、CION で行われたすべての収録、または CION に転送されたすべての有効なファイルが含まれます。

クイックキュー: リスト内でクリップをダブルクリックするだけで、簡単にクリップのキューアップ（頭出し）を行えます。クリップをダブルクリックして選択すると、リスト内で青くハイライト表示され、対象のクリップの最初のビデオフレームが CION の出力に表示されます。このクリップを再生するには、Web UI の [Transport (トランスポート)] ページを開き、[Play (再生)] ボタンを使用して再生します。プレイリストの「ミニプレイヤー」を使用して再生することも可能です。また、[Media (メディア)] > [Play Media (メディアの再生)] > [All selection (全選択項目)] を設定し、レビュー用のクリップを選択してハイライトすると同時に、CION 出力から連続的に再生させ、映像をすばやく確認することもできます。

プレイリストの作成: Web UI の [Playlists] セクションには、リストの上部に [+] 記号と [-] 記号があります。[+] 記号は、プレイリストを追加する際に使用します。[+] 記号をクリックし、作成するプレイリストの名前を入力します。プレイリストにクリップを追加するには、[All Clips] リストからクリップを選択して青くハイライトし、作成したプレイリスト名の上にドラッグアンドドロップします。

図 25. プレイリスト画面



注： クリップを選択してドラッグアンドドロップすると、映写スライドのアイコンが表示されます。このアイコンが表示されない場合は、クリップが選択されていないことを意味します。

クリップをプレイリストにドラッグすると、プレイリストが緑にハイライトされ、左側の[+]記号と共に映写スライドアイコンが表示されるため、クリップが追加可能な状態にあることを一目で確認できます。マウスのボタンを離してクリップをドロップすると、プレイリストにクリップが追加されます。同様の方法でさらにクリップを選択し、プレイリストに追加できます。

多数のクリップを一度にプレイリストに移動させるには、チェックマークの付いた列のチェックボックスを選択してオンにしてから、リストにドラッグします。

プレイリストを確認するには、Web UIの[Playlists]エリアで目的のリストをクリックします。

クリップの順番を変更する： リスト内のクリップの順番は、ドラッグアンドドロップで簡単に変更できます。クリップを選択すると映写アイコンが表示され、クリップの順番を変更する際には緑でハイライトされるため、一目で状況を把握できます。

クリップをプレイリストの最後に直接移動することはできません。プレイリストの最後にクリップを移動させるには、リスト内の最後から2番目の位置にクリップを移動させてから、最後のクリップをその前に移動させます。

プレイリストは複数作成できます。プレイリストはシンプルなファイルで、クリップと共にCIONのメディアに保存されます。

作成したプレイリストを再生するには、[Media]メニューパラメーターで[Play Media] > [Playlist]の順に選択します。

注： クリップのレビューを行ったことがあるかどうかに応じ、プレイリストの選択を行う [Media] ページに移動する前に、「Press Stop (停止ボタンを押してください)」というメッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示された場合は、[Transport] ページに移動して [Stop] を押し、その後 [Media] ページに移動してください。

[Media] メニューで [Playlists] パラメーターからプレイリストを選択します。プレイリストを選択すると、Web UI の [Playlists] セクションでは、選択したリストの隣に二重矢印が表示されます。Web UI の [Transport] セクションに移動すると、プレイリストがキューアップされ、リスト内の最初のクリップの再生準備が整った状態にあることを確認できます。リスト内での移動には、早送りボタンや巻き戻しボタン、または上下ボタンを使用できます。また、[Media] メニューのパラメーターを使用してプレイリストをループ再生することもできます。

プレイリストの管理は Web UI で行えます。CION のフロントパネルでは、プレイリストの作成と管理は行えません。選択したプレイリストは、メニューパラメーター 15.3 「Playlist」によってフロントパネルの UI に表示されます。CION を再起動すると、プレイリストの選択情報は失われますが、作成されたプレイリスト自体のデータは保持されます。

第 7 章 : AJA 純正オプションアクセサリーの 使用

概要

CION は、様々なアクセサリーと合わせて使用できるよう設計されています。AJA では、一部のアクセサリーを別売りのオプションアイテムとして提供しています。ここでは、これらアクセサリーについて説明します。

バックフォーカスツール

図 26. バックフォーカスツール



バックフォーカスツールは、CION のフランジ焦点距離を精密に調整するために使用します。CION のフロント部分には、バックフォーカスアクセスドアがあります。このドアにアクセスするには、CION に付属するトップハンドルを取り外す必要があります。

トップハンドルを取り外すには、まずハンドルのフロント部分にあるロッドとキャップを回して外し、続いて、ハンドルを固定しているロッドクランプを緩めます。ハンドルおよび付随する LANC カラーを取り外し、これらを横に置いておきます。

次に、トップハンドルベースをトップチーズプレートに留めている 4 本の 1/4-20 ネジを取り外します。バックフォーカスアクセスドアは、2 本の T10 トルクスネジで固定されています。これらのネジを取り外し、横に置いておきます。バックフォーカスアクセスドアを取り外します。ドアを外すことで、調整リングが見えるようになります。

フランジ焦点距離を調整するには、調整リングの丸い窪みの 1 つに、金属製のシャフトツールを差し込みます。調整を行うため、適切なターゲットをレンズの正面に配置します。これには、ジューメンススターや他のパターンチャート、または Denz FDC などのキャリブレーション専用ツールなどを使用できます。これらの計測機器がない場合は、中距離 / 望遠レンズを CION に取り付け、絞りを開放にした状態で計測やフォーカスチェックを安定した結果を得られるまで、バックフォーカスツールを調整することもできます。注：この方法は、レンズのコリメートを適切に合わせることができ、正確な目標マークがあることを前提としています。

重要: バックフォーカスツールを使用したフランジ焦点距離の調整は、最大でも 5 回回せばキャリブレーションを行えます。何回やっても調整を完了できない場合は、別に問題がある可能性が高いと考えられます (レンズのコリメート、使用されているレンズマウントなど)。指定回数を超えると、カメラを工場に返送してメンテナンスしなければならない状況になることがあります。

CION のフランジ焦点距離に対する調整が完了したら、2 本の T10 トルクスネジでバックフォーカスアクセスドアを固定し、4 本の 1/4-20 ネジで CION のトップハンドルを元の位置に取り付けます。

フロントベースプレート

図 27. フロントベースプレート



フロントベースプレートは、軽量の 15mm 仕様となっています。映画業界やビデオ業界では、マットボックスやフォローフォーカスなどのアクセサリの取り付けに、軽量の 15mm が標準として広く使用されています。

フロントベースプレートを CION に取り付けるには、同梱の 1/4-20 ネジ 4 本を使用します。この 1/4-20 ネジを挿入する位置には、4 箇所のネジ穴が用意されています。ベースプレートをできるだけまっすぐ配置することにより、15mm ロッドとレンズが適切に配置され、マットボックスなどのアクセサリを簡単に統合できるようにします。ベースプレートを適切な位置に取り付けるため、ベースプレートには 4-40 ガイドピンが用意されています。

フロントベースプレートを適切に配置して固定した後は、必要に生じてすぐ使えるように、取り付けただまにしておくことも可能です。

ユーザーが用意した適切な長さの 15mm ロッドを、フロントベースプレートのロッドクランプに挿入します。ノブを使用してロッドを締め付け、しっかり固定します。注：手持ち撮影でベースプレートを使用する場合は、ベースプレート以上の長さのロッドを使用することはお勧めしません。フロントベースプレートの長さを超えるロッドは、リアベースプレートアクセサリと組み合わせて使用することも可能です。

注： フロントベースプレートアクセサリの高さは、15mm または 19mm 仕様のサードパーティ製ベースプレート / ブリッジプレートと合わせて使用できるように設計されています。

リアベースプレート

図 28. リアベースプレート



リアベースプレートは、フロントベースプレートと同様に軽量 15mm 仕様を特徴としています。このベースプレートは、軽量のモニターやバッテリーブラケットなど、リアマウントタイプのアイテムの取り付けに使用できます。

注： リアベースプレート用アクセサリを CION と併せて使用する際は、CION 付属のバッテリーアダプタープレートも必ず使用してください。

リアベースプレートを CION に取り付けるには、リアベースプレートのトップ部分をバッテリーアダプタープレートのボトム部分にあるスロットに差し入れます。アクセサリ付属の 1/4-20 プラスネジ 2 本を用いてアクセサリをヒール部分に固定し、1/4-20 キャップスクリュー 2 本を用いてリアベースプレートをバッテリーアダプタープレートに固定します。

注： ヒールのネジ穴損傷を防ぐため、リアベースプレートが CION のヒール部分だけでなく、バッテリーアダプタープレートにもしっかり固定されていることを確認してください。

アッパーロッドクランプ

図 29. アッパーロッドクランプ



アッパーロッドクランプは、フロントベースプレートやリアベースプレートと同様に、軽量 15mm 仕様を特徴としています。アッパーロッドクランプは、以下のアイテムを取り付ける際に活躍します。

- サードパーティ製ビューファインダーブラケット
- 15mm ロッドベースの軽量サポートアーム
- フォーカス / アイリス / ズームモーターなど

アッパーロッドクランプを取り付けるには、CION 付属のハンドル部分を取り外す必要があります。ハンドル部分を取り外した後、ハンドル部分と CION のトップチーズプレート間にアッパーロッドクランプを取り付けます。アッパーロッドクランプに付属する 1/4-20 ネジ 4 本を使用し、ハンドル部分とアッパーロッドクランプを CION のトップチーズプレートに固定します。

9 インチ延長アーム

図 30.9 インチ延長アーム



9 インチ延長アームを使用すると、ハンドグリップなどのアイテムをカメラ本体から離して装着することができます。この延長アームは、付属のノブだけで容易に別のロゼットを取り付けられます。

注： 両方の付属ノブを使用する必要がない場合は、不要なノブを回して取り外してください。

6 インチ延長アーム

図 31.6 インチ延長アーム



6 インチ延長アームを使用すると、ハンドグリップなどのアイテムを、カメラ本体から若干離して装着することができます。この延長アームは、付属のノブだけで容易に別のロゼットを取り付けられます。

注： 両方の付属ノブを使用する必要がない場合は、不要なノブを回して取り外してください。

ロッド - ロゼットマウント

図 32. ロッド - ロゼットマウント



ロッド - ロゼットマウントを使用すると、ロッドベースのアクセサリ（ハンドグリップなど）を、ロゼット接続部に取り付けられます。このアダプターは、付属のノブだけで容易に別のロゼットに取り付けられます。

VCT-WEDGE

図 33. VCT-WEDGE



このウェッジは、従来の ENG クイックリリースプレートと併せて使用できます。
VCT-WEDGE は、同梱の 1/4-20 プラスネジ 2 本を使って CION のボトム部分（またはフロントベースプレートアクセサリーのボトム部分）に取り付けます。

注： VCT-WEDGE は単独で使用するだけでなく、CION を ENG クイックリリースプレートに取り付ける場合に VCT-HEEL/VCT-HEEL-RBP アクセサリーと合わせて使用することもできます。

VCT-HEEL

図 34. VCT-HEEL



VCT-HEEL は、従来の ENG クイックリリースプレートと併せて使用します。同梱の 1/4-20 ネジ 2 本を使用し、CION のボトム部分に取り付けます。

注： VCT-HEEL は、CION にベースプレートが取り付けられていない状態で使用するアクセサリーです。CION のフロント / リアベースプレートアクセサリーが CION に取り付けられている場合は、代わりに VCT-WEDGE と VCT-HEEL-RBP を使用してください。

VCT-HEEL-RBP

VCT-HEEL-RBP は、VCT-WEDGE およびリアベースプレートと合わせて使用します。CION と併せてフロントベースプレートとリアベースプレートアクセサリーを使用している場合に、適切なスペーシングを確保するには、ENG クイックリリースプレートとの連結に VCT-HEEL-RBP が必要となります。VCT-HEEL-RBP は、同梱の 1/4-20 ネジ 2 本を使用してリアベースプレートアクセサリーのボトム部分に取り付けます。

ビューファインダーマウント

図 35. ビューファインダーマウント



CION 用のビューファインダーマウントは、サードパーティ製の各種ビューファインダーや軽量小型のオンボードモニターに対応し、柔軟な調整が行えます。L 字型のブラケットは、回転させてビューファインダーやモニターをしっかりと固定できます。また、ロゼットとノブによって、ブラケットの角度も調整できます。15mm ロッドにより、L 字型ブラケットをさらに離れた位置や中心近くに配置することも可能です。もう一方の 15mm ロッドは、CION ハンドル部分の穴に合わせて使用します。このロッドにより、ビューファインダーマウントをカメラ本体の近くや離れた位置にスライドさせることが可能になります。これは、利き目が左目のカメラマンにとって非常に便利です。

ビューファインダーマウントにビューファインダーや小型モニターを取り付けるには、同梱の 1/4-20 ネジを使用します。

LANC カラー

図 36. LANC カラー



CION には LANC カラーが 1 つ付属しています。このスタート / ストップ用トリガーは、追加の AJA 純正ハンドグリップや 任意の 15mm ロッドベースアクセサリに取り付けて使用できます。

LANC カラーは任意の 15mm ロッドにつまみネジで取り付けます。LANC カラーは、オプションの AJA 純正 LANC ケーブルも含め、任意の LANC ケーブルと組み合わせて使用できます。

LANC コイルケーブル

図 37. LANC コイルケーブル



直角コネクタを備えた1～3フィートのLANCコイルケーブルは、リモートコントロールハンドグリップを使用する際に、LANC カラーアクセサリと合わせて使用するのに最適です。

LANC ケーブル (短)

直角コネクタを備えた短い直線ケーブルは、トップハンドルおよびLANC カラー (CION に付属) と合わせて使用するのに最適です。このケーブルを紛失してしまった場合は、代替品としてこのケーブルを再度入手することができます。

7 インチ 15mm ロッド

図 38. 7 インチ 15mm ロッド



この7インチ15mmのネジ式ロッドは、コンパクトプライムレンズ、マットボックス、フォーフォーカス、フロントベースプレートアクセサリを使用する際に活躍します。このロッドは1/2"-13ネジ式となっているため、一般的なサードパーティ製のロッド、エクステンション、アクセサリ各種と合わせて使用できます。

ハンドグリップ

図 39. ハンドグリップ



15mm ロッドベースのハンドグリップは、手持ち撮影に対応するよう、各種アクセサリ（ロッド - ロゼットマウント、LANC カラー、LANC コイルケーブル、延長アーム）と組み合わせて使用できます。

付録資料 A: 仕様

ユーザーインターフェース

- 6つの専用メニューボタン (STATUS、CONFIG、MEDIA、FPS、EI、WB)
- 4つの操作ボタン (再生、早送り、巻き戻し、停止)
- メディアアンマウントボタン x 1
- レコードボタン x 1
- ユーザーインターフェース調節ノブ x 1
- 320x240 LCD ユーザーインターフェースディスプレイ x 1

センサータイプ

- CMOS、電子グローバルシャッター

センサーサイズ

- APS-C サイズ、22.5mm x 11.9mm (対角 25.5mm)

レンズマウント

- PL (ポジティブロック)

フィルター

- 光学式ローパスフィルター (OLPF) と IR カットフィルター (混合)

リムーバブルストレージ

- AJA Pak モジュール

ビデオ出力

- SDI メイン出力 x 4 (BNC コネクタ x 4、3G/1.485Gbps)
- SDI モニター出力 x 2 (フロント部: BNC コネクタ x 1、リア部: BNC コネクタ x 1、3G/1.485Gbps)
- HDMI 出力 x 2 (フロント部: HDMI v1.3 タイプ A コネクタ、リア部: HDMI v1.4 タイプ A コネクタ)

オーディオ入力

- バランスアナログオーディオ入力 x 2 (入力ごとに line/mic/48v 選択スイッチが付いた 3-pin の XLR コネクタ x 2)

オーディオ出力

- ヘッドフォンジャック x 1 (3.5mm ステレオ ミニ TRS)

リファレンス入力

- リファレンス入力 x 1 (BNC コネクタ、アナログカラーブラック)

タイムコード

- LTC x 1 (BNC コネクタ、0.5 ~ 4.5Vpp)

ネットワークインターフェース

- LAN コネクタ x 1 (RJ45 コネクタ、10/100/1000)

フォーマット / フレームレート / エンコーディング / 出力情報

- 4K:
 - 4K (4096x2160) プログレッシブ 23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60/119.88/120
 - 最高 30 fps の Apple ProRes 444 または Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 50/59.94/60 fps の Apple ProRes 422 (またはよりデータレートが低いバージョンの ProRes)
 - 23.98/24/25/29.97/30 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 YCbCr、SDI 1 ~ 4 RGB、SDI 1 RAW)
 - 50/59.94/60 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 YCbCr、SDI 1 ~ 2 RAW)
 - 119.88/120 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 RAW)
- Ultra HD:
 - Ultra HD (3840x2160) プログレッシブ 23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60/119.88/120
 - 最高 30 fps の Apple ProRes 444 または Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 50/59.94/60 fps の Apple ProRes 422 (またはよりデータレートが低いバージョンの ProRes)
 - 23.98/24/25/29.97/30 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 YCbCr、SDI 1 ~ 4 RGB、SDI 1 RAW)
 - 50/59.94/60 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 YCbCr、SDI 1 ~ 2 RAW)
 - 119.88/120 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 4 RAW)
- 2K:
 - 2K (2048x1080) プログレッシブ 23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60
 - 最高 30 fps の Apple ProRes 444 または Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 50/59.94/60 fps の Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 23.98/24/25/29.97/30 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 YCbCr、SDI 1 ~ 2 RGB、SDI 1 RGB)
 - 50/59.94/60 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 2 YCbCr、SDI 1 YCbCr)
- 1080 HD プログレッシブ:
 - 1080 HD (1920x1080) プログレッシブ 23.98/24/25/29.97/30/50/59.94/60
 - 最高 30 fps の Apple ProRes 444 または Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 50/59.94/60 fps の Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 23.98/24/25/29.97/30 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 YCbCr、SDI 1 ~ 2 RGB、SDI 1 RGB)
 - 50/59.94/60 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 ~ 2 YCbCr、SDI 1 YCbCr)
- 1080 HD インターレース:
 - 1080 HD (1920x1080) インターレース 25/29.97/30
 - 最高 30 fps の Apple ProRes 422 (すべてのバージョン)
 - 最高 30 fps の SDI 出力に対応 (SDI 1 YCbCr)

露光指数 (EI)

- 320
- 500
- 800
- 1000

ホワイトバランス

- 3200K
- 4500K
- 5600K
- プリセット / オートホワイトバランス

重量

- 6.4 ポンド /2.9 kg (トップハンドルを除く)
- 7.4 ポンド /3.4 kg (トップハンドルを含む)

電源

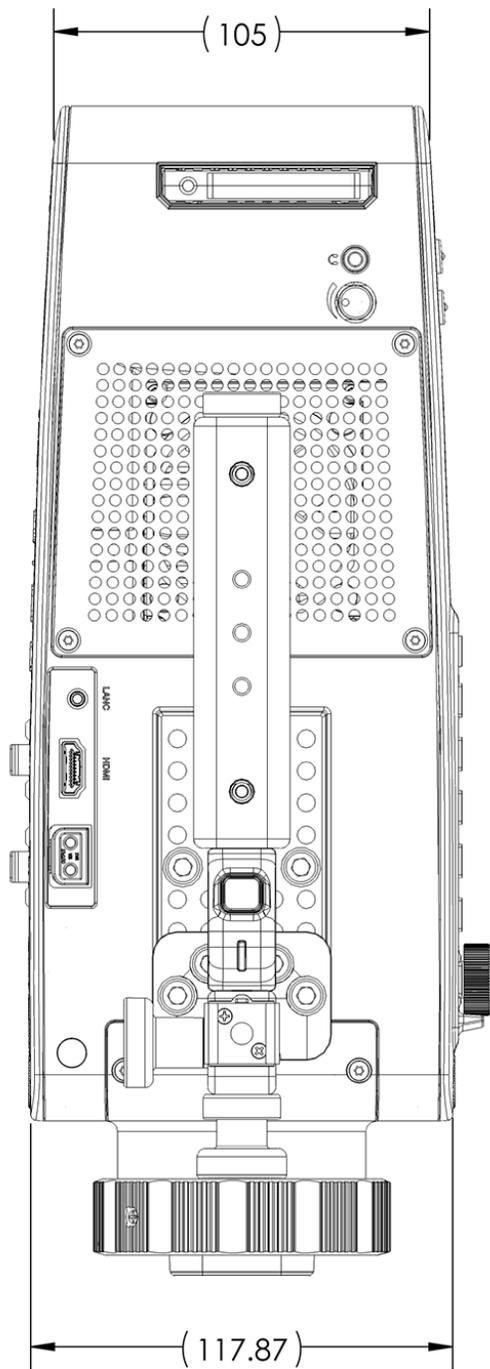
- AC 範囲：100 ~ 240 VAC 50/60Hz (AC アダプター)
- DC 範囲：12 ~ 18Vdc、最大 5A (4 ピン XLR コネクタ、または 2 ピン入力コネクタ)
- 消費電力：通常 38 ~ 42W、最大 45 ~ 47W (注記：2-pin 出力コネクタからの消費電力は含まない)
- 出力：2-pin 出力コネクタ、推奨：最大 10W

温度範囲

- 安全な操作温度：5 °C ~ 40 °C
- 安全な保管温度 (電源オフ時)：-30 °C ~ 70 °C

本体サイズ

図 1. CION トップ寸法



トップ部

図 2. CION コネクタ面寸法

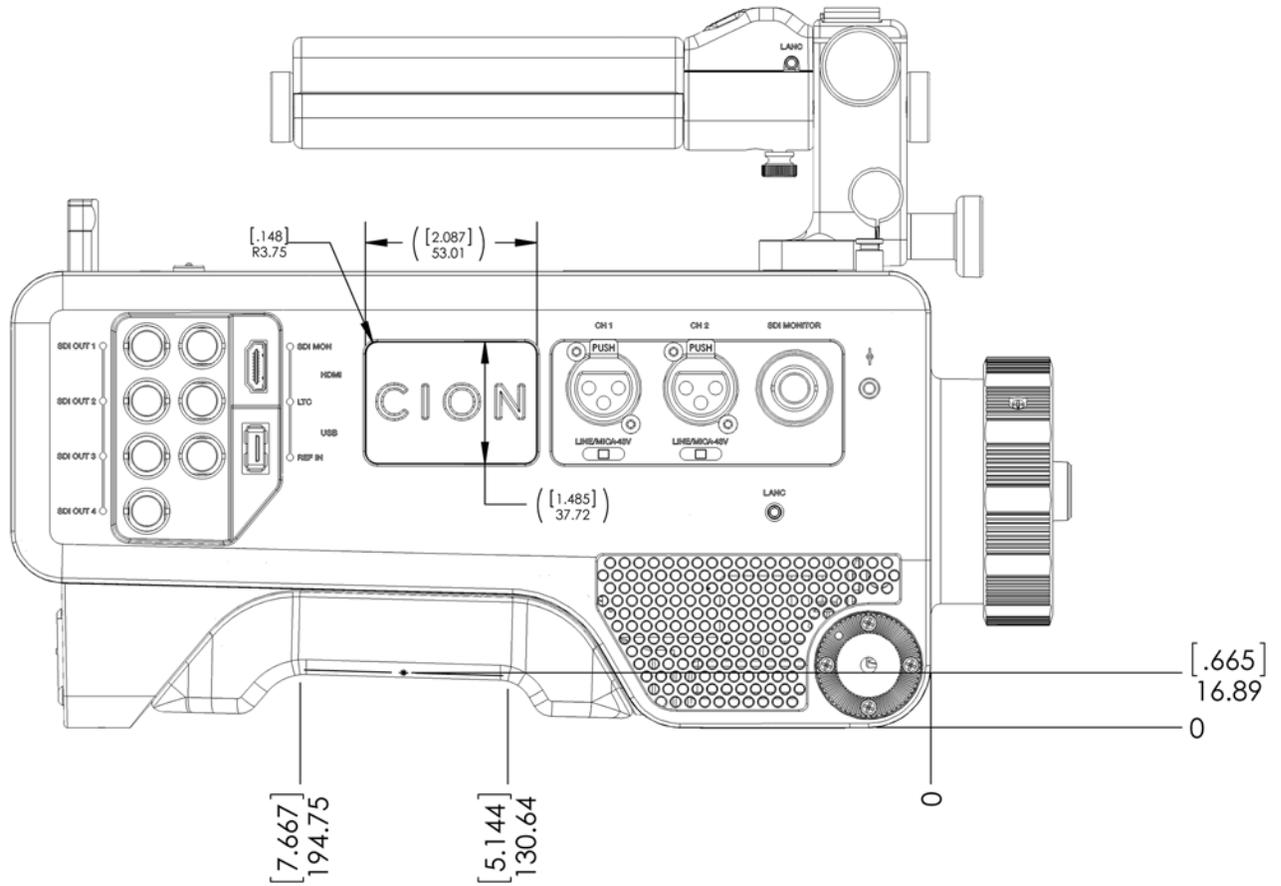
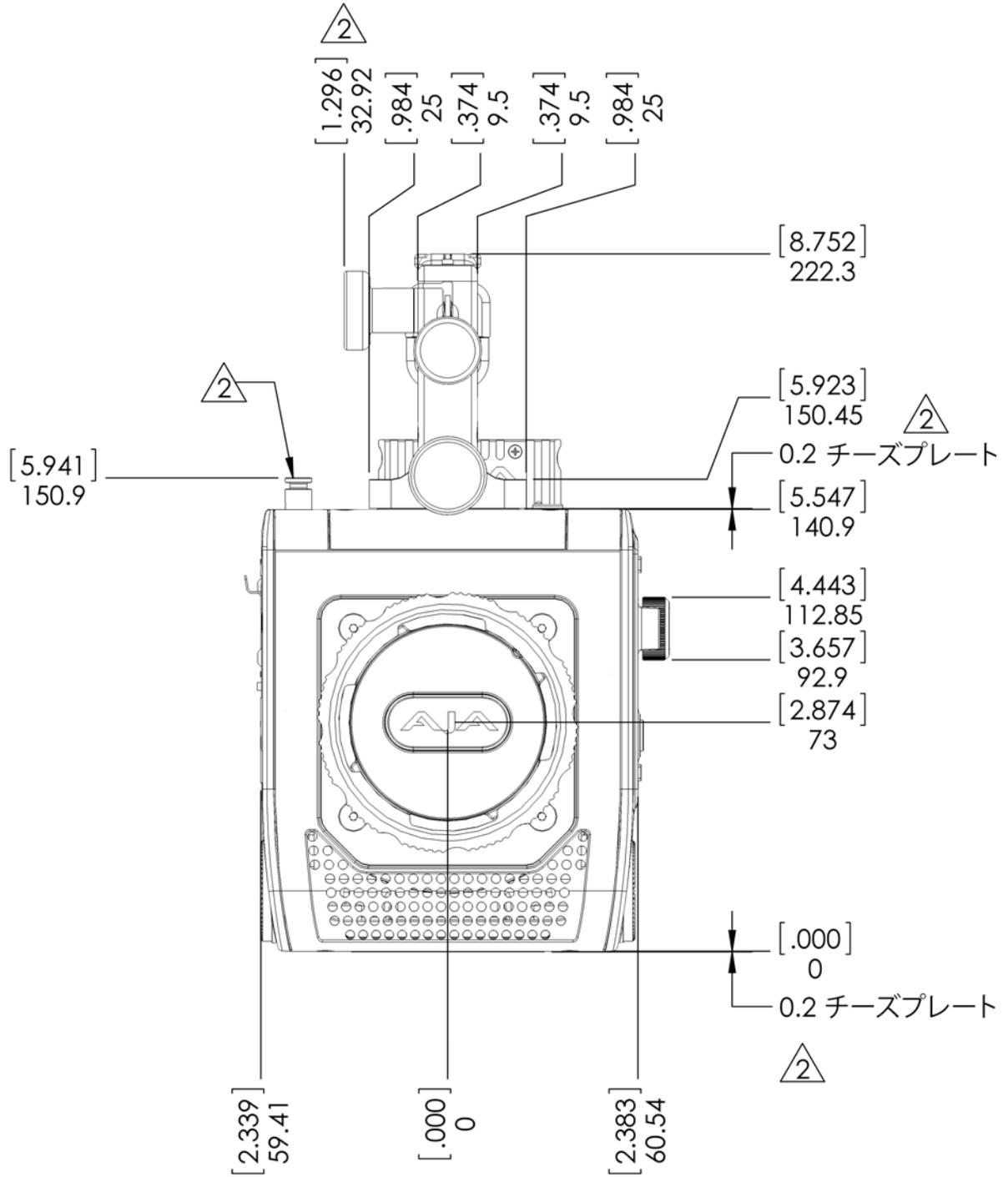
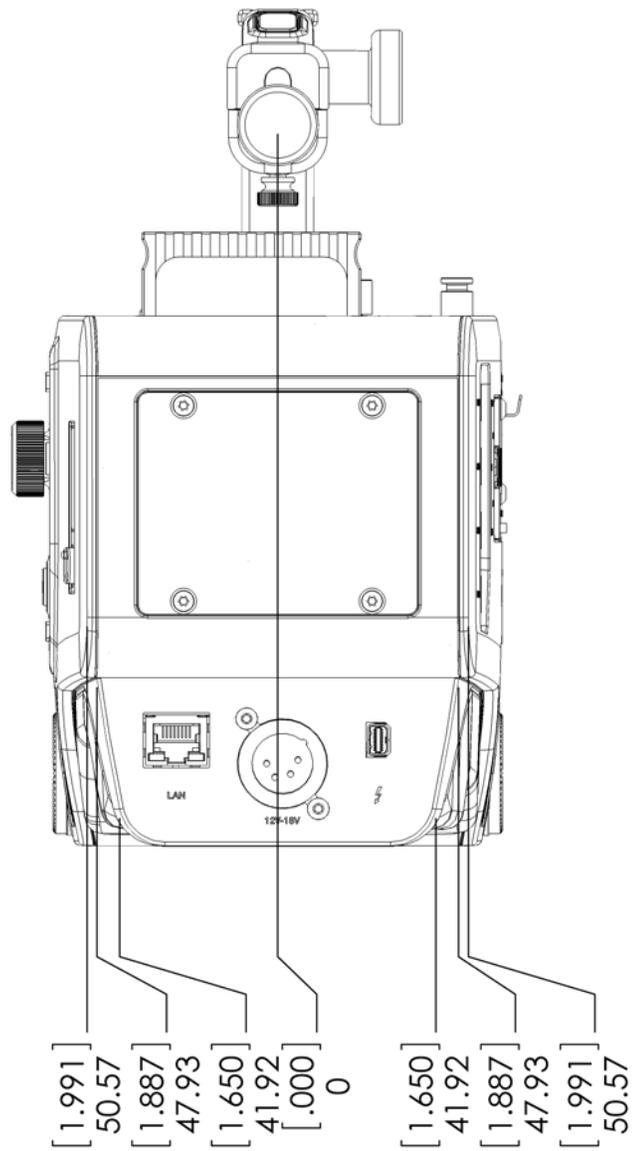


図 3. CION フロント寸法



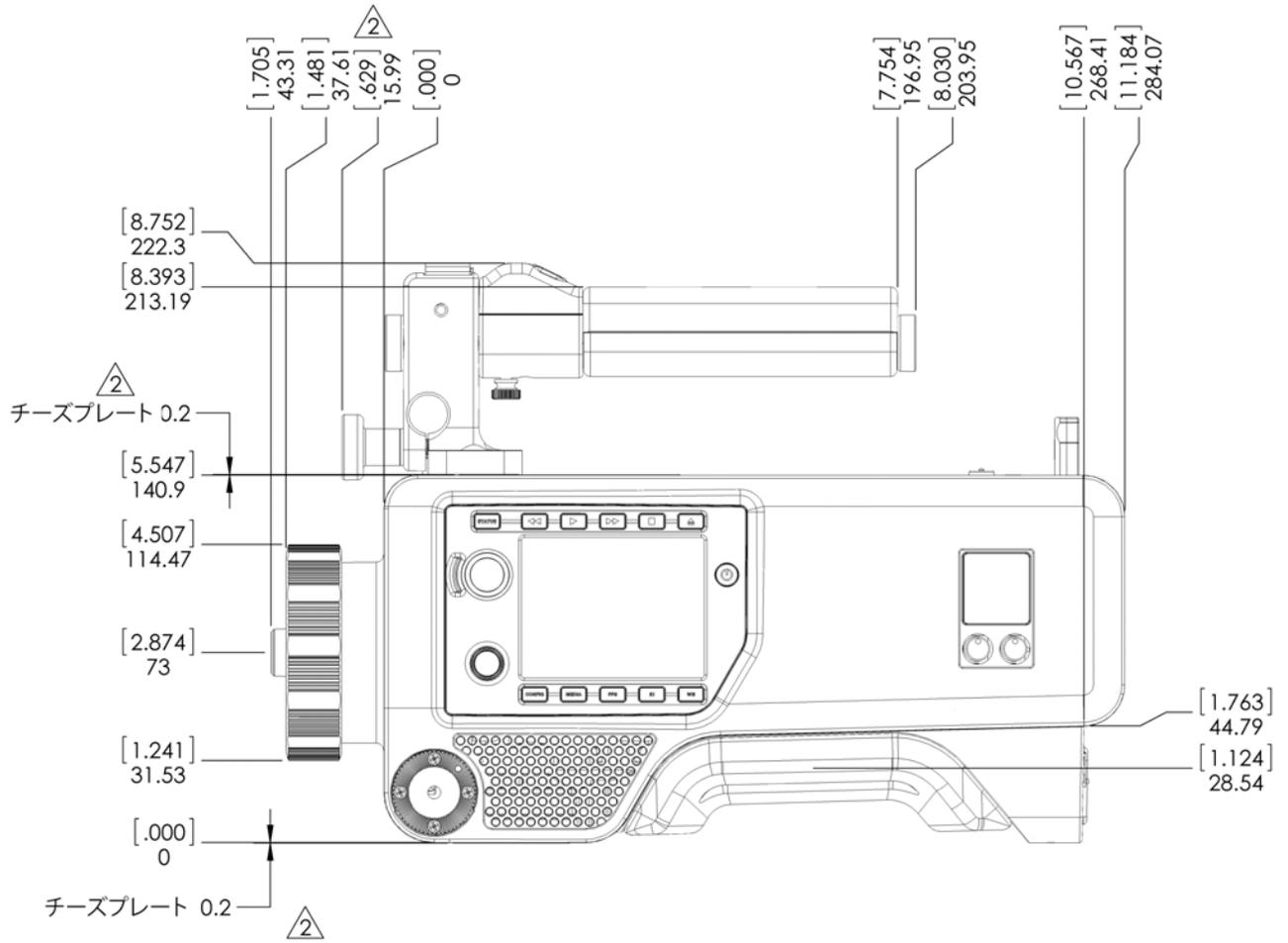
フロント部

図 4. CION バック寸法



リア部

CION オペレーター面寸法



オペレーター側

付録資料 B: 安全性とコンプライアンス

連邦通信委員会（FCC）の準拠に関する通知

Class B 製品の電波障害に関する情報

本機器は、FCC 規定サブパート B パート 15 に準ずる Class B デジタル機器の制限事項に適合することが、試験によって確認されています。これらの制限事項は、住宅地での使用時に生じ得る有害な電波障害を規制するために制定されたものです。この機器は電磁波を生成および使用し、電磁波を放出する可能性があります。指示に従って設定および使用されない場合は、無線通信に対して有害な干渉を引き起こすおそれがあります。ただし、特定の設置状態において、干渉が発生しないという保証はありません。この機器は無線またはテレビの受信に対して有害な干渉を引き起こし、機器電源をオンとオフに切り替えることによってこの干渉を確認できる場合は、以下の対策の 1 つ以上を実施して干渉を是正することをお勧めします。

- 受信アンテナの向きや位置を変える。
- 機器と受信機の距離を広げる。
- 受信機が接続されている回路とは異なる回路にあるコンセントに機器を接続する。
- 販売店または経験の豊富な無線 / テレビ技術者に問い合わせる。

FCC に関する注意事項

このデバイスは FCC 規則パート 15 に準拠しています。その動作には次の 2 つの条件が適用されます。(1) このデバイスは、有害な干渉を引き起こさないと考えられる。(2) このデバイスは、望ましくない動作を引き起こしうる干渉を含め、受信するすべての干渉を受け入れなければならない。

カナダ ICES 宣言

カナダ通信省の無線干渉に関する規制

本デジタル機器は、カナダ通信省の電波障害規制において規定されている、電波ノイズ放射に関する Class B の制限を超えるものではありません。Class B に属する本デジタル機器は、カナダの ICES-003 に準拠しています。

Règlement sur le brouillage radioélectrique du ministère des Communications

Cet appareil numérique respecte les limites de bruits radioélectriques visant les appareils numériques de classe A prescrites dans le Règlement sur le brouillage radioélectrique du ministère des Communications du Canada. Cet appareil numérique de la Classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

欧州連合および欧州自由貿易連合（EFTA）規制の遵守

この機器は、欧州連合および欧州自由貿易連合の加盟国内で動作させることができます。このマニュアルでは、これらの国（次ページの一覧を参照）は欧州共同体と呼ばれ、以下の各国がこれに属します。

オーストリア、ベルギー、ブルガリア、キプロス、チェコ共和国、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルグ、マルタ、オランダ、ポーランド、スロベニア、スペイン、スウェーデン、英国、アイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、スイス

適合宣言

この記号のマークは、欧州連合 2004/108/EC EMC 指令の必須要件に準拠していることを示します。



この機器は以下の適合基準を満たしています。

安全性: EN 60065: 2002 + A1 : 2006 + A11: 2008 + A2: 2010 + A12: 2011 (GS ライセンス)

ライセンス取得済みの基準: IEC 60065: 2001 + A1: 2005 + A2: 2010、(CB スキームレポート / 証明書) UL60065: 2003 R9.12 (NRTL ライセンス)、CSA C22.2.60065: 2003 +A1: 06 +A2:12

特定の国については、申請に応じて追加ライセンスが発行されています。

エミッション: EN 55103-1: 2009

EN 61000-3-2 (2009-04)、EN 61000-3-3 (2008-06)

イミュニティ: EN 55103-2: 2009

EN 61000-4-2 (2008-12)、EN 61000-4-3 (2010-04)、EN 61000-4-4 (2011-03)、
EN 61000-4-5 (2005-11)、EN 61000-4-6 (2008-10)、EN 61000-4-11 (2004-03)

国際市場の要求に応じ、この製品では、その他の国固有の基準に合わせたライセンスも提供されます。



警告！

本製品は Class B 製品です。住宅環境では、この製品が無線干渉を引き起こす場合があります。この場合、ユーザーは適切な対策を講じなければならないことがあります。

Achtung! Dieses ist ein Gerät der Funkstörgrenzwertklasse A. In Wohnbereichen können bei Betrieb dieses Gerätes Rundfunkstörungen auftreten, in welchen Fällen der Benutzer für entsprechende Gegenmaßnahmen verantwortlich ist.

Attention! Ceci est un produit de Classe B. Dans un environnement domestique, ce produit risque de créer des interférences radioélectriques, il appartiendra alors à l'utilisateur de prendre les mesures spécifiques appropriées.

国際市場の要求に応じ、この製品では、その他の国固有の基準に合わせたライセンスも提供されます。

韓国 KCC 適合宣言

B급 기기 (가정용 방송통신기자재)	이 기기는 가정용(B급) 전자파적합기기로서 주로 가정에서 사용하는 것을 목적으로 하며, 모든 지역에서 사용할 수 있습니다.
Class B (Broadcasting Communication Equipment for Home Use)	As an electromagnetic wave equipment for home use (Class B), this equipment is intended to use mainly for home use and may be used in all areas.

台湾適合宣言

本製品は、標準検験局（BSMI：Bureau of Standards, Metrology and Inspection）CNS 13438、Class B の基準に基づく Class B 製品です。

適合宣言（日本）

<p>2. Class B ITE</p> <p>この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。</p> <p>取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。</p> <p style="text-align: right;">V C C I - B</p>

本製品は、VCCI 協会の基準に基づく Class B 製品です。一般的な家庭環境において、本製品をラジオやテレビ受信機の近くで使用した場合、受信障害を引き起こす可能性があります。本製品は、取扱説明書に従って正しく取り扱ってください。

リサイクルに関する通知

	<p>製品または製品パッケージに付いているこのシンボルは、当該製品を他の家庭用ごみと一緒に廃棄してはならないことを表します。所有者には、これら廃棄物を指定の収集場所に引き渡すことにより、責任を持って電気および電子廃棄物のリサイクルを行うことが求められます。不要になった電気および電子機器を廃棄時に分別収集してリサイクルすることにより、資源保護が促進されるだけでなく、私たちの健康や環境を保護する手段でリサイクルに貢献することが可能になります。リサイクル対象廃棄物の収集場所に関する詳細は、地域の担当機関または販売店までお問い合わせください。</p>
---	--

警告と注意

この製品とマニュアルには、以下の注意事項、警告表記、警告メッセージが適用されます。



Warning Symbol



Caution Symbol

製品のご使用前に、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告！ 製品上またはマニュアルに記載されているすべての注意事項と指示を読み、必ずそれに従ってください。</p> <p>Avertissement ! Lisez et conformez-vous à tous les avis et instructions d'avertissement indiqués sur le produit ou dans la documentation.</p> <p>Warnung! Lesen und befolgen Sie die Warnhinweise und Anweisungen, die auf dem Produkt angebracht oder in der Dokumentation enthalten sind.</p> <p>¡Advertencia! Lea y siga todas las instrucciones y advertencias marcadas en el producto o incluidas en la documentación.</p> <p>Aviso! Leia e siga todos os avisos e instruções assinalados no produto ou incluídos na documentação.</p> <p>Avviso! Leggere e seguire tutti gli avvisi e le istruzioni presenti sul prodotto o inclusi nella documentazione.</p>
---	---

	<p>警告！ このデバイスを水の近くで使用しないでください。お手入れの際は、乾いた布のみを使用してください。</p> <p>Avertissement! N'utilisez pas cet appareil près de l'eau et nettoyez-le seulement avec un tissu sec..</p> <p>Warnung! Das Gerät nicht in der Nähe von Wasser verwenden und nur mit einem trockenen Tuch säubern.</p> <p>¡Advertencia! No utilice este dispositivo cerca del agua y límpielo solamente con un paño seco.</p> <p>Aviso! Não utilize este dispositivo perto da água e limpe-o somente com um pano seco.</p> <p>Avviso! Non utilizzare questo dispositivo vicino all'acqua e pulirlo soltanto con un panno asciutto.</p>
---	--

	<p>警告！ 通気口は塞がないでください。製造元の定める手順に従って設置してください。</p> <p>Avertissement! Ne bloquez aucune ouverture de ventilation. Suivez les instructions du fabricant lors de l'installation.</p> <p>Warnung! Die Lüftungsöffnungen dürfen nicht blockiert werden. Nur gemäß den Anweisungen des Herstellers installieren.</p> <p>¡Advertencia! No bloquee ninguna de las aberturas de la ventilación. Instale de acuerdo con las instrucciones del fabricante.</p> <p>Aviso! Não obstrua nenhuma das aberturas de ventilação. Instale de acordo com as instruções do fabricante.</p> <p>Avviso! Non ostruire le aperture di ventilazione. Installare in conformità con le istruzioni del fornitore.</p>
---	---

	<p>警告！ ラジエーター、ヒートレジスター、コンロ、またはその他の熱を発生する器具（増幅器を含む）の付近に設置しないでください。</p> <p>Avertissement! N'installez pas l'appareil près d'une source de chaleur telle que des radiateurs, des bouches d'air de chauffage, des fourneaux ou d'autres appareils (amplificateurs compris) qui produisent de la chaleur.</p> <p>Warnung! Nicht in der Nähe von Wärmequellen wie Heizkörpern, Heizregistern, Öfen oder anderen Wärme erzeugenden Geräten (einschließlich Verstärkern) aufstellen.</p> <p>¡Advertencia! No instale cerca de fuentes de calor tales como radiadores, registros de calor, estufas u otros aparatos (incluidos amplificadores) que generan calor.</p> <p>Aviso! Não instale perto de nenhuma fonte de calor tal como radiadores, saídas de calor, fogões ou outros aparelhos (incluindo amplificadores) que produzam calor.</p> <p>Avviso! Non installare vicino a fonti di calore come termosifoni, diffusori di aria calda, stufe o altri apparecchi (amplificatori compresi) che emettono calore.</p>
---	---



警告！

安全のため、有極プラグ / アース端子付きプラグは適切に使用してください。有極プラグは、2つのブレードの片方が幅広になっています。アース端子付きプラグには、2つのブレードとアース棒が付いています。幅広のブレードやアース棒は、使用者の安全を守るためのものです。製品に付属するプラグがコンセントの差し込み口に合わない場合は、電気工事業者に相談し、コンセントを交換してください。

Avertissement! La sécurité de la prise polarisée ou de la prise de type mise à la terre ne doit en aucun cas être empêchée de fonctionner. Une prise polarisée a deux broches, l'une étant plus large que l'autre. Une prise de type mise à la terre a deux broches et une troisième broche pour la mise à la terre. La broche large ou la troisième broche sont fournies pour votre sécurité. Si la prise fournie ne s'insère pas dans votre prise femelle, consultez un électricien pour le remplacement de la prise femelle obsolète.

Warnung! Der Sicherheitszweck des gepolten bzw. Schukosteckers ist zu berücksichtigen. Ein gepolter Stecker verfügt über zwei Pole, von denen einer breiter als der andere ist. Ein Schukostecker verfügt neben den zwei Polen noch über einen dritten Pol zur Erdung. Der breite Pol bzw. der Erdungspol dienen der Sicherheit. Wenn der zur Verfügung gestellte Stecker nicht in Ihren Anschluss passt, konsultieren Sie einen Elektriker, um den veralteten Anschluss zu ersetzen.

¡Advertencia! No eche por tierra la finalidad del tipo de enchufe polarizado con conexión a tierra. Un enchufe polarizado tiene dos espigas, una más ancha que la otra. Un enchufe con conexión a tierra tiene dos espigas iguales y una tercera espiga que sirve para la conexión a tierra. La espiga ancha, o la tercera espiga, sirven para su seguridad. Si el enchufe suministrado no encaja en el tomacorriente, consulte con un electricista para reemplazar el tomacorriente obsoleto.

Aviso! Não anule a finalidade da segurança da ficha polarizada ou do tipo ligação terra. Uma ficha polarizada tem duas lâminas sendo uma mais larga do que a outra. Uma ficha do tipo de ligação à terra tem duas lâminas e um terceiro terminal de ligação à terra. A lâmina larga ou o terceiro terminal são fornecidos para sua segurança. Se a ficha fornecida não couber na sua tomada, consulte um electricista para a substituição da tomada obsoleta.

Avviso! Non compromettere la sicurezza della spina polarizzata o con messa a terra. Una spina polarizzata ha due spinotti, di cui uno più largo. Una spina con messa a terra ha due spinotti e un terzo polo per la messa a terra. Lo spinotto largo o il terzo polo sono forniti per motivi di sicurezza. Se la spina fornita non si inserisce nella presa di corrente, contattare un elettricista per la sostituzione della presa obsoleta.

**警告！**

電源コードのプラグやコンセント、機器との付け根部分などが、踏まれたり挟まれたりしないよう注意してください。

Avertissement! Protégez le cordon d'alimentation pour que l'on ne marche pas dessus ou qu'on le pince, en particulier au niveau des prises mâles, des réceptacles de convenance, et à l'endroit où il sort de l'appareil.

Warnung! Vermeiden Sie, dass auf das Netzkabel getreten oder das Kabel geknickt wird, insbesondere an den Steckern, den Steckdosen und am Kabelausgang am Gerät.

¡Advertencia! Proteja el cable de energía para que no se le pise ni apriete, en especial cerca del enchufe, los receptáculos de conveniencia y el punto del que salen del equipo.

Aviso! Proteja o cabo de alimentação de ser pisado ou de ser comprimido particularmente nas fichas, em tomadas de parede de conveniência e no ponto de onde sai do dispositivo.

Avviso! Proteggere il cavo di alimentazione in modo che nessuno ci cammini sopra e che non venga schiacciato soprattutto in corrispondenza delle spine e del punto in cui esce dal dispositivo.

**警告！**

雷雨の発生中や長期間使用しない場合は、プラグをコンセントから抜いてください。

Avertissement! Débranchez cet appareil pendant les orages avec éclairso s'il est inutilisé pendant de longues périodes.

Warnung! Das Gerät ist bei Gewitterstürmen oder wenn es über lange Zeiträume ungenutzt bleibt vom Netz zu trennen.

¡Advertencia! Desenchufe este dispositivo durante tormentas eléctricas o cuando no se lo utilice por largos periodos del tiempo.

Aviso! Desconecte este dispositivo da tomada durante trovoadas ou quando não é utilizado durante longos períodos de tempo.

Avviso! Utilizzare soltanto i collegamenti e gli accessori specificati e/o venduti dal produttore, quali il treppiedi e l'esoscheletro.



警告！

シャーシは開けないでください。ユーザーが調整/修理可能な部品はシャーシ内に含まれていません。AJA のサービスセンターまたは認可施設以外でシャーシが開けられた製品は、保証が無効になります。

Avertissement! Ne pas ouvrir le châssis. Aucun élément à l'intérieur du châssis ne peut être réparé par l'utilisateur. La garantie sera annulée si le châssis est ouvert par toute autre personne qu'un technicien d'un centre de service ou d'un établissement agréé AJA.

Warnung! Öffnen Sie das Gehäuse nicht. Keine der Geräteteile können vom Benutzer gewartet werden. Durch das Öffnen des Gehäuses wird die Garantie hinfällig, es sei denn, solche Wartungsarbeiten werden in einem AJA-Service-Center oder einem lizenzierten Betrieb vorgenommen.

¡Advertencia! No abra el chasis. El interior no contiene piezas reparables por el usuario. El abrir el chasis anulará la garantía a menos que se lo haga en un centro de servicio AJA o en un local autorizado.

Advertência! Não abra o chassi. Não há internamente nenhuma peça que permita manutenção pelo usuário. Abrir o chassi anula a garantia, a menos que a abertura seja realizada por uma central de serviços da AJA ou por um local autorizado.

Avvertenza! Non aprire lo chassis. All'interno non ci sono parti riparabili dall'utente. L'apertura dello chassis invaliderà la garanzia se non viene effettuata da un centro ufficiale o autorizzato AJA.



警告！

本製品は Class B 製品です。住宅地でこの機器を動作させると、有害な干渉を引き起こすことがあります。この場合、ユーザーは費用自己負担で干渉を是正するために必要な対策を講じなければなりません。

Attention! Le périphérique est un produit de Classe B. Le fonctionnement de cet équipement dans une zone résidentielle risque de causer des interférences nuisibles, auquel cas l'utilisateur devra y remédier à ses propres frais.

Achtung! Dies ist ein Gerät der Klasse B. Bei Einsatz des Geräts in Wohngebieten kann es Störungen des Radio- und Fernsehempfangs verursachen. In diesem Fall muss der Benutzer alle notwendigen Maßnahmen ergreifen, die möglicherweise nötig sind, um die Störungen auf eigene Rechnung zu beheben.

¡Precaución! Este es un producto clase B. El uso de este equipo en áreas residenciales puede causar interferencias nocivas, en cuyo caso, se requerirá que los usuarios tomen cualquier medida necesaria para corregir la interferencia por cuenta propia.

Cuidado! Este dispositivo é um produto Classe B. Operar este equipamento em uma área residencial provavelmente causará interferência prejudicial; neste caso, espera-se que os usuários tomem as medidas necessárias para corrigir a interferência por sua própria conta.

Attenzione! Questo dispositivo è un prodotto di Classe B. Il funzionamento di questo apparecchio in aree residenziali potrebbe causare interferenze dannose, nel cui caso agli utenti verrà richiesto di adottare tutte le misure necessarie per porre rimedio alle interferenze a proprie spese.

**警告！**

機器を移動する際は、先に外部 AC 電源のコードを主電源から抜いてください。

Avertissement! Retirez le ou les cordons d'alimentation en CA de la source d'alimentation principale lorsque vous déplacez l'appareil.

Warnung! Trennen Sie die Wechselstrom-Versorgungskabel vom Netzstrom, bevor Sie das Gerät verschieben.

¡Advertencia! Cuando mueva la unidad desenchufe de la red eléctrica el/los cable (s) de la fuente de alimentación CA tipo brick.

Advertência! Remova os cabos CA de alimentação brick da rede elétrica ao mover a unidade.

Avvertenza! Scollegare il cavo dell'alimentatore quando si sposta l'unità.

**警告！**

修理については、必ず有資格の修理担当者にお問い合わせください。電源コードまたはプラグが損傷した場合、液体をこぼした場合、物体がデバイス上に落下した場合、デバイスが雨または湿気にさらされた場合、正常に動作しない場合、またはデバイスを落としてしまった場合など、デバイスの損傷時には修理が必要です。

Avertissement ! Référez-vous au personnel de service qualifié pour tout entretien. L'entretien est exigé quand l'appareil a été endommagé de quelque manière que ce soit, par exemple lorsque le cordon d'alimentation ou la prise sont endommagés, que du liquide a été versé ou des objets sont tombés dans l'appareil, que l'appareil a été exposé à la pluie ou à l'humidité, ne fonctionne pas normalement ou est tombé.

Warnung! Das Gerät sollte nur von qualifizierten Fachkräften gewartet werden. Eine Wartung ist fällig, wenn das Gerät in irgendeiner Weise beschädigt wurde, wie bei beschädigtem Netzkabel oder Netzstecker, falls Flüssigkeiten oder Objekte in das Gerät gelangen, das Gerät Regen oder Feuchtigkeit ausgesetzt wurde, nicht ordnungsgemäß funktioniert oder fallen gelassen wurde.

¡Advertencia! Consulte al personal calificado por cuestiones de reparación. El servicio de reparación se requiere cuando el dispositivo ha recibido cualquier tipo de daño, por ejemplo cable o espigas dañadas, se ha derramado líquido o se han caído objetos dentro del dispositivo, el dispositivo ha sido expuesto a la lluvia o humedad, o no funciona de modo normal, o se ha caído.

Aviso! Remeta todos os serviços de manutenção para o pessoal de assistência qualificado. A prestação de serviços de manutenção é exigida quando o dispositivo foi danificado mediante qualquer forma, como um cabo de alimentação ou ficha que se encontra danificado/a, quando foi derramado líquido ou caíram objectos sobre o dispositivo, quando o dispositivo foi exposto à chuva ou à humidade, quando não funciona normalmente ou quando foi deixado cair.

Avviso! Fare riferimento al personale qualificato per tutti gli interventi di assistenza. L'assistenza è necessaria quando il dispositivo è stato danneggiato in qualche modo, ad esempio se il cavo di alimentazione o la spina sono danneggiati, è stato rovesciato del liquido è stato rovesciato o qualche oggetto è caduto nel dispositivo, il dispositivo è stato esposto a pioggia o umidità, non funziona correttamente o è caduto.



警告！

メーカーが指定 / 販売する付属品やアクセサリ以外は使用しないでください。

Avertissement! Utilisez seulement les attaches et accessoires spécifiés et/ou vendus par le fabricant.

Warnung! Verwenden Sie nur Zusatzgeräte und Zubehör angegeben und / oder verkauft wurde durch den Hersteller.

¡Advertencia! Utilice solamente los accesorios y conexiones especificados y/o vendidos por el fabricante.

Aviso! Utilize apenas equipamentos/acessórios especificados e/ou vendidos pelo fabricante.

Avviso! Utilizzare soltanto i collegamenti e gli accessori specificati e/o venduti dal produttore.

保証と責任に関する情報

限定的保証

AJA Video は、ハードディスクベースのストレージモジュール（HDD）を除く製品について、購入日から2年間にわたって材質上および製造上の欠陥がないことを保証します。ハードディスクベースのストレージモジュール（HDD）については、購入日から1年間にわたって材質上および製造上の欠陥がないことを保証します。保証期間中に製品の欠陥が見つかった場合、AJA Video は、その独自の判断により、部品代や工賃を請求することなく、欠陥製品を修理するか、欠陥製品の交換品を提供します。

この保証に基づくサービスを受けるには、お客様は本保証期間の失効前に、欠陥について AJA Video に通知し、サポートページ (<http://www.aja.com/support/index.php>) に記載されている方法を通じて AJA Video サポートにサービスを実施するための適切な手配を行うことを要請する必要があります。特に明示されている場合を除き、修理に必要な部品代や工賃を除く、輸送、梱包、保険、その他の費用は、お客様の負担となります。お客様は不良品を梱包し、送料元払いで AJA Video 指定のサービスセンターまでお送りいただく必要があります。AJA Video は製品のお客様への返送費用を負担しますが、これは AJA Video サービスセンターが設置されている国に限定されます。

過失や、不適切な使用、取扱、保守に起因する不具合、故障、損傷は、本保証の対象となりません。上記事項を制限することなく、a) AJA Video の代理人以外の者による製品の設置、修理、取扱の試みに起因する損傷や故障、b) 不適切な使用または互換性のない機器との接続に起因する損傷や故障、c) AJA Video 純正以外の部品や消耗品の使用に起因する損傷や故障、d) 製品が改造または他製品と統合され、その影響によって製品修理の所要時間や難易度が助長されている場合、e) 落下、過大な力、湿気、腐食性 / 伝導性物質への曝露、強い磁界への曝露、適切に安定化されていない電源での使用、電撃への曝露、指定の動作範囲外の温度環境での使用、慎重に扱うべき精巧な電子機器に対する適切な配慮基準に従わずに本製品を取り扱ったことによる損傷や故障に対して、AJA Video は、本保証に基づくサービスの提供、または損傷や故障した製品を修理する義務を負いません。

上記を除き、AJA Video およびその販売会社は、明示的か暗黙的かを問わず、商品性または特定目的に対する無制限の保証を含む、その他の一切の保証責任を完全に否定するものとします。報告された不良品を適時修理または交換する AJA Video の責任は、お客様に提供される唯一かつ排他的な救済手段となります。

本製品においては、エラーなく連続して動作することが意図、明言、保証されるものではありません。ユーザーは、本製品が唯一または主なデータソースとして使用されること、または重要データを対象とすることを意図していないことを理解し、これに同意するものとします。また、予備の保存手段およびバックアップシステムを適切に利用する責任はユーザーにあることを理解し、これに同意するものとします。

限定責任

いかなる場合においても AJA Video は、本製品、ソフトウェア、ハードウェアの不具合またはその他のいかなる原因から生じたか否かを問わず、AJA Video が損害の可能性を事前に通知されていた場合においても、本製品に関係するデータ、映像、作業内容の、消失、破損、破壊、その他の間接的、特殊、偶発的、必然的な損害に関する第三者からの請求に対して責任を負いません。AJA Video の本製品に対する責任は、いかなる場合においても本製品に対して支払われた購入価格を超えないものとします。

索引

数字

- 2-Pin 電源コネクタ 21
- 2-pin 電源入力コネクタ 16
- 3G SDI 出力レベル (A/B) 37
- 4-pin XLR 17
- 7セグメント LED 26

A

- AC/DC 電源 17
- AJA Pak Dock 27
- Alpha アペンド 55
- Apple ProRes 27

C

- CAT 5 Ethernet ケーブル 67
- CION
 - Web 画面 70
 - システム 74
 - システム名 47
 - 操作方法 33
- システム名 47
- CION にファイルをアップロード 76
- テイク番号 56
- CONFIG (設定) パラメーター 36

E

- EI (露光指数) メニューオプション 60

F

- FPS に関する注意 59
- FPS メニュー 57

H

- HDMI 10-bit/8-bit 38
- HDMI 接続 19
- HDMI 出力
 - スケール / フルラスター 38
- HFS+ 27

I

- Interval Record 44
- IP アドレス 46

L

- LAN コネクタ 16
- LAN 接続 67
- LANC カラーケーブル接続 24
- LAN 設定 46
- LTC 入力 43

M

- MAC アドレス 47

P

- Pak Media
 - 挿入 25
 - 取り外し 25
- Pak Media の挿入 25
- Pak Media を取り外す 25
- PL レンズマウント 10, 19

R

- Ref In (リファレンス入力) 43
- ゲンロック 43
- RJ45 コネクタ 67

S

- SDI 1 ~ 4 Output (SDI 1 ~ 4 出力) メニューパラメーター 36
- SDI 12-bit/10-bit 37
- SDI 接続 19

T

- TCP/IP ネットワーク 46
- ネットワーク設定 46
- Thunderbolt 16

V

- VU メーター 26

W

- WARNING
 - backup and reformat 25
- Web サーバー 66

X

- XLR 電源コネクタ 16

Z

- 出荷時設定 35

あ

- アスペクト比グリッド 41
- アスペクト比の値 41
- アナログオーディオ入力 43
- 安全に関する情報 97

い

- 色設定 63

お

オーディオ/ビデオ接続 13
オーディオ機器の接続 26
オーディオテスト信号 45
オーディオ入力レベルの調整 26
温度条件 50

か

確認用画像 12
カスタムクリップ名 56
過電圧 17
稼働時の電圧 17
カメラ名 54
カレンダー 48

き

キーのバックライト 50
黄色の文字 34

く

グリッドオーバーレイ 41
クリップ
名前 55
番号 55
クリップ間の移動 30
クリップのキューアップ 78

け

警告
安全性 97
バッテリー残量低下 26
警告と警報 64
ゲンロック 43
ゲンロックの適用 43

こ

出荷時設定へのリセット 35
出荷時の設定 51
出荷時の設定へのリセット 51

さ

サードパーティ製バッテリー 17
再生 30
ドロップフレーム 53
名前 53
再生ボタン 30
再生設定 52
彩度設定 63
撮影 29
撮影したクリップの削除 32
サマータイム 49

し

シグナルジェネレーター 45
時刻 43
設定 48
システム名 47
シャッター情報
角度 61
速度 61
シャッタースピード 61
jam sync 43
重量のあるレンズ 19
仕様 89
ジョグ 31
白い文字 34

す

スーパーインポーズデータの背景不透明度 40
推奨 Web ブラウザ 67
スクリーンセーバー 49
ステータス情報 64
スレーブ名 57
スローモーションファイル 58

せ

セーブしたプリセットのロード 50
接続 13
サイド 13
トップ 14
設定オプション
EI (露光指数) 34
FPS (1 秒あたりのフレーム数) 34
WB (ホワイトバランス) 34
一般 34
メディア 34

た

代替リア部ドア 17
タイム
ゾーン 49
タイムコードソース 43
タイムラプス撮影 44
タリーランプ 29

ち

調整ノブ
オーディオ 26
ヘッドフォンのボリューム 26

て

データ-LAN 76
データ転送 51
データモード 52
テイク番号 56
適合宣言 97

適切にエンコードされたクリップ 77
テスト信号 45
デフォルトゲートウェイ 74
デフォルト表示モード 33
電源コード 17
電源接続 16
電子ビューファインダーの電源 21

と

トップ部の接続 14
トランスポートボタン 30

な

内蔵シグナルジェネレーター 45
内部冷却ファン 50

ね

ネットワーク設定 46

の

ノンドロップフレーム 44

は

バックフォーカスアクセスドア 10
バッテリーアダプタープレート 17
バッテリー残量低下警告 26
バッテリープレート 16
早送りボタン 30

ひ

ヒストグラムモード 43
ビューファインダー 21

ふ

ファームウェアのアップデート 71
ファン速度 50
フォーマットと 1 秒あたりのフレーム数 57
複数の CION 74
複数のパラメーター値の入力 35
プリセット画面 73
プリセットのセーブ 51, 73
プリセットファイルのインポート 73
プリセットファイルのセーブ 74
プリセットファイルのロード 74
フレームレート 58
フレームガイドライン 41
プレイリスト 52
プレイリストの作成 78
プログレッシブ収録の出力 36

ほ

ボトム部のマウント 15
ホワイトバランス 63

ま

マウント用ベースプレート 15
マスター/スレーブユニット 74
マスター名 57

み

緑のインジケータランプ 17

め

メディアフォーマット 53
メディアスロット 14
メディア設定 51
メディアのフォーマット 53
メディアモード 76
メディアリーダー 27
メディアをフォーマット 31
メニューパラメーターを終了する 35
メニュー構造 34
メニューコントロール 11
メニュー情報 12
メニューパラメーター 29, 34
メニューパラメーターを選択する 34

も

モニター 21
モニタリング機器 19

ゆ

ユーザーインターフェースディスプレイ 12

り

リール名 54
リール名の作成 54
リア部ドア 16
クリップの削除 54
リスト内のクリップの順番を変更 79

る

ループ再生 53

れ

レコードボタン 29
連結クリップ名 56
レンズノッチ 19
連動撮影 57, 74